

基本物理 (44152)

前期

Basic Physics

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	中山広文

授業の概要

物理の本質は論理的にものを考える力である。どのような考え方をしてこのような法則に気づいたのか、この法則からどのような仮定をすると実際の自然現象が説明できるようになるのかというプロセスを追っていくと、論理的な積み上げが理解できるようになる。

この講義は、力学的な内容を中心として前述のプロセスを体験することによって論理的な考え方を身につけることが目的である。論理的な積み上げができることによって物理が少しずつ楽しくなるような内容になっている。

到達目標

- ニュートンの3法則を理解することによって、物体がどのような運動をするかを予測できる。
- 様々な物理現象をエネルギーの変換と保存の観点から説明できる。

評価方法

課題提出等の平常点40%（到達目標1-2を評価）と定期試験の成績60%（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

- 演習課題は必ず解くこと。

授業計画

回数	内容
第1回	力の表し方と合成・分解（1）
第2回	力の表し方と合成・分解（2）
第3回	力の種類
第4回	力のつりあい
第5回	作用反作用の法則
第6回	剛体と力のモーメント
第7回	速度と加速度
第8回	慣性の法則
第9回	運動方程式（1）
第10回	運動方程式（2）
第11回	重力場と重力による運動
第12回	仕事
第13回	運動エネルギー・位置エネルギー
第14回	力学的エネルギー
第15回	運動量

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回復習として、演習課題を出題する。解答はWeb上の解答フォームへの入力を基本とする。

教科書

使用しない

参考書

初歩の物理－力学・電磁気入門－ 小野文久著 裳華房

備考

(なし)

基本英語（44201）

前期

Basic English

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。

英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

【フィードバック】テストは採点・返却・解説を行い、フィードバックの実施とする。

到達目標

1. 時制などの基礎から関係詞まで包括的に文法を見直す
2. 復習した文法を簡単な会話や読み物に应用することができる

評価方法

小テスト（30%）（到達目標1）中間テスト（30%）（到達目標1・2）定期テスト（40%）（到達目標1・2）

高大連携・リメディアルの科目であるので、卒業単位にはカウントされない。

注意事項

卒業単位にカウントされない科目でも英語の基礎力を復習したいという熱意を忘れず最後まで努力を惜しまないこと
テスト以外は辞書を積極的（電子辞書は求めるが、スマホの使用は不可）にひくこと

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・目標設定・自己紹介等
第2回	Be動詞の現在形と過去形・命令文
第3回	現在形と現在進行形・代名詞
第4回	過去形と過去進行形・過去形と過去完了
第5回	時を表す前置詞・数えられる名詞と数えられない名詞
第6回	be going toとwill・助動詞
第7回	等位接続詞と2語で成り立つ接続詞・YesNo疑問文
第8回	中間まとめ
第9回	場所と移動を表す前置詞・Wh-疑問文
第10回	a, an, the, oneとones・他動詞と自動詞
第11回	能動態と受動態・形容詞
第12回	動名詞と不定詞・形容詞の比較級と最上級
第13回	副詞・従位接続詞
第14回	関係詞・So do IやNeither do Iなどの表現
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週に行うUnitのGrammar BusterとComplete the TableおよびThink and Do (Check Linkに入力)

復習

小テスト対策及び授業で行ったことの定着

教科書

English Upload (金星堂) ISBN978-4-7647-3949-9

参考書

使いやすい英和辞典(電子辞書は認めるが、授業内でスマホは使用不可)(自宅学習はWeblioなども可)

備考

基本英語（44251）

後期

Basic English

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

リメディアルのクラスとして高校3年生までに身につけるべき文法事項を総復習する。

英語IとIIの準備や補助として、特に学科のクラス編成でアルファベットの後に2のついているクラスの学生に受けることを勧める。

【フィードバック】テストは採点・返却・解説を行い、フィードバックの実施とする。

到達目標

1. 時制などの基礎から関係詞まで包括的に文法を見直す
2. 復習した文法を簡単な会話や読み物に活用することができる

評価方法

小テスト（30%）（到達目標1） 中間テスト（30%）（到達目標1・2） 定期テスト（40%）（到達目標1・2）

高大連携・リメディアルの科目であるので、卒業単位にはカウントされない。

注意事項

卒業単位にカウントされない科目でも英語の基礎力を復習したいという熱意を忘れず最後まで努力を惜しまないこと

テスト以外は辞書を積極的（電子辞書は求めるが、スマホの使用は不可）にひくこと

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・目標設定・自己紹介等
第2回	Be動詞の現在形と過去形・命令文
第3回	現在形と現在進行形・代名詞
第4回	過去形と過去進行形・過去形と過去完了
第5回	時を表す前置詞・数えられる名詞と数えられない名詞
第6回	be going toとwill・助動詞
第7回	等位接続詞と2語で成り立つ接続詞・YesNo疑問文
第8回	中間まとめ
第9回	場所と移動を表す前置詞・Wh-疑問文
第10回	a, an, the, oneとones・他動詞と自動詞
第11回	能動態と受動態・形容詞
第12回	動名詞と不定詞・形容詞の比較級と最上級
第13回	副詞・従位接続詞
第14回	関係詞・So do IやNeither do Iなどの表現
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週に行うUnitのGrammar BusterとComplete the TableおよびThink and Do（Check Linkに入力）

復習

小テスト対策及び授業で行ったことの定着

教科書

English Upload (金星堂) ISBN978-4-7647-3949-9

参考書

使いやすい英和辞典 (電子辞書は認めるが、授業内でスマホは使用不可) (自宅学習はWeblioなども可)

備考

基本数学 (44353)

前期

Basic Mathematics

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	洲脇史朗

授業の概要

大学での講義受講や卒論作成のためには、さまざまな計算に習熟していることが望ましい。ただし、それは広範囲に及ぶため、この講義では特に重要と思われる内容に絞って講義をする。毎回の課題として、受講ノートの作成を求め、それをレポートとして提出する。

到達目標

- 高校までに学んだ基礎的な数学を復習し、毎回の演習を通してその定着を図り、今後の大学での授業や研究に役立てることができる。
- 自分が所属する学科で必要とされる数学的知識を確認し、卒業研究に対応できる数学力を獲得するための学習計画を作成することができる。

評価方法

到達目標1：毎回のレポート提出（30%）、定期試験（50%）

到達目標2：各自が所属する学科で卒業までに必要とされる数学力を調べ、その数学力を獲得するための学習計画の提出（20%）

注意事項

積極的な取り組みを継続すること。

授業計画

回数	内容
第1回	数と文字式
第2回	一次方程式
第3回	因数分解
第4回	二次方程式
第5回	図形と三角比
第6回	三角関数
第7回	指数関数
第8回	対数関数
第9回	微分法 I
第10回	微分法 II
第11回	積分法 I
第12回	積分法 II
第13回	数列
第14回	極限
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

前回の講義で学んだ内容を必ず復習してから、授業に臨むこと。

卒業研究までに必要な数学力を調べること。

教科書

教科書使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

高校までの、使い慣れた数学参考書を持参し、利用すること。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

基本化学 (44501)

前期

Basic Chemistry

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的性質を論理的に説明できる基礎力の養成を目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能などを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験60%（到達目標1, 3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質と化学反応Ⅱ：物質、溶液の濃度
第9回	物質と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度とpH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
 - ・ 復習として、課題レポートを6回出題する。
 - ・ レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
 - ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。
-

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・卜部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

基本化学 (44551)

後期

Basic Chemistry

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤恒夫

授業の概要

自然現象や物質の化学的性質を理論的に考えて説明するには、化学の基礎的な知識が必要である。この講義では、多くの化学的な基礎知識を身につけて自然現象や物質の化学的性質を論理的に説明できる基礎力の養成を目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能などを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 基本化学の考え方を、化学反応式、基礎理論、物質の化学的性質などを用いて理解し説明できる。
- 2 基本化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける基本化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験60%（到達目標1, 3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教養の「化学」も受講するとより理解が深まる。
- ・関数電卓を用意しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	人間生活と化学
第2回	物質の成り立ちⅠ：物質の成分、物質の三態
第3回	物質の成り立ちⅡ：原子の構造と電子配置、周期表と元素の性質
第4回	化学結合Ⅰ：イオン結合
第5回	化学結合Ⅱ：共有結合
第6回	化学結合Ⅲ：金属結合
第7回	物質と化学反応Ⅰ：原子量、分子量、式量
第8回	物質と化学反応Ⅱ：物質、溶液の濃度
第9回	物質と化学反応Ⅲ：化学反応式、化学反応の量的関係
第10回	酸と塩基Ⅰ：酸と塩基、水素イオン濃度とpH
第11回	酸と塩基Ⅱ：塩の性質
第12回	酸と塩基Ⅲ：酸と塩基の中和
第13回	酸化還元反応Ⅰ：酸化と還元、酸化剤と還元剤
第14回	酸化還元反応Ⅱ：電池
第15回	酸化還元反応Ⅲ：電気分解

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み。概略をつかんでおくこと。
 - ・ 復習として、課題レポートを6回出題する。
 - ・ レポートなどは、最初に人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
 - ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。
-

教科書

化学基礎の必修整理ノート・文栄堂・卜部吉庸・9784578242789

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

英語Ⅲ (88101)

前期

English III

教養科目

年次	2年
対象	27～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語Ⅲに続き、より高度な英語力養成のため、実際に英米の学生が視聴するCNNの番組を使用した教科書を使用し、とくにリスニング・読解力を発展させる。

【フィードバック】すべてのテストを採点・返却・解説することで、フィードバックする

到達目標

1. 実用的な語彙を身につける
2. 各自シャドーイングを繰り返し、リスニング力を向上させる
3. リスニングだけでは困難な部分はスクリプトを確認し、リーディングにより理解を補うことができる

評価方法

小テスト (30%) (到達目標 1) 中間テスト (30%) (到達目標 1・2) 定期テスト (40%) (到達目標 1・2)

注意事項

耳を慣らすために、シャドーイングを毎日すること

予習・復習をすることで授業の理解を深化させること

テスト時以外は積極的に辞書をひいて不明瞭なところを残さないこと

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・レベルチェック・目標確認
第2回	Future Offices
第3回	Solar Belch
第4回	Tug-of-War
第5回	Spotting Misinformation
第6回	Mr.Trash Wheel
第7回	Mission to the Moon
第8回	中間まとめ
第9回	Desert Control
第10回	Ice Cream Delivery
第11回	Autumn Leaves
第12回	Magellan Telescope
第13回	Robodog
第14回	Better Solar Panels
第15回	総合まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週のUnitのWarm Up, Vocabulary, Vocabulary Exercise, Topic Paragraph

復習

小テスト用の勉強

復習プリント

ストーリーミングの音声とともに黙読や音読

シャドーイング

教科書

CNN10Student News Vol.10 (朝日出版社)

ISBN978-4-255-15678-1

参考書

使用しやすい英和辞典（電子辞書でもよいが、スマホは授業内での使用不可とする）（自宅学習の際はWeblio等利用可）

備考

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。科学に関連したトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書をいれれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけて応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20% (到達目標2・3), 小テスト 20% (到達目標3), 中間まとめ 30% (到達目標1・2), 定期試験 30% (到達目標1・2) により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1 Sink or Swim Survival of the Fittest
第3回	Unit 1 Sink or Swim Survival of the Fittest
第4回	Unit 2 Biology of Microbes Great Contributions from the Smallest Creatures
第5回	Unit 2 Biology of Microbes Great Contributions from the Smallest Creatures
第6回	Unit 3 The Last Moment Matters Behind the Survival Race

回数	内容
第7回	Unit 3 The Last Moment Matters Behind the Survival Race
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 7 Pollution Solution Breathe in the Air
第10回	Unit 7 Pollution Solution Breathe in the Air
第11回	Unit 8 Natural Hazards Turning Up the Heat
第12回	Unit 8 Natural Hazards Turning Up the Heat
第13回	Unit 10 Underground Source of Energy Geothermal Power Plants in Iceland
第14回	Unit 10 Underground Source of Energy Geothermal Power Plants in Iceland
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文は本文の音声を聞き、音読をする。

教科書

Science Stream 覗いてみよう、科学の世界

Phillip Rowles, Yoshinobu Nozaki, Kazuko Matsumoto

(SEIBIDO, 2,090円)

ISBN978-4-7919-7246-3

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。Sustainable Development Goals (SDGs) に関する英文を読み、SDGs達成に向けた現状を理解し、自分の暮らしとの関連性について考える。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。
中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15% (到達目標1・4を評価)、小テスト20% (到達目標3を評価)、中間テスト 25%、(到達目標1・2・3を評価)、定期試験 40% (到達目標1・2・3を評価) により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1: No Poverty (Vocabulary/Listening/Speaking)
第3回	Unit 1: No Poverty (Reading)
第4回	Unit 2: Zero Hunger (Vocabulary/Listening/Speaking)
第5回	Unit 2: Zero Hunger (Reading)
第6回	Unit 3: Good Health and Well-being (Vocabulary/Listening/Speaking)
第7回	Unit 3: Good Health and Well-being (Reading)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 4: Quality Education (Vocabulary/Listening/Speaking)
第10回	Unit 4: Quality Education (Reading)
第11回	Unit 5: Gender Equality (Vocabulary/Listening/Speaking)
第12回	Unit 5: Gender Equality (Reading)
第13回	Unit 6: Clean Water and Sanitation (Vocabulary/Listening/Speaking)
第14回	Unit 6: Clean Water and Sanitation (Reading)
第15回	Review: Unit 4-6

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Warm-up」「Vocabulary」「Comprehension」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・本文などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：MAKING CHOICES—Exploring Your Approach to SDGs

著者：Miki Tagashira, Fergus Hann, Reiko Fujita

出版社：センゲージラーニング

ISBN：978-4-86312-394-6

※後期の「英語Ⅱ」でも同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17B
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

TOEICの出題形式に従ったテキストを使用し、読解力のみならずListeningもトレーニングすることで就職や進学にも有利なスキルを身につける。

【フィードバック】

すべてのテストは採点・返却・解説を行う。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけて応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

小テスト (30%) (到達目標 3) 中間テスト (30%) (到達目標 1・2) 定期テスト (40%) (到達目標 1・2)

注意事項

小テストはチャイムの鳴り終わりと同時に始めるので、遅刻せず参加のこと。

必要に応じて英和辞典（電子辞書可・スマホは不可）を持参する。

座席は指定するが、音声が聞こえにくいなど不都合がある場合は申し出てほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・Unit 1 (TOEICの紹介)
第2回	Unit 2 人物が写っている写真、名詞・形容詞・副詞
第3回	Unit 3 モノ・風景が写っている写真、動詞①
第4回	Unit 4 疑問視で始まる疑問文①、動詞②
第5回	Unit 5 疑問詞で始まる疑問文②、不定詞と動名詞
第6回	Unit 6 Yes / No疑問文、接続表現
第7回	中間まとめ
第8回	Unit 7 提案・依頼、選択疑問文、代名詞
第9回	Unit 8 発言に対する応答、長文穴埋め問題
第10回	Unit 9 日常場面での会話、文書の読み方
第11回	Unit 10 オフィスでの会話、お知らせ
第12回	Unit 11 図表を見ながら聞き取る、eメール・手紙
第13回	Unit 12 アナウンス・トーク①、新聞や雑誌などの記事
第14回	Unit 13 アナウンス・トーク①、チャット
第15回	Unit 14 留守番電話、複数の文書

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

VocabularyとWarm-up (Listening とReading)

復習

小テストの勉強

該当週の全体的な復習

(Readingの必要箇所) (Listening 部分のWarm-upとExerciseのシャドーイング)

教科書

Practical Exercises to Get the Hang of the TOEIC L & R Test (朝日出版社)

ISBN978-4-255-15684-2

参考書

使いやすい英和辞典

備考

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17B
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書をいれれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20% (到達目標2・3), 小テスト 20% (到達目標3), 中間まとめ 30% (到達目標1・2), 定期試験 30% (到達目標1・2) により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第4回	Unit 2 Foods
第5回	Unit 2 Foods
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 3 Foreign Language Learning
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 4 Sports

回数	内容
第10回	Unit 4 Sports
第11回	Unit 5 Fashion
第12回	Unit 5 Fashion
第13回	Unit 6 Living Things
第14回	Unit 6 Living Things
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文や会話文は音声聞き、音読をする。

教科書

AMBITIONS Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース：初級編

Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki

(KINSEIDO, 2,090円)

ISBN978-4-7647-4054-9

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

英会話 I (88106)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 Huynh Khanh

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。

海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1.自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2.ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3.頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口について出るようになる。

評価方法

クラスの態度/出席：30%(到達目標2) 宿題/クイズ：40% (到達目標1・3) 最終プロジェクト：30% (到達目標1・2・3)

注意事項

自ら口を開いてトレーニングせねば無意味な授業なので、積極的に英語を話してほしい。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1: It's Nice to Meet You

第3回 Unit 2: I Don't Like Big Cities

第4回 Unit 3: I'm at a Coffee Shop

第5回 Unit 4: Take the Second Left

第6回 Review 1:

第7回 Unit 5: There Are Some Trees on the Left

第8回 Unit 6: I have a Little Brother

第9回 Unit 7: There Isn't Any Bread

第10回 Review 2:

第11回 Unit 8: David's Apartment Is on the Third Floor

第12回 Unit 9: What's Michelle Doing?

第13回 Unit 10: Carmen's Wearing a Green Dress

第14回 Unit 11: I can Speak French

第15回 Review 3:

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間 ヴォキャブラリーの予習 30分 小テストの準備 30分 授業の復習としてのシャドーイング練習 30分×6

教科書

書名：Communicate

著者：David Paul

出版社：Compass

ISBN 978-1-59966-176-6

参考書

なし

備考

なし

英語 I (K1) (88107)

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17K
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。多岐に渡るトピックに触れ、多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを発信するスキルを習得する。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。
中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15%（到達目標1・4を評価）、小テスト20%（到達目標3を評価）、中間テスト 25%、（到達目標1・2・3を評価）、定期試験 40%（到達目標1・2・3を評価）により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1: Goals in College Life (Reading/Listening)
第3回	Unit 1: Goals in College Life (Writing/Speaking)
第4回	Unit 2: Totoro Travels to Nepal (Reading/Listening)
第5回	Unit 2: Totoro Travels to Nepal (Writing/Speaking)
第6回	Unit 3: Sightseeing in London (Reading/Listening)
第7回	Unit 3: Sightseeing in London (Writing/Speaking)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 4: Sushi (Reading/Listening)
第10回	Unit 4: Sushi (Writing/Speaking)
第11回	Unit 5: Fashion Trends (Reading/Listening)
第12回	Unit 5: Fashion Trends (Writing/Speaking)
第13回	Unit 6: Shodo (Reading/Listening)
第14回	Unit 6: Shodo (Writing/Speaking)
第15回	Review: Unit 4-6

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Listening: Exercise 1-3」「Reading: Exercise 1-2」「Writing: Exercise 1-2」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・本文などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：Amazing Visions of the Future —Aspects of Human Activity—

著者：伊與田洋之, 赤塚麻里, 土居峻, 梶浦真由美, Marikit G. Manalang, 室淳子

出版社：南雲堂

ISBN：978-4-523-17888-0

※後期の「英語Ⅱ」でも同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17K
単位数	2.0単位
担当教員	谷川真利子

授業の概要

- 1 教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
- 2 英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】

- ・ 単元ごとに重要表現が含まれる英文を全員に日本語に訳して提出させ、添削後返却し理解の徹底を図る。
- ・ 中間考査の実施後、返却時に解説する。
- ・ 単元ごとの小テストでは、毎回、誤答について添削し返却する。
- ・ 課題レポートについて、解答例を提示し解説を行う。
- ・ 授業実施後、毎回アンケートを実施、授業で理解できたこと、できなかったことを記入させ、理解できなかった内容の記述があれば、記入者または内容によっては全員に、次の時間に解説する。

【ICTを活用した双方向型授業】

- ・ 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- 授業内容や英文の読み方を予め、または授業実施後に提示し、予習復習に活用させる。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。
- 4.基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5.扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト 15%（到達目標 1, 2, 3 を評価）、レポート 15%（到達目標 2, 5 を評価）、定期試験 70%（中間考査 30%、期末考査 40%、到達目標 1, 2, 3, 4 を評価）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 Who Is Pepper?
第3回	Unit 2 What's It Like to Be a Self-Sufficient Family?
第4回	Unit 3 Why Did Starbucks Become a Hit in Japan?
第5回	Unit 4 How Do Americans Celebrate Halloween?
第6回	Unit 6 Are You Going Cashless?
第7回	Unit 7 Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long?
第8回	Unit 9 What Will Space Travel Be Like in the Future?
第9回	Unit 1～Unit 9 のまとめ
第10回	Unit 10 What Makes the Amazon One of the Most Amazing Places?

回数	内容
第11回	Unit 11 Who Can Be a YouTuber?
第12回	Unit 12 What Have Plastics Done to Our Oceans?
第13回	Unit 14 How Was Conveyor Belt Sushi Born?
第14回	Unit 15 How about Jeans that Have a History?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。
- 4 単元ごとに課される、重要表現が含まれる英文などをまとめたプリントを解いて提出する。

教科書

Reading Link 著者：Robert Hickling, Misato Usukura
金星堂：ISBN978-4-7647-4100-3 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。科学に関連したトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20%（到達目標2・3）、小テスト 20%（到達目標3）、中間まとめ 30%（到達目標1・2）、定期試験 30%（到達目標1・2）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 12 Ensuring Marine Resources Creating No-Take Zones
第3回	Unit 12 Ensuring Marine Resources Creating No-Take Zones
第4回	Unit 14 Nature Is Our Greatest Teacher Secrets of Biomimicry
第5回	Unit 14 Nature Is Our Greatest Teacher Secrets of Biomimicry
第6回	Unit 16 Intelligence Driving Our Future Changes in Personal Mobility

回数	内容
第7回	Unit 16 Intelligence Driving Our Future Changes in Personal Mobility
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 17 Hay Fever Horror Springing into a Fall in Health
第10回	Unit 17 Hay Fever Horror Springing into a Fall in Health
第11回	Unit 18 Pleasure Threshold Avoiding Drug Addiction
第12回	Unit 18 Pleasure Threshold Avoiding Drug Addiction
第13回	Unit 19 Stem Cell Heaven or Hell Judgment Day for New Research
第14回	Unit 19 Stem Cell Heaven or Hell Judgment Day for New Research
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文は本文の音声を聞き、音読をする。

教科書

Science Stream 覗いてみよう、科学の世界

Phillip Rowles, Yoshinobu Nozaki, Kazuko Matsumoto

(SEIBIDO, 2,090円)

ISBN978-4-7919-7246-3

参考書

英和辞典

備考

特になし

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17Y
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

Sustainable Development Goals (SDGs) に関する英文を読み、SDGs達成に向けた現状を理解し、自分の暮らしとの関連性について考える。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。

中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15%（到達目標1・4を評価）、小テスト20%（到達目標3を評価）、中間テスト 25%、（到達目標1・2・3を評価）、定期試験 40%（到達目標1・2・3を評価）により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 10: Reduced Inequalities (Vocabulary/Listening/Speaking)
第3回	Unit 10: Reduced Inequalities (Reading)
第4回	Unit 11: Sustainable Cities and Communities (Vocabulary/Listening/Speaking)
第5回	Unit 11: Sustainable Cities and Communities (Reading)
第6回	Unit 12: Responsible Consumption and Production (Vocabulary/Listening/Speaking)
第7回	Unit 12: Responsible Consumption and Production (Reading)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 13: Climate Action (Vocabulary/Listening/Speaking)
第10回	Unit 13: Climate Action (Reading)
第11回	Unit 14: Life below Water (Vocabulary/Listening/Speaking)
第12回	Unit 14: Life below Water (Reading)
第13回	Unit 15: Life on Land (Vocabulary/Listening/Speaking)
第14回	Unit 15: Life on Land (Reading)
第15回	Review: Unit 13-15

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Warm-up」「Vocabulary」「Comprehension」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・本文などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：MAKING CHOICES—Exploring Your Approach to SDGs

著者：Miki Tagashira, Fergus Hann, Reiko Fujita

出版社：センゲージラーニング

ISBN：978-4-86312-394-6

※前期の「英語 I」と同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17B
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

英語Iに引き続き、TOEICの問題形式の教科書を用い、読解能力に加えてリスニングスキルも身につけることで、就職や進学に活用できるようにする。

【フィードバック】

すべてのテストは採点・返却・解説する。

到達目標

- 辞書を用いば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト（30%）（到達目標3）、中間テスト（30%）（到達目標1・2）、定期テスト（40%）（到達目標1・2）

注意事項

小テストはチャイムの鳴り終わりとともに開始する

辞書を持参して積極的に学ぼう

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Unit 1 Daily Life
第3回	Unit 2 Office
第4回	Unit 3 Meeting & Event
第5回	Unit 4 Shopping
第6回	Unit 5 Advertisement & Notice
第7回	Unit 6 Restaurant & Food
第8回	Unit 7 Complaint & Inquiry
第9回	中間まとめ
第10回	Unit 8 Personnel
第11回	Unit 9 Travel
第12回	Unit 10 Business
第13回	Unit 11 Negotiation
第14回	Unit 12 Manufacturing & Logistics
第15回	Unit 13 Finance

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週のWarm-Up Questions、Words & Expressions、Practice

復習

小テストの準備

Readingの精読と音読

教科書

Basic Understanding of the TOEIC L&R Test

(金星堂) ISBN978-4-7647-4155-3

参考書

各自使いやすい英和辞典（授業内は電子辞書は可、スマホは不可）、自宅学習は自習用ダウンロード音声を使用。Weblioも使用可

備考

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17B
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20%（到達目標2・3）、小テスト 20%（到達目標3）、中間まとめ 30%（到達目標1・2）、定期試験 30%（到達目標1・2）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 7 Art
第3回	Unit 7 Art
第4回	Unit 8 Global Issues
第5回	Unit 8 Global Issues
第6回	Unit 9 Japanese Culture
第7回	Unit 9 Japanese Culture
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 10 Human Rights

回数	内容
第10回	Unit 10 Human Rights
第11回	Unit 11 Health & Medical Issues
第12回	Unit 11 Health & Medical Issues
第13回	Unit 12 Environmental Issues
第14回	Unit 12 Environmental Issues
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文や会話文は音声を聞き、音読をする。

教科書

AMBITIONS Elementary 4技能統合型で学ぶ英語コース：初級編

Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki

(KINSEIDO, 2,090円)

ISBN978-4-7647-4054-9

参考書

英和辞典

備考

特になし

英会話Ⅱ (88155)

後期

English Conversation II

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 Huynh Khanh

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。

海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1.日常会話に必要な語彙を覚え、正確に発音することができる。
- 2.人物表現、アドバイス、道案内などを、英語で伝えることができる。
- 3.質問を聞き取り、その質問に対し適切に回答することができる力を身につけ応用できる。
- 4.ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。

評価方法

クラスの態度/出席：30%(到達目標1) 宿題/クイズ：40% (到達目標1・2・3) 最終プロジェクト：30% (到達目標1・2・3・4)

注意事項

テキストを必ず購入し、事前に単語調べをし指示された問題を解いておく。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1: Hello

第3回 Unit 2: People

第4回 Unit 3: Things

第5回 Unit 4: Life

第6回 Review 1:

第7回 Unit 5: Routines

第8回 Unit 6: Journeys

第9回 Unit 7: Past

第10回 Review 2:

第11回 Unit 8: Places

第12回 Unit 9: Shopping

第13回 Unit 10.1: A new Job

第14回 Unit 10.2: Time for a change

第15回 Review 3:

授業外学習

学習時間の目安：合計約60時間 単語・問題の予習 30分 小テストの準備 30分 授業の復習としての音読練習 30分×6

教科書

書名：Speakout

著者：Frances Eales/ Steve Oakes

出版社：Pearson

ISBN 978-1-292-11598-6

参考書

なし

備考

なし

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17K
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。多岐に渡るトピックに触れ、多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを発信するスキルを習得する。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。
中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15%（到達目標1・4を評価）、小テスト20%（到達目標3を評価）、中間テスト 25%、（到達目標1・2・3を評価）、定期試験 40%（到達目標1・2・3を評価）により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 8: Ocean Blue (Reading/Listening)
第3回	Unit 8: Ocean Blue (Writing/Speaking)
第4回	Unit 9: Studying Abroad (Reading/Listening)
第5回	Unit 9: Studying Abroad (Writing/Speaking)
第6回	Unit 11: The Sound of the Saxophone (Reading/Listening)
第7回	Unit 11: The Sound of the Saxophone (Writing/Speaking)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 12: Communication Tips (Reading/Listening)
第10回	Unit 12: Communication Tips (Writing/Speaking)
第11回	Unit 14: Electric Cars (Reading/Listening)
第12回	Unit 14: Electric Cars (Writing/Speaking)
第13回	Unit 15: The Amazing Brain (Reading/Listening)
第14回	Unit 15: The Amazing Brain (Writing/Speaking)
第15回	Review: Unit 12, 14, and 15

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Listening: Exercise 1-3」「Reading: Exercise 1-2」「Writing: Exercise 1-2」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・本文などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：Amazing Visions of the Future —Aspects of Human Activity—

著者：伊與田洋之, 赤塚麻里, 土居峻, 梶浦真由美, Marikit G. Manalang, 室淳子

出版社：南雲堂

ISBN：978-4-523-17888-0

※前期の「英語Ⅰ」と同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17K
単位数	2.0単位
担当教員	谷川真利子

授業の概要

英語Ⅰに引き続いて

- 1 教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
- 2 英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】

- ・ 単元ごとに重要表現が含まれる英文を全員に日本語に訳して提出させ、添削後返却し理解の徹底を図る。
- ・ 中間考査の実施後、返却時に解説する。
- ・ 単元ごとの小テストでは、毎回、誤答について添削し返却する。
- ・ 課題レポートについて、解答例を提示し解説を行う。
- ・ 授業実施後、毎回アンケートを実施、授業で理解できたこと、できなかったことを記入させ、理解できなかった内容の記述があれば、記入者または内容によっては全員に、次の時間に解説する。

【ICTを活用した双方向型授業】

- ・ 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- 授業内容や英文の読み方を予め、または授業実施後に提示し、予習復習に活用させる。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。
- 4.基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5.扱われている話題について自分なりの考えを持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト 15%（到達目標 1, 2, 3 を評価）、レポート 15%（到達目標 2, 5 を評価）、定期試験 70%（中間考査 30%, 期末考査 40%, 到達目標 1, 2, 3, 4 を評価）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 This is my first trip abroad.
第3回	Unit 2 Do you have anything to declare?
第4回	Unit 3 How was your flight to Los Angeles?
第5回	Unit 4 Are you still feeling tired?
第6回	Unit 5 What are we going to do in the afternoon?
第7回	Unit 6 It's called Mountain Grove.
第8回	Unit 1～Unit 6 まとめ
第9回	Unit 7 How would you like your steak?
第10回	Unit 8 How long have you felt this way?

回数	内容
第11回	Unit 9 I think I'm lost.
第12回	Unit 10 Do you want me to take your picture?
第13回	Unit 11 I've lost my phone.
第14回	Unit 12 I love roller coasters!
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。
- 4 単元ごとに課される、重要表現が含まれる英文などをまとめたプリントを解いて提出する。

教科書

Let's Read Aloud & Learn English 著者：Teruhiko Kadoyama, Simon Capper, Toshiaki Endo
成美堂：ISBN978-4-7919-7226-5 C1082

参考書

特になし

備考

特になし

中国語 I (88201)

前期

Chinese I

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	趙慧欣

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

中国語の発音21の字音と36に母音を習う。日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターする。中国語で身の回りのことに関する表現の仕方を学習する。

日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているし、回答もテキストにあるので、語学を習得するには練習することは欠かせないことである。学生を主体とした授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

- 1 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターして活用できる。
- 2 基本文法、構文を身につけ応用できる。
- 3 中国語で自己紹介ができる、簡単な身の回りのこと述べたり、意思表示したりすることができる。

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるから、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音と音節
3. 21の子音 子音と母音の音節構成
4. 発音の練習 テスト
5. 自己紹介 本文の精読
6. 文法ポイント
- 7.私の朝 本文の精読
8. 文法ポイント
- 9.夏休みにたくさんのことをした
10. 文法ポイント
- 11私は2年前に日本に来たのです
12. 文法ポイント
13. 私はシャワをしていた
14. 文法ポイント
15. 総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
- 第 2回 基本母音6つの母音を書きながら覚えること
- 第 3回 母音の音節練習すること
- 第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること
- 第 5回 21の子音にある「zh ch sh r」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること
- 第 7回 本文を参考に自己紹介文を書く、練習問題をすること
- 第 8回 文法ポイントを復習する、練習問題をすること
- 第 9回 自分の休みにして作文を書くこと

第10回 練習問題をすること

第11回 「是……的」構文を理解し、自分のことを作文に書くこと

第12回 文法ポイントと練習問題をすること

第13回 「過去進行形」を理解し、文法ポイントを復習する。

第.14回 練習問題をすること

第.15回 総復習

教科書

大学教育出版 クイックマスター中国語 著者 趙慧欣 李夢迪

参考書

参考書

携帯にある日中辞書、中日辞書など 利用可能

備考

備考

練習問題を課題として各自でやる、時々講義中に正解と一緒に確認する

ハングル I (88202)

前期

Korean I

教養科目

年次	1年
対象	28～18芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	河智弘

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。韓国語の基礎を習得するために必要な文字、発音を学んだ上で、簡単な会話文をロールプレイなどで実践する。

到達目標

1. 韓国語の基礎的な文字、発音を理解し活用できる。
2. 韓国語で実際に使える日常会話ができる。

評価方法

授業への取り組みおよび小テスト60%（到達目標1-2を評価）、期末試験40%（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

授業の中では発表や会話を行うので積極的に取り組むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	講義の目的、概要、ハングルとは
第2回	文字（母音と子音）
第3回	パッチムと発音練習
第4回	自己紹介
第5回	名詞・これはいくらですか
第6回	韓国映画のことば
第7回	この人たちは誰ですか
第8回	動詞・読む練習「結婚写真」
第9回	何をしますか
第10回	読む練習「私たち教室」
第11回	何をなさっていますか
第12回	どこに行かれますか
第13回	場所
第14回	読む練習「今日はどこに行かれますか」
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

KOREAN 初級1 国会刊行会 ISBN978-4-336-05677-1

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

特になし

保健体育実技 I (88203)

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1年
対象	28～17 K,M
単位数	1.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画2：バドミントン（基本練習）

授業計画3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画6：卓球（基本練習）

授業計画7：卓球（ルールと戦術）

授業計画8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画11：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画12：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画13：バレーボール（ゲーム）

授業計画14：バレーボール（ゲーム）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

保健体育実技 I (88205)

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1年
対象	28～17N,R
単位数	1.0単位
担当教員	Ⓜ 大家一

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画2：バドミントン（基本練習）

授業計画3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画6：卓球（基本練習）

授業計画7：卓球（ルールと戦術）

授業計画8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画11：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画12：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画13：バレーボール（ゲーム）

授業計画14：バレーボール（ゲーム）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

日本語Ⅱ（Aクラス）（88206）

前期

Japanese II

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤友子

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

今まで学習した中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。大学の授業に必要なアカデミックジャパニーズを習得し、スムーズに運用できるように、主にN1の文法、語彙に加え、会話能力も高めていきましょう。またニュースなど、世の中の動きにも関心をむけ、自分の意見を述べられるようにしていきます。

到達目標

- N1の文法を学び運用できるようになる。
- N1相当の新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。またそれを通して自分の意見が述べられるようになる。
- 日本語能力試験N1合格

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%(到達目標1-5を評価)と定期試験30%(到達目標1-5を評価)で総合評価する。

注意事項

- 教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- 学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- 「日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。」

授業計画

回数	内容
第1回	N1文法1週1日目 語彙演習 会話「話し言葉の特徴」
第2回	N1文法1週2日目 語彙演習 会話「話を始める」
第3回	N1文法1週3日目 語彙演習 会話「新しいものを紹介したいとき」
第4回	N1文法1週4日目 語彙演習 会話「体験をおもしろく話す」
第5回	N1文法1週4日目 語彙演習 会話「頼んだり誘ったりする」
第6回	N1文法1週5日目 語彙演習 会話「言いにくい話」
第7回	N1文法2週1日目 語彙演習 模試対策
第8回	N1文法2週2日目 語彙演習 模試対策
第9回	N1文法2週3日目 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	N1文法2週4日目 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	N1文法2週5日目 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	N1文法3週1日目 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	N1文法3週2日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	N1文法3週3日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間・授業の前には文法のテキストの予習をしておくこと。・授業で指示された課題は次の週に提出すること。・随時小テスト

を行うので、復習をしておくこと。ニュースなどをみしておくこと。毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをもらうので、あらかじめ準備しておく。

教科書

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

日本語Ⅱ（Bクラス）（88207）

前期

Japanese II

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 神田耕太郎

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目である。

大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。

読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。

読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、縮約の逆手順として、骨子に肉付けをする過程を意識した作文の実践を行う。

【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.3つの文体（です・ます体（敬体）、だ体（常体）、である体（常体））を区別できる。
- 2.文章縮約のための基礎的な技術が身に付く。
- 3.100～500字程度の文章を読んで、センテンス、段落、全文の論理関係を把握できる。
- 4.骨子からの肉付けを意識して作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	短文読解・縮約演習
第3回	中文読解・縮約演習
第4回	作文
第5回	短文読解・縮約演習
第6回	短文読解・縮約演習
第7回	作文
第8回	短文読解・縮約演習
第9回	中文読解・縮約演習
第10回	JLPT対策
第11回	短文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・事前配付された語句リストの意味・用法を調べる。
 - ・文体書き換え課題を14回出題する。
-

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3

「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17M
単位数	2.0単位
担当教員	谷川真利子

授業の概要

授業の概要

- 1 教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
- 2 英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】

- ・ 単元ごとに重要表現が含まれる英文を全員に日本語に訳して提出させ、添削後返却し理解の徹底を図る。
- ・ 中間考査の実施後、返却時に解説する。
- ・ 単元ごとの小テストでは、毎回、誤答について添削し返却する。
- ・ 課題レポートについて、解答例を提示し解説を行う。
- ・ 授業実施後、毎回アンケートを実施、授業で理解できたこと、できなかったことを記入させ、理解できなかった内容の記述があれば、記入者または内容によっては全員に、次の時間に解説する。

【ICTを活用した双方向型授業】

- ・ 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- 授業内容や英文の読み方を予め、または授業実施後に提示し、予習復習に活用させる。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。
- 4.基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5.扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト 15%（到達目標 1, 2, 3 を評価）、レポート 15%（到達目標 2, 5 を評価）、定期試験 70%（中間考査 30%, 期末考査 40%, 到達目標 1, 2, 3, 4 を評価）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 1 What is "Black Friday"?
第3回	Unit 2 What is a "leap year"?
第4回	Unit 1～Unit 2 まとめ
第5回	Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"?
第6回	Unit 4 Where did "mouth wash" come from?
第7回	Unit 3～Unit 4 まとめ
第8回	Unit 5 What is a "Viking"?
第9回	Unit 6 Why are oranges "orange"?
第10回	Unit 5～Unit 6 まとめ

回数	内容
第11回	Unit 7 Where did "Vaseline" come from?
第12回	Unit 8 Why are flamingos "pink"?
第13回	Unit 7~Unit 8 まとめ
第14回	Unit 9 What is a movie "trailer" ?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。
- 4 単元ごとに課される、重要表現が含まれる英文などをまとめたプリントを解いて提出する。

教科書

Answers to Everyday Questions 2 [Pre-intermediate] , 著者 Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura 南雲堂
ISBN978-4-523-17935-1 C0082

参考書

特になし

備考

特になし

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17M
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。動物専門職に関する英語に触れ、基礎的な表現を習得する。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。
中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15%（到達目標1・4を評価）、小テスト20%（到達目標3を評価）、中間テスト 25%、（到達目標1・2・3を評価）、定期試験 40%（到達目標1・2・3を評価）により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet (Vocabulary/Listening/Speaking)
第3回	Unit 1: Benny's First Visit to the Vet (Reading/Writing)
第4回	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations (Vocabulary/Listening/Speaking)
第5回	Unit 2: Benny Gets His Second Vaccinations (Reading/Writing)
第6回	Unit 3: Benny Gets Registered and Microchipped (1) (Vocabulary/Listening/Speaking)
第7回	Unit 3: Benny Gets Registered and Microchipped (1) (Reading/Writing)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 4: Benny Gets Registered and Microchipped (2) (Vocabulary/Listening/Speaking)
第10回	Unit 4: Benny Gets Registered and Microchipped (2) (Reading/Writing)
第11回	Unit 5: Spaying and Neutering (Vocabulary/Listening/Speaking)
第12回	Unit 5: Spaying and Neutering (Reading/Writing)
第13回	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1) (Vocabulary/Listening/Speaking)
第14回	Unit 6: Benny Has to Have an IV-Drip (1) (Reading/Writing)
第15回	Review: Unit 4-6

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Word Builder」「Before Reading and After Reading」「Dialogue」「Try This」「Dr. Hashimoto's Column」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・「Dialogue」などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：Animal Companions

著者：Susan Williams, 浅井みどり

出版社：南雲堂

ISBN：978-4-523-17920-7

※後期の「英語Ⅱ」でも同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

保健体育実技 I (88212)

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1年
対象	28～19B,Y
単位数	1.0単位
担当教員	● 大家一 ● 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け（大家・菅）

授業計画2：バドミントン（基本練習）（大家・菅）

授業計画3：バドミントン（ルールと戦術）（大家・菅）

授業計画4：バドミントン（ゲーム個人戦）（大家・菅）

授業計画5：バドミントン（ゲーム団体戦）（大家・菅）

授業計画6：卓球（基本練習）（大家・菅）

授業計画7：卓球（ルールと戦術）（大家・菅）

授業計画8：卓球（ゲームと個人戦）（大家・菅）

授業計画9：卓球（ゲームと団体戦）（大家・菅）

授業計画10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）（大家・菅）

授業計画11：バレーボール（シートレシーブ）（大家・菅）

授業計画12：バレーボール（アタック・ブロック）（大家・菅）

授業計画13：バレーボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画14：バレーボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ（大家・菅）

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書
特になし

備考

Chinese II

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	趙慧欣

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

後期の学習は表現力アップすることを目標とする。

前期よりやや高度な本文と練習問題を野学習である日本語と違った語順、動詞の語順序、接続表現などを勉強して、やや長い文章が読める、作文ができるようにする。自分が思ったこと、したいこと自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期の基礎を踏まえて数多くの接続表現、慣用語句、文法をほぼマスターできることを目標とする。

- 1 構文を身につけ応用できる。
- 2 接続表現、慣用語句を身に付ける。
- 3 高度な長文が書ける、読める。
- 4 中国語3級レベルにアップできる。

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く必要がある。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるには、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

1. 前期内容の復習
2. 「彼が来たとき私がシャワをしていた」 現在進行形、過去進行形の用法
3. 「正在+動詞」「動詞+来着」「再」「又」など
4. 「先生が私に体温を測らせるように言った」を精読する
5. 使役表現 使役表現の方法の3通りを理解する
6. 「出かける前にすること」
7. 第七課の「把……」構文の用法を覚える
8. 「私はルームメイトが羨ましい」精読する
9. 評価表現 の構文を完全に覚える
10. 「動詞+得+形容詞」動詞の語順
11. 「卒業後東京で仕事をするつもりだ」精読する
12. 「形容詞+地」接続表現 謙語文
13. 「ますます忙しくなる」精読する
14. 接続表現 慣用語句 「要」「得」の用法
15. 総復習

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

1. 「彼が来たとき私がシャワをしていた」 現在進行形、過去進行形の用法を覚えること
2. 「正在+動詞」「動詞+来着」「再」「又」など文法ポイントと練習問題
3. 先生が私に体温を測るように行った 使役表現の方法の3通りを理解すること
4. 使役表現の練習
5. 出かける前にすること 本文の読み方の練習
6. 「把」構文の練習 日本語の語順と同じだが、どんなときに使うか覚えること
7. 本文の読み方の練習
8. 動詞の語順をしっかり覚えること、日本語と違う点を要注意すること

9. 私はルームメイトが羨ましい本文の読み方の練習
 10. 動詞の語順をしっかりと覚えること、日本語と違う点を要注意すること
 11. 本文の読み方の練習
 12. 卒業後東京で仕事をするつもりだ 文法ポイントにある接続表現を参考にたくさん作文すること
 13. ますます忙しくなる 本文の読み方の練習
 14. 慣用語句、接続表現を使って、作文すること
 15. 練習問題をすべて完成させること
-

教科書

大学教育出版 クイックマスター中国語 著者 趙 慧欣 李 夢迪

参考書

携帯にある日中辞書、中日辞書など 利用も可能

備考

練習問題を課題課題として各自でやる、時々講義中に正解と一緒に確認する

ハングルⅡ (88252)

後期

Korean Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	28～18芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	河智弘

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。基本文型と文法を会話文の中で習得し、日韓の文化の比較になる読解文も取り入れる。前期で学んだ韓国語の基礎を生かして、会話、慣用的な表現などを用いて、読み、書き、聞き取り、話すことをバランスよく習得していくことを目的とする。

到達目標

1. 韓国語の基礎的な文字、発音を理解し活用できる。
2. 韓国語で実際に使える日常会話ができる。

評価方法

授業への取り組みおよび小テスト60%（到達目標1-2を評価）、期末試験40%（到達目標1-2を評価）で評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	前期の復習
第2回	何番ですか
第3回	銀行はどこにありますか
第4回	読む練習「私の部屋」
第5回	週末何をなさいましたか
第6回	名詞、動詞の過去形
第7回	読む練習「日記」
第8回	韓国ドラマのことば
第9回	市場はどうですか
第10回	形容詞の活用
第11回	りんごはいくらですか
第12回	不規則動詞・形容詞
第13回	何を召し上がりますか
第14回	読む練習「韓国料理」
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教科書をよく読んで復習しておくこと。

教科書

参考書

辞典等参考文献は適宜案内する。

備考

特になし。

保健体育実技Ⅱ（88253）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	28～17 K,M
単位数	1.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画2：バドミントン（基本練習）

授業計画3：バドミントン（ルールと戦術）

授業計画4：バドミントン（ゲーム個人戦）

授業計画5：バドミントン（ゲーム団体戦）

授業計画6：卓球（基本練習）

授業計画7：卓球（ルールと戦術）

授業計画8：卓球（ゲームと個人戦）

授業計画9：卓球（ゲームと団体戦）

授業計画10：バレーボール（パス：オーバー・アンダー）

授業計画11：バレーボール（シートレシーブ）

授業計画12：バレーボール（アタック・ブロック）

授業計画13：バレーボール（ゲーム）

授業計画14：バレーボール（ゲーム）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体力づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

保健体育実技Ⅱ（88255）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	28～17N,R
単位数	1.0単位
担当教員	Ⓜ 大家一

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に保健体育実技Ⅰとは異なる球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け

授業計画2：バスケットボール（ドリブル・パス）

授業計画3：バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）

授業計画4：バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）

授業計画5：バスケットボール（ルールの確認と戦術）

授業計画6：バスケットボール（ゲーム）

授業計画7：バスケットボール（ゲーム）

授業計画8：フットサル（パス・トラップ）

授業計画9：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画10：フットサル（シュート・ディフェンス）

授業計画11：フットサル（ルールの確認と戦術）

授業計画12：フットサル（ゲーム）

授業計画13：フットサル（ゲーム）

授業計画14：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

日本語Ⅳ（Aクラス）（88256）

後期

Japanese IV

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤友子

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

大学の授業に必要なアカデミックジャパニーズを習得し、日本語の4技能において、スムーズに運用できるように、主にN1の文法、語彙に加え、TPOを考えた会話の運用にも取り組みましょう。またニュースなどに関して、注意をむけ関心を持ち、自分の意見を自分の言葉で述べられるようになりましょう。

到達目標

- 1 N1の文法の習得、スムーズな運用
- 2 N1以上の語彙を学び、使うことができる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 テーマに沿って、自分の意見をもち、言葉にすることができる。

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%（到達目標1-5を評価）と定期試験30%（到達目標1-5を評価）で総合評価する。

注意事項

- ・教科書を忘れた場合は授業前にコピーするなどして用意すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・「日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。」

授業計画

回数	内容
第1回	N1文法3週4日目 語彙演習 会話「相手に安心して話してもらうために」
第2回	N1文法3週5日目 語彙演習 会話「相手の話に共感する」
第3回	N1文法4週1日目 語彙演習 会話「相手の話に共感できない時」
第4回	N1文法4週2日目 語彙演習 会話「相手の話を広げるには」
第5回	N1文法4週3日目 語彙演習 会話「話がわからない時」
第6回	N1文法4週4日目 語彙演習 会話「次の話題に移るとき」
第7回	N1文法4週5日目 語彙演習 模試対策
第8回	N1文法5週1日目 語彙演習 模試対策
第9回	N1文法5週2日目 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	N1文法5週3日目 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	N1文法5週4日目 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	N1文法5週5日目 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	N1文法6週1日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	N1文法6週2日目 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安 合計60時間

- ・授業の前には文法のテキストを予習しておくこと。
 - ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
 - ・随時小テストを行うので、復習しておくこと。
 - ・ニュースなどをみておくこと。毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをしてもらうので、あらかじめ準備しておく。
-

教科書

『45日で完全マスター 日本語能力試験 N1文法 総まとめ』 三修社 ISBN 978-4-384-05685-3

参考書

適宜プリントを配布する。

備考

なし

日本語Ⅳ（Bクラス）（88257）

後期

Japanese IV

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 神田耕太郎

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目である。

大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。

読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。

読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。

【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.敬体の文を「である体」の文に書き換えることができる。
- 2.100～500字程度の文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できる。
- 3.500字程度の文章であれば、2～3回読む程度で大意を把握できる。
- 4.三段構成による作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	短文読解・縮約演習
第2回	中文読解・縮約演習
第3回	作文
第4回	短文読解・縮約演習
第5回	中文読解・縮約演習
第6回	作文
第7回	短文読解・縮約演習
第8回	中文読解・縮約演習
第9回	作文
第10回	短文読解・縮約演習
第11回	中文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・事前配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17M
単位数	2.0単位
担当教員	谷川真利子

授業の概要

英語Ⅰに引き続いて

- 1 教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
- 2 英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】

- ・ 単元ごとに重要表現が含まれる英文を全員に日本語に訳して提出させ、添削後返却し理解の徹底を図る。
- ・ 中間考査の実施後、返却時に解説する。
- ・ 単元ごとの小テストでは、毎回、誤答について添削し返却する。
- ・ 課題レポートについて、解答例を提示し解説を行う。
- ・ 授業実施後、毎回アンケートを実施、授業で理解できたこと、できなかったことを記入させ、理解できなかった内容の記述があれば、記入者または内容によっては全員に、次の時間に解説する。

【ICTを活用した双方向型授業】

- ・ 本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
- 授業内容や英文の読み方を予め、または授業実施後に提示し、予習復習に活用させる。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。
- 4.基本的な英語（日常生活でよく用いる英語）が聞き取れるようになる。
- 5.扱われている話題について自分なりの考え方を持つようになる。

評価方法

授業時間中に単元ごとに実施する小テスト 15%（到達目標 1, 2, 3 を評価）、レポート 15%（到達目標 2, 5 を評価）、定期試験 70%（中間考査 30%, 期末考査 40%, 到達目標 1, 2, 3, 4 を評価）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

辞書は必携。遅刻3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	Unit 10 Where did "bubble wrap" come from?
第3回	Unit 9～Unit 10 まとめ
第4回	Unit 11 Why is a billiard table "green"?
第5回	Unit 12 Why is film called "Footage"?
第6回	Unit 11～Unit 12 まとめ
第7回	Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from?
第8回	Unit 14 Why are social media apps "blue"?
第9回	Unit 13～Unit 14 まとめ
第10回	Unit 15 Where did "makeup" come from?

回数	内容
第11回	Unit 15 まとめ
第12回	Special reading 1
第13回	Special Reading 2
第14回	Special Reading 3
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1 本文に見られる語彙や文法事項については事前に調べ、インターネット等にある関連資料も閲覧しながら内容の理解に努める。
- 2 授業で扱った単語や基本文が記憶に定着するようにすること。
- 3 テキストの問題及び課題を事前に解いておく。
- 4 单元ごとに課される、重要表現が含まれる英文などをまとめたプリントを解いて提出する。

教科書

Answers to Everyday Questions 2 【Pre-intermediate】， 著者 Arnold Arao, Kei Mihara, Yoshinori Miwa, Hiroshi Kimura 南雲堂
ISBN978-4-523-17935-1 C0082

参考書

特になし

備考

特になし

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17M
単位数	2.0単位
担当教員	長谷川真紀

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語Ⅰに引き続き、英語の基礎力、特に読解力を養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。動物専門職に関する英語に触れ、基礎的な表現を習得する。

【アクティブラーニング】

相互学習を促進するためのグループ・ワークを行う。

【フィードバック】

各回、Google Formで質問等に答え、重要な点については補足説明を行う。
中間テストについて、模範解答を提示し、必要に応じて解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本事業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題の提示と提出
- ・各回の振り返りおよび質問の受付
- ・授業資料等の提示

到達目標

1. 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
2. これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
3. 基本的な語彙を身につけ活用できる。
4. 自らの学びを振り返り、自律的に学習を進めることができる。

評価方法

課題 15%（到達目標1・4を評価）、小テスト20%（到達目標3を評価）、中間テスト 25%、（到達目標1・2・3を評価）、定期試験 40%（到達目標1・2・3を評価）により成績を評価し、総合計 60点以上を合格とする。

注意事項

教科書、辞書、フォルダー（資料整理用）を必ず持参すること。

十分な予習・復習をして、積極的に授業に参加すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2) (Vocabulary/Listening/Speaking)
第3回	Unit 7: Benny Has to Have an IV-Drip (2) (Reading/Writing)
第4回	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3) (Vocabulary/Listening/Speaking)
第5回	Unit 8: Benny Has to Have an IV-Drip (3) (Reading/Writing)
第6回	Unit 9: Saying Goodbye: Being Together at the End (Vocabulary/Listening/Speaking)
第7回	Unit 9: Saying Goodbye: Being Together at the End (Reading/Writing)
第8回	中間まとめ

回数	内容
第9回	Unit 10: A Forever Home (Vocabulary/Listening/Speaking)
第10回	Unit 10: A Forever Home (Reading/Writing)
第11回	Unit 11: Beautiful and Clean (Vocabulary/Listening/Speaking)
第12回	Unit 11: Beautiful and Clean (Reading/Writing)
第13回	Unit 12: Sammy Has Obedience Classes (Vocabulary/Listening/Speaking)
第14回	Unit 12: Sammy Has Obedience Classes (Reading/Writing)
第15回	Review: Unit 10-12

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

【予習】

- ・語彙や文法について調べる。
- ・本文を読み、理解した内容をワークシートに記入する。
- ・「Word Builder」「Before Reading and After Reading」「Dialogue」「Try This」「Dr. Hashimoto's Column」などの問題を解く。

【復習】

- ・語彙や文法について、繰り返し復習する。
- ・「Dialogue」などのシャドーイング練習を行う。
- ・小テストに備える。

教科書

書名：Animal Companions

著者：Susan Williams, 浅井みどり

出版社：南雲堂

ISBN：978-4-523-17920-7

※前期の「英語Ⅰ」と同じ教科書を引き続き使用するため、後期には新たに購入する必要はありません。

参考書

特になし

備考

教科書の音声に、オンラインでアクセスできます。

保健体育実技Ⅱ（88262）

後期

Physical Exercise II

教養科目

年次	1年
対象	28～17B,Y
単位数	1.0単位
担当教員	● 大家一 ● 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に保健体育実技Ⅰとは異なる球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け（大家・菅）

授業計画2：バスケットボール（ドリブル・パス）（大家・菅）

授業計画3：バスケットボール（ランニングシュート・ジャンプシュート）（大家・菅）

授業計画4：バスケットボール（カットインプレー・スクリーンプレー）（大家・菅）

授業計画5：バスケットボール（ルールの確認と戦術）（大家・菅）

授業計画6：バスケットボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画7：バスケットボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画8：フットサル（パス・トラップ）（大家・菅）

授業計画9：フットサル（シュート・ディフェンス）（大家・菅）

授業計画10：フットサル（シュート・ディフェンス）（大家・菅）

授業計画11：フットサル（ルールの確認と戦術）（大家・菅）

授業計画12：フットサル（ゲーム）（大家・菅）

授業計画13：フットサル（ゲーム）（大家・菅）

授業計画14：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ（大家・菅）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ（大家・菅）

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書
特になし

備考

中国語 I (88301)

前期

Chinese I

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	趙慧欣

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

中国語の発音21の字音と36に母音を習う。日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターする。中国語で身の回りのことに関する表現の仕方を学習する。

日本語にはない中国語の発音や表現のパターンも考慮した講義内容を配置しており、本文以外に会話文と練習問題を設けているし、回答もテキストにあるので、語学を習得するには練習することは欠かせないことである。学生を主体とした授業を取り組み、自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、自己紹介と簡単な会話ができることを目標とする。

- 1 日本語にない発音を重点的に練習し、子音と母音を完全にマスターして活用できる。
- 2 基本文法、構文を身につけ応用できる。
- 3 中国語で自己紹介ができる、簡単な身の回りのこと述べたり、意思表示したりすることができる。

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるから、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

- 1.日本人の中国語学習の利点と難点
- 2.基本母音と音節
3. 2 1の子音 子音と母音の音節構成
4. 発音の練習 テスト
5. 自己紹介 本文の精読
6. 文法ポイント
- 7.私の朝 本文の精読
8. 文法ポイント
- 9.夏休みにたくさんのことをした
10. 文法ポイント
- 11.私は2年前に日本に来たのです
12. 文法ポイント
- 13.私はシャワをしていた
14. 文法ポイント
15. 総復習（模擬テスト）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

- 第 1回 中国語の方言、標準語を理解するのにネットで調べてみること
- 第 2回 基本母音 6つの母音を書きながら覚えること
- 第 3回 母音の音節練習すること
- 第 4回 母音とその表記を覚えるまで練習すること
- 第 5回 2 1の子音にある「zh ch sh r」「f」を練習すること 第6回 子音と母音構成した音節を練習すること
- 第 7回 本文を参考に自己紹介文を書く、練習問題をすること
- 第 8回 文法ポイントを復習する、練習問題をすること
- 第 9回 自分の休みにして作文を書くこと

第10回 練習問題をすること

第11回 「是……的」構文を理解し、自分のことを作文に書くこと

第12回 文法ポイントと練習問題をすること

第13回 「過去進行形」を理解し、文法ポイントを復習する。

第14回 練習問題をすること

第15回 総復習

教科書

大学教育出版 クイックマスター中国語 著者 趙 慧欣 李 夢迪

参考書

携帯にある日中辞書、中日辞書など 利用可能

備考

練習問題を課題として各自でやる、時々講義中に正解と一緒に確認する

保健体育概論 (88302)

前期

Health and Physical Education

教養科目

年次	1年
対象	28～17 K,N,B,Y,M,R
単位数	2.0単位
担当教員	Ⓜ 大家一

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本講義は、我々人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかななくてはならない健康体と健康な生活の関係性について講義する。

内容的には、運動を中心に展開される健康生活を取り巻く色々な事象について取り上げ、健康体の育成への足掛かりを教授するものである。

【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れています。

【フィードバック】レポートに対する講評を含めた指導を行う。

到達目標

1. 身体の基本的な構造と機能を理解する
2. 健康体を維持・増進していく上で必要な生活習慣を把握する
3. 安全で効果的な健康運動の実践方法を把握する

評価方法

授業に取り組む姿勢（20%：到達目標2・3）、レポート（30%：到達目標2・3）定期試験（50%：到達目標1～3）で総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人間と運動のつながり
第3回	体力とは
第4回	健康とは
第5回	運動処方について
第6回	適度な運動
第7回	健康と運動
第8回	運動強度について
第9回	身体組成
第10回	脂肪分解と運動
第11回	生活習慣病と運動
第12回	ストレスと運動
第13回	休養と健康
第14回	休養と健康
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。

授業内で学んだことを生活の中で実践すること。

教科書

授業時に資料配布

参考書

ヘルスサイエンス 川上雅之他著（不昧堂出版）

備考

日本語 I (Aクラス) (88303)

前期

Japanese I

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 神田耕太郎

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目である。

大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。

読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。

読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、縮約の逆手順として、骨子に肉付けをする過程を意識した作文の実践を行う。

【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1.3つの文体（です・ます体（敬体）、だ体（常体）、である体（常体））を区別できる。

2.文章縮約のための基礎的な技術が身に付く。

3.100～500字程度の文章を読んで、センテンス、段落、全文の論理関係を把握できる。

4.骨子からの肉付けを意識して作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	短文読解・縮約演習
第3回	中文読解・縮約演習
第4回	作文
第5回	短文読解・縮約演習
第6回	短文読解・縮約演習
第7回	作文
第8回	短文読解・縮約演習
第9回	中文読解・縮約演習
第10回	JLPT対策
第11回	短文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・事前配付された語句リストの意味・用法を調べる。
 - ・文体書き換え課題を14回出題する。
-

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3

「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

日本語 I (Bクラス) (88304)

前期

Japanese I

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	小西裕美

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目です。

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級前期レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力を身に付けるための授業です。

大学生活で必要なレポートを書くことを視野に入れ、作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。

さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

- 一般的な話題について書かれた新聞記事などの短い文章を読んで、要旨を理解することができる。
- 学んだ文型や語句を適切に使い、文章を書くことができる。
- テーマに沿った文章を書き、発表することができる。

評価方法

- 各授業態度・課題レポート提出・確認テスト・JLPT模試対策50%（到達目標1、2を評価）、発表20%（到達目標3を評価）と定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。
- 授業内で実施するJ-test模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- 適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- 日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJ-testの随時試験を必ず受験すること。
- 学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、テスト
第2回	中文読解・短文作文演習
第3回	語彙・文型演習
第4回	中文読解・短文作文演習
第5回	語彙・文型演習
第6回	中文読解・短文作文演習
第7回	語彙・文型演習
第8回	作文・発表
第9回	JLPT模試対策①
第10回	JLPT模試対策②
第11回	J-test筆記問題練習
第12回	J-test模擬試験
第13回	中文読解・短文作文演習
第14回	語彙・文型演習

回数

内容

第15回

作文・発表

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業で指示された課題は次の週に提出すること。
 - ・ 随時小テストを行うので、復習をしておくこと。
-

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

『「日本語能力試験」対策 日本語総まとめN2語彙』アスク出版 ISBN978-4-87217-728-2

備考

なし

Chinese II

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	趙慧欣

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

後期の学習は表現力アップすることを目標とする。

前期よりやや高度な本文と練習問題を野学習である日本語と違った語順、動詞の語順序、接続表現などを勉強して、やや長い文章が読める、作文ができるようにする。自分が思ったこと、したいこと自然に身につけることができるようにしたい。

到達目標

前期の基礎を踏まえて数多くの接続表現、慣用語句、文法をほぼマスターできることを目標とする。

- 1 構文を身につけ応用できる。
- 2 接続表現、慣用語句を身に付ける。
- 3 高度な長文が書ける、読める。
- 4 中国語3級レベルにアップできる。

評価方法

課題提出物および学習に対する積極性30%（到達目標1-3を評価）と定期試験70%（到達目標2を評価）で総合評価を行う。

注意事項

日本人は中国語を学習する場合、漢字の意味とか日本語と同じのが多いので、習得するのは簡単である。しかし日本語に無い発音があるため、発音の勉強に重点を置く必要がある。発音を勉強して初めて聞き取れる、話せるようになるには、初心者なら是非前期から履修することを勧める。辞書、テキスト等を使用し、自主的に覚えたセンテンスなどを黒板書いたりする練習をしているので、やれば楽しい学習になる。今まで日本人学生はほとんど優秀な（90点以上）成績を修めている。

授業計画

1. 前期内容の復習
2. 「彼が来たとき私がシャワをしていた」 現在進行形、過去進行形の用法
3. 「正在+動詞」「動詞+来着」「再」「又」など
4. 「先生が私に体温を測らせるように言った」を精読する
5. 使役表現 使役表現の方法の3通りを理解する
6. 「出かける前にすること」
7. 第七課の「把……」構文の用法を覚える
8. 「私はルームメイトが羨ましい」精読する
9. 評価表現 の構文を完全に覚える
10. 「動詞+得+形容詞」動詞の語順
11. 「卒業後東京で仕事をするつもりだ」精読する
12. 「形容詞+地」接続表現 謙語文
13. 「ますます忙しくなる」精読する
14. 接続表現 慣用語句 「要」「得」の用法
15. 総復習

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

1. 「彼が来たとき私がシャワをしていた」 現在進行形、過去進行形の用法を覚えること
2. 「正在+動詞」「動詞+来着」「再」「又」など文法ポイントと練習問題
3. 先生が私に体温を測るように行った 使役表現の方法の3通りを理解すること
4. 使役表現の練習
5. 出かける前にすること 本文の読み方の練習
6. 「把」構文の練習 日本語の語順と同じだが、どんなときに使うか覚えること
7. 本文の読み方の練習
8. 動詞の語順をしっかりと覚えること、日本語と違う点を要注意すること

9. 私はルームメイトが羨ましい本文の読み方の練習
 10. 動詞の語順をしっかりと覚えること、日本語と違う点を要注意すること
 11. 本文の読み方の練習
 12. 卒業後東京で仕事をするつもりだ 文法ポイントにある接続表現を参考にたくさん作文すること
 13. ますます忙しくなる 本文の読み方の練習
 14. 慣用語句、接続表現を使って、作文すること
 15. 練習問題をすべて完成させること
-

教科書

大学教育出版 クイックマスター中国語 著者 趙 慧欣 李 夢迪

参考書

携帯にある日中辞書、中日辞書など 利用も可能

備考

練習問題を課題課題として各自でやる、時々講義中に正解と一緒に確認する

日本語Ⅲ（Aクラス）（88352）

後期

Japanese III

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 神田耕太郎

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目である。

大学の学習においては読解力が求められる。この授業では、文章の大意をつかみ、それを記述する力を身につける。

読解・記述の基礎として、文体（常体・敬体）の使い分けを習得する。

読解の具体的な方法として、文章縮約の技術を習得する。また、作文を縮約の応用として位置づけ、三段構成（序論・本論・結論）を意識した作文の実践を行う。

【フィードバック】縮約課題、文体課題に対する添削などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.敬体の文を「である体」の文に書き換えることができる。
- 2.100～500字程度の文章を、原文の5～6割程度の長さに縮約できる。
- 3.500字程度の文章であれば、2～3回読む程度で大意を把握できる。
- 4.三段構成による作文ができる。

評価方法

各授業毎の文体課題25%（到達目標1を評価）、授業時の縮約課題25%（到達目標2、3を評価）、授業時の作文課題20%（到達目標4を評価）と、定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJ t e s tの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	短文読解・縮約演習
第2回	中文読解・縮約演習
第3回	作文
第4回	短文読解・縮約演習
第5回	中文読解・縮約演習
第6回	作文
第7回	短文読解・縮約演習
第8回	中文読解・縮約演習
第9回	作文
第10回	短文読解・縮約演習
第11回	中文読解・縮約演習
第12回	作文
第13回	短文読解・縮約演習
第14回	中文読解・縮約演習
第15回	作文

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・事前配付された語句リストの意味・用法を調べる。
- ・文体書き換え課題を14回出題する。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語1読解編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2631-3
「改訂版 大学・大学院 留学生の日本語2作文編」・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著・株式会社アルク・ISBN 978-4-7574-2632-0

備考

(なし)

日本語Ⅲ（Bクラス）（88353）

後期

Japanese III

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	小西裕美

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目です。

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級前期レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力を身に付けるための授業です。

大学生活で必要なレポートを書くことを視野に入れ、作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。

さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

- 1.一般的な話題について書かれた新聞記事などの短い文章を読んで、要旨を理解することができる。
- 2.学んだ文型や語句を適切に使い、文章を書くことができる。
- 3.テーマに沿った文章を書き、発表することができる。

評価方法

- ・各授業態度・課題レポート提出・確認テスト・JLPT模試対策50%（到達目標1、2を評価）、発表20%（到達目標3を評価）と定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。
- ・授業内で実施するJ-test模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJ-testの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、テスト
第2回	中文読解・短文作文演習
第3回	語彙・文型演習
第4回	中文読解・短文作文演習
第5回	語彙・文型演習
第6回	中文読解・短文作文演習
第7回	語彙・文型演習
第8回	作文・発表
第9回	JLPT模試対策①
第10回	JLPT模試対策②
第11回	中文読解・短文作文演習
第12回	語彙・文型演習
第13回	J-test筆記問題練習
第14回	J-test模擬試験
第15回	作文・発表

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・ 随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

『「日本語能力試験」対策 日本語総まとめN2語彙』アスク出版 ISBN978-4-87217-728-2

備考

なし

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20% (到達目標2・3), 小テスト 20% (到達目標3), 中間まとめ 30% (到達目標1・2), 定期試験 30% (到達目標1・2) により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第3回	Unit 1 Cross-Cultural Understanding
第4回	Unit 2 Foods
第5回	Unit 2 Foods
第6回	Unit 3 Foreign Language Learning
第7回	Unit 3 Foreign Language Learning
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 4 Sports

回数	内容
第10回	Unit 4 Sports
第11回	Unit 5 Fashion
第12回	Unit 5 Fashion
第13回	Unit 6 Living Things
第14回	Unit 6 Living Things
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文や会話文は音声を聞き、音読をする。

教科書

AMBITIONS Pre-Intermediate 4技能統合型で学ぶ英語コース:準中級編

Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, Takaaki Kumazawa

(KINSEIDO, 2,200円)

ISBN978-4-7647-4055-6

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけて応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、課題の期限内提出、定期試験結果で評価を行う。

授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標1・2・3)、課題(30%) (到達目標1・2)、定期試験(40%) (到達目標1・2・3)で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを用意し、十分な予習をして授業に参加すること。

授業計画

第1回 オリエンテーション (シラバス説明、LINGUA PORTA説明)

第2回 A Lesson from Bhutan 1～4

第3回 A Lesson from Bhutan 4～8

第4回 The Story of Mother's Day 1～4

第5回 The Story of Mother's Day 4～8

第6回 Geroge Morikami's Dream 1～4

第7回 Geroge Morikami's Dream 4～8

第8回 Pizza: An International Favorite 1～4

第9回 Pizza: An International Favorite 4～8

第10回 The Story of Red Rose 1～4

第11回 The Story of Red Rose 4～8

第12回 Madame Buterfly and Intercultural Marriages 1～4

第13回 Madame Buterfly and Intercultural Marriages 4～8

第14回 A Siesta Makes You Smarter! 1～4

第15回 A Siesta Makes You Smarter! 4～8

授業外学習

学習時間の目安;合計60時間

学習時間は予習をメインに行うこと。授業には予習してきた状態で参加する。

予習・復習は、Webサイトの「LINGUA PORTA」で教科書の音声を確認する。

1つのChapterを2回の授業で履修するため、予習・復習はChapterの前半と後半で以下のとおり行う。

予習 (Chapter前半)

1. Key sentence Patterns を暗記する。
2. Reading Passage の意味調べをして内容を把握する。
3. Comprehension Questions の問題を解いてくる。

予習 (Chapter後半)

4. Guided Summary の問題を確認する。
5. Dialogue のCDを聞く。
6. Oral Composition の問題を解く。
7. Essential Basic Sentences Patterns の問題を解く。

8. Phrase Reading に取り組む。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;Enjoyable Reading 100key Sentences Patterns

著者;Joan McConnell 武田 修一

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-3088-3

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

保健体育実技 I (88403)

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W,W
単位数	1.0単位
担当教員	● 大家一 ● 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

スポーツの目的には余暇におけるレジャーや趣味といった側面とともに健康づくりが挙げられる。スポーツの実践方法を正しく身に付けることは、生涯にわたってスポーツ活動を継続したり、運動の効果を引き出すために不可欠である。本授業では、特に球技種目の実践を通して楽しく健康づくりを行う方法を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワーク、問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】技術や戦術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

生涯にわたってスポーツを楽しみ、健康づくりを実践する方法を身に付ける。

到達目標1 各種スポーツの基本スキルとルール・マナーを習得する。

到達目標2 チームメイトとの関わりの中で、他者とともに主体的にスポーツを楽しむ能力を培う。

到達目標3 日常生活の中に生涯スポーツを積極的に取り入れる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（40点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は技術点と課題レポート、到達目標2は授業に取り組む姿勢、到達目標3は授業に取り組む姿勢と課題レポートで評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

授業計画1：オリエンテーションとチーム分け（大家・菅）

授業計画2：バドミントン（基本練習）（大家・菅）

授業計画3：バドミントン（ルールと戦術）（大家・菅）

授業計画4：バドミントン（ゲーム個人戦）（大家・菅）

授業計画5：バドミントン（ゲーム団体戦）（大家・菅）

授業計画6：卓球（基本練習）（大家・菅）

授業計画7：卓球（ルールと戦術）（大家・菅）

授業計画8：卓球（ゲームと個人戦）（大家・菅）

授業計画9：卓球（ゲームと団体戦）（大家・菅）

授業計画10：ソフトボール（キャッチボール・トスバッティング）（大家・菅）

授業計画11：ソフトボール（ノック・フリーバッティング）（大家・菅）

授業計画12：ソフトボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画13：ソフトボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画14：ソフトボール（ゲーム）（大家・菅）

授業計画15：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ（大家・菅）

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、各種スポーツ技術に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書
特になし

備考

英語 I (R 1) (88404)

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～23R
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】すべてのテストを採点・返却・解説することでフィードバックする

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト (30%)(到達目標 3) 中間テスト (30%)(到達目標 1・2) 定期テスト (40%)(到達目標 1・2)

注意事項

小テストはチャイムの鳴り終わりとともに実施する

席順を指定するが、聞こえにくいなど不都合があれば、申し出てもらいたい
スマホを使用しないため、電子辞書でも構わないので英和辞典を持参のこと

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・自己紹介・クラス編成テストの復習
第2回	Occupations
第3回	The Job of a Firefighter
第4回	At the Dinner Table
第5回	Yummy's Tex-Mex
第6回	Sports
第7回	Themed Races: Run for Fun
第8回	中間まとめ・Writing
第9回	Health
第10回	Health Threats Caused by Electronic Devices
第11回	What's on Your Playlist?
第12回	The Beautiful Guitar
第13回	At the Movies
第14回	How Horror Hooks and Helps Us
第15回	最終まとめ・Writing

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週分のGrammar

復習

小テストの内容

リンガポルタ (e-learning)

教科書

Live Escalate Book 2 Trekking (成美堂)

ISBN978-4-7919-7222-7

参考書

和英辞典 (電子辞書可・スマホ不可)

備考

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～23R
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。

大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。

重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。

キャンパスライフに関連したトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】

ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。

教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。

ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】

課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20% (到達目標2・3), 小テスト 20% (到達目標3), 中間まとめ 30% (到達目標1・2), 定期試験 30% (到達目標1・2) により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 01 What's your major?
第3回	Unit 01 What's your major?
第4回	Unit 02 How do you like your new school?
第5回	Unit 02 How do you like your new school?
第6回	Unit 03 Let me introduce a new member to you.

回数	内容
第7回	Unit 03 Let me introduce a new member to you.
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 04 How was your Golden Week?
第10回	Unit 04 How was your Golden Week?
第11回	Unit 05 I'm looking for a part-time job.
第12回	Unit 05 I'm looking for a part-time job.
第13回	Unit 06 What do you call this in Japanese?
第14回	Unit 06 What do you call this in Japanese?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。
長文や会話文は音声を聞き、音読をする。

教科書

Teruhiko Kadoyama, Simon Capper

Let's Read Aloud & Learn English On Campus

(SEIBIDO, 2,420円)

ISBN978-4-7919-7182-4

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

保健体育実技 I (88406)

前期

Physical Exercise I

教養科目

年次	1年
対象	28～17 K,N,B,Y,M,R
単位数	1.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、グループ、または個人を非言語で身体表現することの意義や重要性を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワークで身体動作の確認、お互いで教え合う問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】ダンスや身体表現に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し身体動作の確認を行います。

到達目標

到達目標 1. 自身の身体を理解し、非言語表現・身体表現の意義や重要性を理解する。

到達目標 2. 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。

到達目標 3. 他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（60%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（20点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標 1 は課題レポート、到達目標 2・3 は授業に取り組む姿勢と技術点で評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	基本姿勢の確認（立ち姿勢・呼吸法）
第3回	スタティックストレッチ①
第4回	スタティックストレッチ②
第5回	ダイナミックストレッチ①
第6回	ダイナミックストレッチ②
第7回	ストレッチと筋力トレーニング①
第8回	ストレッチと筋力トレーニング②
第9回	アイソレーション①
第10回	アイソレーション②
第11回	アイソレーション③
第12回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング①
第13回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング②
第14回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング③
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、ダンス・身体表現に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

保健体育概論 (88451)

後期

Health and Physical Education

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	Ⓜ 大家一

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本講義は、我々人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかななくてはならない健康体と健康な生活の関係性について講義する。

内容的には、運動を中心に展開される健康生活を取り巻く色々な事象について取り上げ、健康体の育成への足掛かりを教授するものである。

【アクティブラーニング】グループディスカッションを取り入れています。

【フィードバック】レポートに対する講評を含めた指導を行う。

到達目標

1. 身体の基本的な構造と機能を理解する
2. 健康体を維持・増進していく上で必要な生活習慣を把握する
3. 安全で効果的な健康運動の実践方法を把握する

評価方法

授業に取り組む姿勢（20%：到達目標2・3）、レポート（30%：到達目標2・3）定期試験（50%：到達目標1～3）で総合的に評価する。

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人間と運動のつながり
第3回	体力とは
第4回	健康とは
第5回	運動処方について
第6回	適度な運動
第7回	健康と運動
第8回	運動強度について
第9回	身体組成
第10回	脂肪分解と運動
第11回	生活習慣病と運動
第12回	ストレスと運動
第13回	休養と健康
第14回	休養と健康
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。

授業内で学んだことを生活の中で実践すること。

教科書

授業時に資料配布

参考書

ヘルスサイエンス 川上雅之他著（不昧堂出版）

備考

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17W,W
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。様々なトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を引けば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20%（到達目標2・3）、小テスト 20%（到達目標3）、中間まとめ 30%（到達目標1・2）、定期試験 30%（到達目標1・2）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 7 Art
第3回	Unit 7 Art
第4回	Unit 8 Global Issues
第5回	Unit 8 Global Issues
第6回	Unit 9 Japanese Culture
第7回	Unit 9 Japanese Culture
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 10 Human Rights

回数	内容
第10回	Unit 10 Human Rights
第11回	Unit 11 Health & Medical Issues
第12回	Unit 11 Health & Medical Issues
第13回	Unit 12 Environmental Issues
第14回	Unit 12 Environmental Issues
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文や会話文は音声聞き、音読をする。

教科書

AMBITIONS Pre-Intermediate 4技能統合型で学ぶ英語コース:準中級編

Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki, Takaaki Kumazawa

(KINSEIDO, 2,200円)

ISBN978-4-7647-4055-6

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけて応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要な改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、課題の期限内提出、定期試験結果で評価を行う。

授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標1・2・3)、課題(30%) (到達目標1・2)、定期試験(40%) (到達目標1・2・3)で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを用意し、十分な予習をして授業に参加すること。

授業計画

- 第1回 Unwanted Pets and Eco-Disasters 1～4
- 第2回 Unwanted Pets and Eco-Disasters 4～8
- 第3回 Going Green 1～4
- 第4回 Going Green 4～8
- 第5回 Laughter Keeps You Healthy 1～4
- 第6回 Laughter Keeps You Healthy 4～8
- 第7回 A Lesson from the Nagasaki Islands 1～4
- 第8回 A Lesson from the Nagasaki Islands 4～8
- 第9回 A Lesson from the Olympics 1～4
- 第10回 A Lesson from the Olympics 4～8
- 第11回 Terry Fox :The Marathon of Hope 1～4
- 第12回 Terry Fox :The Marathon of Hope 4～8
- 第13回 Hachiko and Balto: Two Famous Dogs 1～4
- 第14回 Hachiko and Balto: Two Famous Dogs 4～8
- 第15回 Hisako Nakamura: Live Your Life with Gratitude 1～4

授業外学習

学習時間の目安;合計60時間

学習時間は予習をメインに行うこと。授業には予習してきた状態で参加する。

予習・復習は、Webサイトの「LINGUA PORTA」で教科書の音声を確認する。

1つのChapterを2回の授業で履修するため、予習・復習はChapterの前半と後半で以下のとおり行う。

予習（Chapter前半）

1. Key sentence Patterns を暗記する。
2. Reading Passage の意味調べをして内容を把握する。
3. Comprehension Questions の問題を解いてくる。

予習（Chapter後半）

4. Guided Summary の問題を確認する。
5. Dialogue のCDを聞く。
6. Oral Composition の問題を解く。
7. Essential Basic Sentences Patterns の問題を解く。

8. Phrase Reading に取り組む。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;Enjoyable Reading 100key Sentences Patterns

著者;Joan McConnell 武田 修一

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-3088-3

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

保健体育実技Ⅱ（88454）

後期

Physical Exercise II

教養科目

年次	1年
対象	28～17 W,W,W
単位数	1.0単位
担当教員	● 大家一 ● 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

健康の保持増進という観点から、各種実技種目を通じて呼吸循環器系に適切な運動負荷を与えることを目的とし、健康体に関する各種運動・スポーツの重要性を理解させる。また、器具を用いない基本的な有酸素運動（ジョギング・ウォーキング）の技術を習得し、日常生活に則した健康体の保持増進に対して理解を深めさせる。

【アクティブラーニング】グループワークを取り入れています。

【フィードバック】技術に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し各自でフォームの確認を行います。

到達目標

- 1 「有酸素運動実践のために、負荷の設定方法や心拍数の測定方法を身につける」
- 2 「健康運動・軽運動の技術を身につける」

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（30%）、課題レポート（30%）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は授業に取り組む姿勢と課題レポート、到達目標2は技術点で評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

雨天・その他の状況により種目の変更がある。

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、レクリエーションゲーム（大家・菅）
第2回	器具を用いない運動（1）ジョギング（指導・実践上の注意点と速度変化）（大家・菅）
第3回	器具を用いない運動（2）ジョギング（速度と時間の関係）（大家・菅）
第4回	器具を用いない運動（3）ジョギング（心拍数の変化）（大家・菅）
第5回	器具を用いない運動（4）ウォーキング（指導・実践上の注意点と速度変化）（大家・菅）
第6回	器具を用いない運動（5）ウォーキング（速度と時間の関係）（大家・菅）
第7回	器具を用いない運動（6）ウォーキング（心拍数の変化）（大家・菅）
第8回	健康運動としてのジョギング・ウォーキング（大家・菅）
第9回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム（大家・菅）
第10回	健康運動・軽運動としてのバドミントン（大家・菅）
第11回	健康運動・軽運動としてのサッカー（大家・菅）
第12回	健康運動・軽運動としてのソフトボール（大家・菅）
第13回	健康運動・軽運動としてのバレーボール（大家・菅）
第14回	健康運動・軽運動としてのバスケットボール（大家・菅）
第15回	まとめ（大家・菅）

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

・ジョギング・筋力トレーニング等を週に3回以上の頻度で行うこと。

教科書

無

参考書

資料配布

備考

英語Ⅱ（R1）（88455）

後期

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17R
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】

すべてのテストを採点・返却・解説することでフィードバックする

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト（30%）（到達目標3）中間テスト（30%）（到達目標1・2）定期テスト(40%)（到達目標1・2）

注意事項

小テストはチャイムの鳴り終わりとともに開始する
スマホは使用せず、辞書（電子辞書可）を持参すること

授業計画

回数	内容
第1回	英語Iの振り返り・オリエンテーション
第2回	Technology in Daily Life
第3回	Yesterday's Technology Makes a Comeback
第4回	Social Network
第5回	App Stickers' Popularity
第6回	Looking on the Bright Side
第7回	Positive Thinking
第8回	中間まとめ・Writing
第9回	Love Affairs
第10回	Arranged Marriage
第11回	Storytelling
第12回	The King and His Two Wives
第13回	The Power of Words
第14回	What Riddles Can Teach Us
第15回	総合まとめ・Writing

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

翌週該当部分のGrammar

復習

小テストの勉強

リンガポルタ(e-learning)

教科書

Live Escalate Book 2 Trekking (成美堂)

ISBN978-4-7919-7222-7

参考書

英和辞典 (電子辞書は認めるが、スマホは使用不可)

備考

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17R
単位数	2.0単位
担当教員	太田由佳

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語に引き続き、英語の基礎力、特に読解力の養成を目的とする。大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ様々な英文に接する。重要な文章や表現、文法などは小テストなどを課して定着を図る。キャンパスライフに関連したトピックを英語で読むことに慣れる。

【アクティブラーニング】ペアまたはグループワークで、英文の内容などについて話し合い発表する。教科書の問題演習を行ったり、教員からの質問に答えたり、自分の考えを述べる。ペア・グループワークが苦手な場合は、事前に相談すること。

【フィードバック】課題や小テストなどに対する講評や説明などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用することができる。

必要な資料、連絡事項についてGoogle Classroomを通して提示する。

その他の活用については都度指示する。

到達目標

- 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を文法・語法面から身につけ応用できる。
- これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

授業貢献度・課題 20%（到達目標2・3）、小テスト 20%（到達目標3）、中間まとめ 30%（到達目標1・2）、定期試験 30%（到達目標1・2）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教科書を必ず持参し、授業に積極的に取り組むこと。

課題は期限内に提出すること。特別な事情がない限り期限後の受け取りには応じない。

講義資料がある場合、講義中に配布するが、特別な事情がない限り、後日の配布には応じない。

遅刻の場合、授業終了時に報告がない場合は欠席とする。

大幅な遅刻が続く場合は欠席扱いとすることがあるので十分注意すること。

テストや課題に関する不正行為に対して厳格に対処する。

授業計画

回数	内容
第1回	Introduction
第2回	Unit 07 Have you been there?
第3回	Unit 07 Have you been there?
第4回	Unit 08 Could you tell me how to get there?
第5回	Unit 08 Could you tell me how to get there?
第6回	Unit 09 What do you want me to do?
第7回	Unit 09 What do you want me to do?
第8回	中間まとめ
第9回	Unit 10 I'm on a tight budget.

回数	内容
第10回	Unit 10 I'm on a tight budget.
第11回	Unit 11 What do you think of this program?
第12回	Unit 11 What do you think of this program?
第13回	Unit 12 I'm reviewing what I studied.
第14回	Unit 12 I'm reviewing what I studied.
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

わからない語彙・表現は事前に調べておくこと。

長文や会話文は音声聞き、音読をする。

教科書

Teruhiko Kadoyama, Simon Capper

Let's Read Aloud & Learn English On Campus

(SEIBIDO, 2,420円)

ISBN978-4-7919-7182-4

参考書

英和辞典

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておくこと。

保健体育実技Ⅱ（88457）

後期

Physical Exercise Ⅱ

教養科目

年次	1年
対象	28～17 K,N,B,Y,M,R
単位数	1.0単位
担当教員	菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

健康でしなやかな身体を作りを目指し、ダンスや身体表現を通して、他者との関りを持ち、グループ、または個人を非言語で身体表現することの意義や重要性を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループワークで身体動作の確認、お互いで教え合う問題解決型学習を取り入れています。

【フィードバック】ダンスや身体表現に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】タブレットや各自のスマホを利用し身体動作の確認を行います。

到達目標

到達目標1.自身の身体を理解し、非言語表現・身体表現の意義や重要性を理解する。

到達目標2.体を動かす楽しさや心地よさを味わい、生涯に必要な運動が習得することが出来るようになる。

到達目標3.他者を理解し、コミュニケーション能力を習得することが出来るようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（60%：積極性・協調性・リーダーシップ・創造力）、技術点（20%）、課題レポート（20点）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1は課題レポート、到達目標2・3は授業に取り組む姿勢と技術点で評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

運動のできる服装と体育館シューズを必ず持参すること。

食事、おやつをしっかりと食べてくること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	基本姿勢の確認（立ち姿勢・呼吸法）
第3回	スタティックストレッチ①
第4回	スタティックストレッチ②
第5回	ダイナミックストレッチ①
第6回	ダイナミックストレッチ②
第7回	ストレッチと筋力トレーニング①
第8回	ストレッチと筋力トレーニング②
第9回	アイソレーション①
第10回	アイソレーション②
第11回	アイソレーション③
第12回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング①
第13回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング②
第14回	リズムトレーニングとコンデネーショントレーニング③
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間 普段の生活の中で、ジョギング・歩く・階段を使うなど体づくりを行うこと。YOUTUBE等を利用し、ダンス・身体表現に関する動画を視聴し各自の課題について解決方法を考えイメージトレーニングすること。

教科書

随時配布

参考書

特になし

備考

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17N
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけて応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、課題の期限内提出、定期試験結果で評価を行う。

授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標1・2・3)、課題(30%) (到達目標1・2)、定期試験(40%) (到達目標1・2・3)で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを用意し、十分な予習をして授業に参加すること。

授業計画

第1回 オリエンテーション (シラバス説明、LINGUA PORTA説明)

第2回 Dates We Can't Forget 9/11/2001 and 3/11/2011 1～4

第3回 Dates We Can't Forget 9/11/2001 and 3/11/2011 4～8

第4回 Professor Donald Keene: "I want to be with Japan" 1～4

第5回 Professor Donald Keene: "I want to be with Japan" 4～8

第6回 The Cherry Blossoms of Washington DC 1～4

第7回 The Cherry Blossoms of Washington DC 4～8

第8回 The Pink Dog 1～4

第9回 The Pink Dog 4～8

第10回 The Miracle of Trees 1～4

第11回 The Miracle of Trees 4～8

第12回 Nothing New under the Sun 1～4

第13回 Nothing New under the Sun 4～8

第14回 Exporting the Mottainai Movement 1～4

第15回 Exporting the Mottainai Movement 4～8

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

学習時間は予習をメインに行うこと。授業には予習してきた状態で参加する。

予習・復習は、Webサイトの「LINGUA PORTA」で教科書の音声を確認する。

1つのChapterを2回の授業で履修するため、予習・復習はChapterの前半と後半で以下のとおり行う。

予習1 (Chapter前半)

1. Key sentence Patterns を暗記する。
2. Reading Passage の意味調べをして内容を把握する。
3. Comprehension Questions の問題を解いてくる。

予習2 (Chapter後半)

4. Guided Summary の問題を確認する。
5. Dialogue のCDを聞く。
6. Oral Composition の問題を解く。

7. Essential Basic Sentences Patterns の問題を解く。

8. Phrase Reading に取り組む。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;Enjoyable Reading II

著者;Joan McConnell 武田 修一

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-1286-5

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英語 I (N 2) (88502)

前期

English I

教養科目

年次	1年
対象	28～17N
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。【フィードバック】テストはすべて採点・返却・解説をする。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト (30%) (到達目標 3) 中間テスト (30%) (到達目標 1・2) 定期テスト (40%) (到達目標 1・2)

注意事項

座席を指定するので、聞こえにくい場合など不都合があれば申し出てほしい。
英和辞典 (授業時電子辞書は可、スマホは不可) (自宅学習時はWeblioなどの使用も可)
基本英語 (水2限) の受講を推奨する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・自己紹介・目標設定
第2回	The Arts
第3回	Incredible Races
第4回	Movies
第5回	Careers
第6回	Animals
第7回	中間まとめ
第8回	Handmade Items
第9回	Cooking
第10回	Sports
第11回	Natural Places and Maps
第12回	Dreams and Seasons
第13回	A World of Restaurants
第14回	How Do You Shake Hands?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

Vocabulary Check 、 Grammar Check

復習

該当箇所（Part 1 ReadingとPart 2 Dictation）の音読、シャドーイング

小テストの準備

教科書

Reading Links 1 （南雲堂）

ISBN978-4-523-17922-1

参考書

各自使いやすい英和辞典

備考

英会話 I (TOEIC) (88503)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

TOEICは問題や選択肢など全て英語で書かれているため、英文を日本語に訳したり、日本語を英語に訳したりする問題はないが、TOEICのリスニングセクションやリーディングセクションのスコアを伸ばすためには、英語を英語の語順で理解する力を鍛える必要があり、そのために練習問題を通じて語彙、語法、典型的な文法、聴解、読解の基礎知識を習得する。

英会話 I の授業はTOEIC350点を目標とし、語彙、語法、文法、聴解、読解の基礎知識習得の内容とする。

英会話 II の授業はTOEIC500点を目標とし、問題の特徴・タイプ別に戦略的に問題を解く、より実践的な内容であり、英会話 II を受講する前に英会話 I を受講することを推奨する。

到達目標

- 1 語彙の知識を増やしてリスニングとリーディングの基礎的な知識の習得し活用できる。
- 2 基本構文の構造を理解し、素早く英文を読むことができる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、定期試験で評価を行う。

評価は、授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標 1・2)、宿題(20%) (到達目標 1)、定期試験(50%) (到達目標 1・2) で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを必ず用意し十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

第1回 オリエンテーション、コースのガイダンス、発音

第2回 Restaurants

第3回 Entertainment

第4回 Business

第5回 Office

第6回 Telephone

第7回 Letters and E-mails

第8回 Health

第9回 The Bank and Post Office

第10回 New Products

第11回 Travel

第12回 Daily Life

第13回 Job Applications

第14回 Shopping

第15回 Education

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

テキスト出版元にアップロードされた音声ファイルを聴いて復習や自習を行います。

ネイティブの発音とスピードで何度も繰り返し聴いて英語を聴く耳を鍛えます。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST Basic

著者;吉塚 弘 Graham Skerritt

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-7232-6

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英会話 I (88504)

前期

English Conversation I

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 Huynh Khanh

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。大学内のさまざまなシーンで使われる基本的な英語表現を身につけるとともに、英語で積極的にコミュニケーションがとれることを目標としています。各ユニットの会話例をペアまたはグループで覚えるまで音読をしたり、自分のことについて英文を作成しそれをもとにコミュニケーション活動をしたりします。

到達目標

- 1.自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2.ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3.頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出るようになる。

評価方法

クラスの態度/出席：30%(到達目標2) 宿題/クイズ：40%（到達目標1・3）最終プロジェクト：30%（到達目標1・2・3）

注意事項

英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。
授業中は演習中心で進めるので、予習・宿題をしっかりとって授業に臨むこと。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1: Can you open the window?

第3回 Unit 2: I like tea

第4回 Unit 3: She's studying

第5回 Unit 4: What's the date today?

第6回 Review 1:

第7回 Unit 5: What do you mean?

第8回 Unit 6: Where's my phone?

第9回 Unit 7: You're going to work?

第10回 Review 2:

第11回 Unit 8: When do you have Chemistry?

第12回 Unit 9: I can cook!

第13回 Unit 10: What time do you get up?

第14回 Unit 11: How many are there?

第15回 Review 3:

授業外学習

学習時間の目安 : 合計 60 時間 ヴォキャブラリーの予習 30分 小テストの準備 30分 授業の復習としてのシャドーイング練習 30分×6

教科書

書名 : Communication Spotlight

著者 : Alastair Graham-Marr

出版社 : Abax

ISBN 978-1-78547-077-6

参考書

なし

備考

なし

English IV

教養科目

年次	2年
対象	27～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

基本英語、英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲあるいは英会話Ⅰで身につけた語彙や文法表現を用いて、主に英作文によってアウトプットする能力を育成するため、パラグラフライティングの学習を行う。

単一の学科ではなく全学から参加できる科目であるため、学部や大学院の専門英作文のみならず、就職対策にも役立てることができるはずである。

順を追って積み上げてゆくテキストを用い、自発的に学ぶことで、ライティングスキルを段階的に身につけることを目的としている。

【フィードバック】

提出物および小テストはすべて添削・返却し、次回に向けた反省と改善・向上の材料とできるようフィードバックする。

到達目標

- 1 文をつなぐ表現や便利な表現を予め提示したテキストの課題に従い、段階的に英文が作成できるようになる
- 2 難解なことばなどをいかに自分の知るやさしい表現で伝えるか、という切り替えができることで、そのスキルが英会話にも活かせるようになる
- 3 実際に書いたものを発表することで、互いに批評し学生間で弱点や長所といったポイントを指摘しあえる
- 4 語彙を拡大する
- 5 基本的な文法を復習する

評価方法

毎回書き上げたものを音読し、学生間でコメントを言い合うが、それを毎回提出し添削を受けることで段階的によりよいものに仕上げていく。

発表とコメント10%（到達目標3）、提出物80%（到達目標1・2・4）、3回の小テスト10%（到達目標5）で評価する。

注意事項

自発的に取り組まねばならない授業形態なので、みずから英作文をするという目的意識を持って参加して欲しい。

辞書をしっかり引き、テキストの表現にならうことは必要だが、翻訳ソフト等でまるごと写すことでは学力向上につながらないことを、あたりまえではあるが心得てほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・自己紹介など
第2回	Self Introduction
第3回	Past Memories
第4回	My Daily Life
第5回	My Beliefs
第6回	My Future Profession
第7回	People I Respect
第8回	Things I Treasure
第9回	Looking Back
第10回	Places Worth Visiting
第11回	(Un) Pleasant Things
第12回	Writing a Story
第13回	Words in my Vocabulary

回数	内容
第14回	Talking about "Types"
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・モデルパラグラフの読み（30分）
- ・つなぐ表現と便利な表現の書き込みによる予習（60分）
- ・添削のアドバイスに従った推敲（90分）
- ・習熟度に応じた英文法の問題を解く（30分）
- ・文法宿題（30分）および小テストの勉強

教科書

A Passage to Paragraph Writing, Koki Endo 著（センゲージラーニング）
ISBN978-4-86312-182-9

参考書

使いやすい英和・和英・英英辞典など（電子辞書でもよいが、スマートフォン等は不可）（自宅での学習にはWeblioなどの利用は可）

備考

（なし）

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17N
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

到達目標

- 1 辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけて応用できる。
- 2 これまでの英文読解力に必要な改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3 基本的な語彙を身につけて活用できる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、課題の期限内提出、定期試験結果で評価を行う。
授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標1・2・3)、課題(30%) (到達目標1・2)、定期試験(40%) (到達目標1・2・3)で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを用意し、十分な予習をして授業に参加すること。

授業計画

- 第1回 The Spirit Bear 1～4
- 第2回 The Spirit Bear 4～8
- 第3回 Technology and Language 1～4
- 第4回 Technology and Language 4～8
- 第5回 The Philosophy of Steve Jobs 1～4
- 第6回 The Philosophy of Steve Jobs 4～8
- 第7回 A Little Boy's Act of kindness 1～4
- 第8回 A Little Boy's Act of Kindness 4～8
- 第9回 The Dolphin with an Artificial Tail 1～4
- 第10回 The Dolphin with an Artificial Tail 4～8
- 第11回 Inspiration from Nadeshiko 1～4
- 第12回 Inspiration from Nadeshiko 4～8
- 第13回 John Nakamura Manjiro :A Bridge between Two Countries 1～4
- 第14回 John Nakamura Manjiro : A Bridge between Two Countries 4～8
- 第15回 Lessons from Japan 1～4

授業外学習

学習時間の目安;合計60時間

学習時間は予習をメインに行うこと。授業には予習してきた状態で参加する。

予習・復習は、Webサイトの「LINGUA PORTA」で教科書の音声を確認する。

1つのChapterを2回の授業で履修するため、予習・復習はChapterの前半と後半で以下のとおり行う。

予習1 (Chapter前半)

1. Key sentence Patterns を暗記する。
2. Reading Passage の意味調べをして内容を把握する。
3. Comprehension Questions の問題を解いてくる。

予習2 (Chapter後半)

4. Guided Summary の問題を確認する。
5. Dialogue のCDを聞く。
6. Oral Composition の問題を解く。
7. Essential Basic Sentences Patterns の問題を解く。

8. Phrase Reading に取り組む。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;Enjoyable Reading II

著者;Joan McConnell 武田 修一

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-1286-5

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英語Ⅱ（N2）（88553）

後期

English II

教養科目

年次	1年
対象	28～17N
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語Iにつづき英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

【フィードバック】テストはすべて採点・返却・解説をする。

到達目標

- 1.辞書を用いれば独力で理解できる自立した英語読者になる。そのための英文読解能力を、文法・語法面から身につけ応用できる。
- 2.これまでの英文読解力に必要ながあれば、改善・補強をする。文法事項を確認しながら、多くの英文を読み進むことができる。
- 3.基本的な語彙を身につけ活用できる。

評価方法

小テスト（30%）（到達目標3）中間テスト（30%）（到達目標1・2）定期テスト（40%）（到達目標1・2）

注意事項

英和辞典（授業時電子辞書は可、スマホは不可）（自宅学習時はWeblioなどの使用も可）

前期に受講していない場合は基本英語（水2限）の受講を推奨する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	Culture
第3回	Music
第4回	Mountains
第5回	Weekends
第6回	Transportation
第7回	中間まとめ
第8回	Dragons and Folktales
第9回	Typhoons
第10回	Fast Food and Snacks
第11回	Detectives
第12回	Being Earth-Friendly
第13回	Challenge Yourself in the Ironman Triathlon
第14回	What Color Are You?
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習

Vocabulary Check 、 Grammar Check

復習

該当箇所（Part 1 ReadingとPart 2 Dictation）の音読、シャドーイング

小テストの準備

教科書

Reading Links 1 （南雲堂）

ISBN978-4-523-17922-1

参考書

各自使いやすい英和辞典

備考

英会話Ⅱ (TOEIC) (88554)

後期

English Conversation Ⅱ

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	三宅伸子

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

英語の基礎力、特に読解力の養成し、大学で専門書講読をする学力を養うために、学習者の習熟度に合わせ、様々な英文に接する。

TOEICは問題や選択肢など全て英語で書かれているため、英文を日本語に訳したり、日本語を英語に訳したりする問題はないが、TOEICのリスニングセクションやリーディングセクションのスコアを伸ばすためには、英語を英語の語順で理解する力を鍛える必要があり、そのために練習問題を通じて語彙、語法、典型的な文法、聴解、読解の基礎知識を習得する。

英会話Ⅰの授業はTOEIC350点を目標とし、語彙、語法、文法、聴解、読解の基礎知識習得の内容とする。

英会話Ⅱの授業はTOEIC500点を目標とし、問題の特徴・タイプ別に戦略的に問題を解く、より実践的な内容であり、英会話Ⅱを受講する前に英会話Ⅰを受講することを推奨する。

到達目標

- 1 語彙の知識を増やしてリスニングとリーディングの基礎的な知識の習得し活用できる。
- 2 基本構文の構造を理解し、素早く英文を読むことができる。

評価方法

講義に取り組む姿勢を重要視し、宿題提出、定期試験で評価を行う。

評価は、授業態度(出席状況・予習を含む)(30%) (到達目標1・2)、宿題(20%) (到達目標1)、定期試験(50%) (到達目標1・2)で判定する。

注意事項

教科書、辞書、ノートを必ず用し、十分な予習・復習をして積極的に授業に参加すること。

授業には英和・和英辞書または電子辞書を持参すること。

30分以上の遅刻は欠席とする。

授業計画

第1回 オリエンテーション、コースガイダンス、Extra Test 1

第2回 1 Transportation and Information

第3回 2 Instructions and Explanations

第4回 3 Eating and Drinking

第5回 4 Business Scene

第6回 5 Communication

第7回 6 Socializing

第8回 Extra Test 2

第9回 7 Invitation

第10回 8 Medical Treatment and Insurance

第11回 9 Culture and Entertainment

第12回 10 Shopping

第13回 11 Sports and Exercise

第14回 12 Trouble and Claims

第15回 Extra Test 3

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

テキスト出版元にアップロードされた音声ファイルを聴いて復習や自習を行います。

ネイティブの発音とスピードで何度も繰り返し聴いて英語を聴く耳を鍛えます。

本授業では予習復習の案内等、Google Classroomを活用して双方向型授業や連絡・相談を行います。活用できるようにしておくこと。

教科書

書名;START-UP COURSE FOR THE TOEIC L&R TEST REVISED EDITION

著者;北山 長貴 Bill Benfield , Mony Tavakoli

出版社;成美堂 ISBN 978-4-7919-3420-1

参考書

特になし

備考

第1回目の授業までに教科書を入手しておいてください。

英会話 I (88555)

後期

English Conversation I

教養科目

年次	2年
対象	27～17 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 Huynh Khanh

授業の概要

教養科目のうち「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。

海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。

到達目標

- 1.自然な英会話をインプットすることでアウトプットする力を身につける。
- 2.ペアワーク・英語でのゲームや、教室を歩きクラスメイトや教員に話しかけることを通して、インタビューなどが行えるようになる。
- 3.頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口について出るようになる。

評価方法

クラスの態度/出席：30%(到達目標2) 宿題/クイズ：40% (到達目標1・3) 最終プロジェクト：30% (到達目標1・2・3)

注意事項

テキストを必ず購入し、事前に単語調をし指示された問題を解いておく。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 Unit 1/2: Pleased to meet you / I'm from Nagoya

第3回 Unit 3/4: I'm retired now / This is my family

第4回 Unit 5/6: How are you? / Could you say that again, please?

第5回 Unit 7/8: I live in an apartment / Do you have a garden?

第6回 Review 1:

第7回 Unit 9/10: Do you have any hobbies? / I have rice and miso soup for breakfast

第8回 Unit 11/12: Let's go to an Italian restaurant / Thank you for the chocolates

第9回 Unit 13/14: I like to watch variety shows / How was your weekend?

第10回 Review 2:

第11回 Unit 15/16: These pancakes are delicious! / How do you celebrate?

第12回 Unit 17/18: How do you keep in shape? / How much is this sweater?

第13回 Unit 19: I'm looking for some souvenirs

第14回 Unit 20: See you soon!

第15回 Review 3:

授業外学習

学習時間の目安：合計約60時間 単語・問題の予習 30分 小テストの準備 30分 授業の復習としての音読練習 30分×6

教科書

書名： Making Friends

著者： David Williamson / Madeleine Williamson

出版社： Macmillan LanguageHouse

ISBN 9784777361250

参考書

なし

備考

なし

日本語 I (Cクラス) (88556)

前期

Japanese I

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤友子

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

今まで学習した中級レベルの日本語を復習し、次の段階に進むための足掛かりとなる授業です。大学の授業に必要なアカデミックジャパニーズを習得し、スムーズに運用できるように、文法、語彙に加え、会話能力も高めていきましょう。また身近な出来事や、世の中の動きにも関心をむけ、自分の意見を述べられるようにしていきます。

到達目標

- 1 中級以降の文法を学び運用できるようになる。
- 2 中級以降の新出語彙を学び、使うことができるようになる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学び、またそれを通して自分の意見が述べられるようになる。
- 4 日本語能力試験合格

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%(到達目標1-5を評価)と定期試験30%(到達目標1-5を評価)で総合評価する。

注意事項

- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・「日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	文法1 縮約形を使う表現 語彙演習 
第2回	文法2 提案、例えを表す表現 語彙演習  
第3回	文法3 受け身、指示詞、行為の結果表現 語彙演習  
第4回	文法4 習慣、目的表現 語彙演習
第5回	文法5 使役、願い、仕組み表現 語彙演習
第6回	文法6 べき/はず 語彙演習
第7回	文法7 他社の願望、欲求表現 語彙演習 模試対策
第8回	文法8 逆説、原因表現 語彙演習 模試対策
第9回	文法9 状態の変化、感情の表現 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	文法10 期間の表現 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	文法11 名詞化の表現 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	文法12 原因、理由のカジュアルな表現 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	文法13 話しての意志を表す表現 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	文法14 例えなどのカジュアルな表現 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

- ・授業の前には文法のテキストの予習をしておくこと。

- ・ 授業で指示された課題は次の週に提出すること。
 - ・ 随時小テストを行うので、復習しておくこと。身近なことに関心を持ちましょう。
 - ・ 毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをしてもらうので、あらかじめ準備しておく。
-

教科書

適宜プリントで配布する

参考書

スピードマスター-N3文法

20日で合格N3文字語彙文法

備考

特になし

日本語Ⅱ（Cクラス）（88557）

前期

Japanese II

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	小西裕美

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目です。

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力に必要な文法、語彙を身に付けるための授業です。

大学生活で必要なレポートを書くことを視野に入れ、短作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。

さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

1. 一般的な話題について書かれた新聞記事などの短い文章を読んで、要旨を理解することができる。
2. 学んだ文型や語句を適切に使い、文章を書くことができる。
3. テーマに沿った文章を書き、発表することができる。

評価方法

- ・各授業態度・課題レポート提出・確認テスト・JLPT模試対策50%（到達目標1、2を評価）、発表20%（到達目標3を評価）と定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。
- ・授業内で実施するJ-test模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJ-testの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、テスト
第2回	短文読解・短文作文演習
第3回	語彙・文型演習
第4回	短文読解・短文作文演習
第5回	語彙・文型演習
第6回	短文読解・短文作文演習
第7回	語彙・文型演習
第8回	作文・発表
第9回	JLPT模試対策①
第10回	JLPT模試対策②
第11回	J-test筆記問題練習
第12回	J-test模擬試験
第13回	短文読解・短文作文演習
第14回	語彙・文型演習
第15回	作文・発表

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・ 随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 『新完全マスター文法 日本語能力試験N2』スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-565-7
- 『日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスター』Jリサーチ出版 ISBN978-86392-060-6

備考

なし

日本語Ⅲ（Cクラス）（88558）

後期

Japanese III

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤友子

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。大学の授業で必要なアカデミックジャパニーズを習得し、日本語の4技能において、スムーズに運用できるように、主に中級以降の文法、語彙に加え、TPOを考えた会話の運用にも取り組みましょう。またニュースなどに関して、注意をむけ関心を持ち、自分の意見を自分の言葉で述べられるようになりましょう。

到達目標

- 1 中級以降の文法の習得、スムーズな運用
- 2 中級以上の語彙を学び、使うことができる。
- 3 日本の社会事情や習慣・慣習を学ぶことができる。
- 4 テーマに沿って、自分の意見をもち、言葉にすることができる。

評価方法

課題レポート提出・発表・確認テストなど70%（到達目標1-5を評価）と定期試験30%（到達目標1-5を評価）で総合評価する。

注意事項

- ・配布したプリントはテキストがわりなので、必ずファイルに閉じて保管しておくこと。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が実施するJtestの随時試験を必ず受験すること。

授業計画

回数	内容
第1回	文法1 代理、代用、事柄の列挙の表現 語彙演習
第2回	文法2 行動の意志、出来事の可能性の表現 語彙演習
第3回	文法3 モダリティの表現 語彙演習 第4回 N1文法4週2日目 語彙演習
第4回	文法4 実践演習 語彙演習
第5回	文法5 話しての願望、言い訳表現 語彙演習
第6回	文法6 使役受け身、予定表現 語彙演習 模試対策
第7回	文法7 程度表現 語彙演習 模試対策
第8回	文法8 伝聞、判断の表現 語彙演習 模試対策
第9回	文法9 根拠、視点の表現 語彙演習 模試対策
第10回	JLPT対策
第11回	文法10 カジュアルな依頼、気持ちを表す表現 語彙演習 ニュースで聴解
第12回	文法11 時、立場の表現 語彙演習 ニュースで聴解
第13回	文法12 手段、期間の表現 語彙演習 ニュースで聴解
第14回	文法13 には、とは、のに、のも 語彙演習 Jtest筆記問題練習
第15回	文法14 批判的な表現 語彙演習 Jtest筆記問題練習

授業外学習

学習時間の目安合計60時間

- ・授業の前には文法の予習をしておくこと。
 - ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
 - ・随時テストを行うので、復習をしておくこと。
 - ・ニュースなどをみておくこと。毎週順番に関心事などについて、ショートスピーチをもらうので、あらかじめ準備しておく。
-

教科書

適宜プリントで配布す

参考書

スピードマスター-N3文法

20日で合格N3文字語彙文法

備考

特になし

日本語Ⅳ（Cクラス）（88559）

後期

Japanese IV

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	小西裕美

授業の概要

教養科目のうち、「異文化理解を深め、コミュニケーション能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

本科目は、留学生を対象とした科目です。

日本語初中級を学習した学生が復習をしつつ、中級レベルの教材を用い、日本の大学で求められる基礎的な読解力及び表現力に必要な文法、語彙を身に付けるための授業です。

大学生活で必要なレポートを書くことを視野に入れ、短作文や発表などの表現練習を繰り返し行う中で、語彙、表現能力を高めていきます。

さらに、日本語能力試験のための試験対策も行います。

到達目標

- 1.一般的な話題について書かれた新聞記事などの短い文章を読んで、要旨を理解することができる。
- 2.学んだ文型や語句を適切に使い、文章を書くことができる。
- 3.テーマに沿った文章を書き、発表することができる。

評価方法

- ・各授業態度・課題レポート提出・確認テスト・JLPT模試対策50%（到達目標1、2を評価）、発表20%（到達目標3を評価）と定期試験30%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。
- ・授業内で実施するJ-test模試の結果を評価の一部とする。

注意事項

- ・適宜配布するプリントを必ず授業に持ってくること。
- ・日本語能力試験N1に合格していない学生は、大学が支持するJ-testの随時試験を必ず受験すること。
- ・学生の理解度、習熟度に合わせて授業を進めるため、シラバスの一部変更も考えられる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、テスト
第2回	中文読解・短文作文演習
第3回	語彙・文型演習
第4回	中文読解・短文作文演習
第5回	語彙・文型演習
第6回	中文読解・短文作文演習
第7回	語彙・文型演習
第8回	作文・発表
第9回	JLPT模試対策①
第10回	JLPT模試対策②
第11回	中文読解・短文作文演習
第12回	語彙・文型演習
第13回	J-test筆記問題練習
第14回	J-test模擬試験
第15回	作文・発表

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業で指示された課題は次の週に提出すること。
- ・随時小テストを行うので、復習をしておくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

- 『新完全マスター文法 日本語能力試験N2』スリーエーネットワーク ISBN978-4-88319-565-7
『日本語能力試験問題集 N2語彙スピードマスター』Jリサーチ出版 ISBN978-86392-060-6

備考

なし

日本国憲法（99101）

前期

The Constitution of Japan

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 矢吹香月

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日本国憲法が制定された歴史的経緯を踏まえ、日本国憲法が保障している基本的人権について、判例を題材として日常生活の側面からアプローチして解説を行う。基本的知識を活用して、日常生活における身近な社会問題から、個を尊重し、他者も尊重するために必要な法律について考える力を身につけ、現代社会の様々な事象を憲法価値の実現の視点で考えることができるようにすることを目的とした。

【アクティブ・ラーニング】「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを論理的に述べる力を養いたい。

到達目標

- 1 憲法の位置付けについて理解し説明できる。
- 2 日本国憲法の成立過程について理解し説明できる。
- 3 日本国憲法が保障する基本的人権について理解し自分の言葉で説明できる。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1-3を評価）

中間テスト：評価の割合35%（到達目標1-3を評価）

期末テスト：評価割合35%（到達目標1-3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス 法とは何か：法と法律の基礎知識を学びます。
第2回	憲法とは何か①：なぜ憲法が必要かを学びます。
第3回	憲法とは何か②：日本国憲法の制定過程および人権規定が制定された経緯を学びます。
第4回	日本国憲法を生んだ密室の9日間（DVD視聴）：日本国憲法成立の経緯について、当時草案作成にかかわったメンバーのインタビューを視聴して制定背景を学びます。
第5回	政治の仕組み・内閣のはたらき：人権を守るための組織を学びます。
第6回	憲法司法①：裁判所のはたらき、違憲審査権について学びます。
第7回	憲法と司法②：人身の自由と刑事手続き上の諸権利について学びます。
第8回	中間テスト：中間テストでこれまでの学びを確認します。
第9回	憲法と人権：日本国憲法の定める人権の特徴と日本にいる外国人の権利を学びます。
第10回	憲法と消費者①：憲法と民法の関係と日本国憲法に規定されている営業の自由について学びます。
第11回	憲法と消費者②：新しい人権について学びます。
第12回	憲法と家族①：結婚について学びます。
第13回	憲法と家族②：女性の人権について学びます。
第14回	憲法と家族③：子どもの人権について学びます。
第15回	憲法と子ども

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

高等学校までに学んだ公民科（現代社会・政治経済）を復習しておいてください。

現代社会で問題となっている事象に目を向け、問題点は何かを整理し、憲法の視点で考えることができるようにしてください。

教科書

中富公一編『憲法のちから』（法律文化社、2021）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

Philosophy

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

哲学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をとまないながら、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、哲学の位置づけ、および実践哲学としての倫理学・道徳学における主要な視点・方法・論点を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、現代社会に大きな影響を与える西洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、現代日本にも大きな影響を与える東洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

1. 実践哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
2. 西洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
3. 東洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
4. 哲学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第05回の1/3まとめ時に作成・提出する解説文（30%）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標3・4を評価

注意事項

哲学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 現代社会と哲学 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	実践哲学① 自己と他者 予習：人格同一性・仏教の渴愛について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	実践哲学② 道徳と法 予習：直躬説話・尊属殺・キケロ・カントについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	実践哲学③ 西洋と東洋 予習：語句「西洋」「東洋」「文化」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：実践哲学の視点・方法・論点を整理する。

回数	内容
第6回	西洋哲学① 功利主義 予習：ベンサム・JSミル・規則功利主義について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	西洋哲学② 自由主義 予習：危害原則・愚行権について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	西洋哲学③ 構造主義 予習：レヴィ＝ストロース・フーコーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	西洋哲学④ 正義論 予習：ロールズ・無知のベールについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：西洋哲学の視点・方法・論点を整理する。
第11回	東洋哲学① 天と道と気 予習：論語・老子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	東洋哲学② 性命と身体 予習：本性論・経絡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	東洋哲学③ 仁義と忠孝 予習：孟子・韓非子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	東洋哲学④ 無為と自然 予習：老子・荘子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：東洋哲学の視点・方法・論点を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（A）（99103）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～23R
単位数	2.0単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWebの活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点60%（到達目標1～4を評価）と授業中に指示する課題40%（到達目標2～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェクト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Webの活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Webの活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

Physics

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。

押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。

人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

1. 力とトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを理解し説明できる。
2. 物理で広がる広大な世界に気づいた上で保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解し説明できる。

評価方法

ワークシートおよび反転学習課題レポート60%（到達目標1・2を評価）、確認テスト40%（到達目標1・2を評価）

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。

2週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。

プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4つ！なぜ2つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不可思議さ
第10回	エンジンと逆エンジン
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟

回数	内容
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・ 1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
- ・ 2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
- ・ 3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。

（以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

（なし）

コンピュータリテラシ（B）（99105）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～23R
単位数	2.0単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWebの活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点60%（到達目標1～4を評価）と授業中に指示する課題40%（到達目標2～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェクト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Webの活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Webの活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

Philosophy

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。

哲学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をとまないながら、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、哲学の位置づけ、および実践哲学としての倫理学・道徳学における主要な視点・方法・論点を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、現代社会に大きな影響を与える西洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、現代日本にも大きな影響を与える東洋哲学における主要な視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

1. 実践哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
2. 西洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
3. 東洋哲学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
4. 哲学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第05回の1/3まとめ時に作成・提出する解説文（30%）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標3・4を評価

注意事項

哲学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 現代社会と哲学 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	実践哲学① 自己と他者 予習：人格同一性・仏教の渴愛について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	実践哲学② 道徳と法 予習：直躬説話・尊属殺・キケロ・カントについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	実践哲学③ 西洋と東洋 予習：語句「西洋」「東洋」「文化」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：実践哲学の視点・方法・論点を整理する。

回数	内容
第6回	西洋哲学① 功利主義 予習：ベンサム・JSミル・規則功利主義について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。
第7回	西洋哲学② 自由主義 予習：危害原則・愚行権について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	西洋哲学③ 構造主義 予習：レヴィ＝ストロース・フーコーについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	西洋哲学④ 正義論 予習：ロールズ・無知のベールについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：西洋哲学の視点・方法・論点を整理する。
第11回	東洋哲学① 天と道と気 予習：論語・老子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	東洋哲学② 性命と身体 予習：本性論・経絡について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	東洋哲学③ 仁義と忠孝 予習：孟子・韓非子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	東洋哲学④ 無為と自然 予習：老子・荘子について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：東洋哲学の視点・方法・論点を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

日本国憲法（99151）

後期

The Constitution of Japan

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 矢吹香月

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日本国憲法が制定された歴史的経緯を踏まえ、日本国憲法が保障している基本的人権について、判例を題材として日常生活の側面からアプローチして解説を行う。基本的知識を活用して、日常生活における身近な社会問題から、個を尊重し、他者も尊重するために必要な法律について考える力を身につけ、現代社会の様々な事象を憲法価値の実現の視点で考えることができるようにすることを目的とした。

【アクティブ・ラーニング】「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを論理的に述べる力を養いたい。

到達目標

- 1 憲法の位置付けについて理解し説明できる。
- 2 日本国憲法の成立過程について理解し説明できる。
- 3 日本国憲法が保障する基本的人権について理解し自分の言葉で説明できる。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1-3を評価）

中間テスト：評価の割合35%（到達目標1-3を評価）

期末テスト：評価割合35%（到達目標1-3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス 法とは何か：法と法律の基礎知識を学びます。
第2回	憲法とは何か①：なぜ憲法が必要かを学びます。
第3回	憲法とは何か②：日本国憲法の制定過程および人権規定が制定された経緯を学びます。
第4回	日本国憲法を生んだ密室の9日間（DVD視聴）：日本国憲法成立の経緯について、当時草案作成にかかわったメンバーのインタビューを視聴して制定背景を学びます。
第5回	政治の仕組み・内閣のはたらき：人権を守るための組織を学びます。
第6回	憲法司法①：裁判所のはたらき、違憲審査権について学びます。
第7回	憲法と司法②：人身の自由と刑事手続き上の諸権利について学びます。
第8回	中間テスト：中間テストでこれまでの学びを確認します。
第9回	憲法と人権：日本国憲法の定める人権の特徴と日本にいる外国人の権利を学びます。
第10回	憲法と消費者①：憲法と民法の関係と日本国憲法に規定されている営業の自由について学びます。
第11回	憲法と消費者②：新しい人権について学びます。
第12回	憲法と家族①：結婚について学びます。
第13回	憲法と家族②：女性の人権について学びます。
第14回	憲法と家族③：子どもの人権について学びます。
第15回	憲法と子ども

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

高等学校までに学んだ公民科（現代社会・政治経済）を復習しておいてください。

現代社会で問題となっている事象に目を向け、問題点は何かを整理し、憲法の視点で考えることができるようにしてください。

教科書

中富公一編『憲法のちから』（法律文化社、2021）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

メディア映像論 (99152)

後期

Media and Image Making

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	丸田昌宏 田丸稔 土井原由子 水田直美 馬場始三 中川浩一 大屋努 松田博義 西田幸司

授業の概要

情報ネットワークは、私たちの生活の基盤となるモノや空間にまで深く浸透し、携帯やパソコンなどデジタル化されたメディアなしの生活はもはや想像できない。

この授業では教養科目のうち、DP「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とし、デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像、放送の領域を中心に、それぞれの分野における歴史を踏まえ、今日の状況や未来への課題について、オムニバス形式で概説する。

到達目標

1 デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての幅広い知識を修得し、説明できる。

評価方法

- 到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢、授業内で行う小レポートにより評価し総合計60点以上を合格とする。
- 評価の比率は、態度・姿勢40%、レポート60%を基準とする。

注意事項

- 必ず、前期登録期間中に履修登録をしてください。後期での新規な登録追加はできません。
- 教室の収容定員を超えるときは、前期期間中に履修許可者の選定を行います。その際、1年次生の履修を優先します。選定の日時については別途お知らせしますので、掲示板やポータルサイトに注意しておいてください。
- この講義では毎回の授業で小レポートをGoogle Formで課すため、履修者は講義時間時にGoogle Formを開くためのモバイル端末（スマートフォン、タブレット、ノートPCなど）を各自で準備すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス（メディアとは）：丸田昌宏
第2回	情報社会（インターネットの歴史と現状）：馬場始三
第3回	アプリ（現状と実例）：馬場始三
第4回	1.ゲーム（歴史と作品）：大屋努
第5回	2.ゲーム（現状と実例・制作プロセス）：大屋努
第6回	1.マンガ（歴史と作家）：松田博義
第7回	2.マンガ（実例）：松田博義
第8回	1.アニメ（アニメーション表現のエッジな領域）：中川浩一
第9回	2.アニメ（拡張されたアニメーション）：中川浩一
第10回	コミックイラスト（現状と実例）：土井原由子
第11回	1.Webデザイン（歴史と技術）：西田幸司
第12回	2.Webデザイン（現状と制作プロセス）：西田幸司

回数	内容
第13回	コンテンツの言語表現：水田 直美
第14回	コンテンツの非言語表現：水田 直美
第15回	まとめ：（メディアと映像 映像は作られる）：丸田 昌宏

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

デジタル化されたマンガ、アニメ、ゲーム、コミックイラスト、Webデザイン、映像の領域についての情報を、インターネットなどを活用して事前に収集しておくこと。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

レポートを提出するGoogle Formを開くためのモバイル端末（スマートフォン、タブレット、ノートPCなど）の貸し出しはありません。レポートの提出締め切りは厳守すること。

Physics

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	山本健治

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群の一つである。
押し相撲では、相手から受ける「力の持続」が自分を後退させる。ボール投げでも、手から受ける「力の持続」がボールの勢いを増やしている。ニュートンにとって「持続的作用」は「力積（力の時間積分）」であった。デカルトはビリヤードに興じ、球の衝突を真剣に考えたことから、いち早く「運動量を変化させる」素因に気づいた。ただ、微積分法の発見はニュートンを待たねばならなかった。
人類が自然を理解してきた歴史は、完成された学問体系より数奇で味わい深い。身近な現象でさえも、偉大な発見の履歴をたどれば、かつては未知の世界のテーマであった。「運動量の変化」と「力積」の関係が運動方程式の、そして「系のエネルギーの変化」と「系になされる仕事」の関係がエネルギー保存法則の、それぞれの発見を導いたように、である。

【アクティブ・ラーニング】視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】ワークシートでの確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象の理解と概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

1. カとトルク（力のモーメント）のつり合いや運動のしくみを理解し説明できる。
2. 物理で広がる広大な世界に気づいた上で保存法則や運動法則を身の回りの出来事に適用して理解し説明できる。

評価方法

ワークシートおよび反転学習課題レポート60%（到達目標1・2を評価）、確認テスト40%（到達目標1・2を評価）

注意事項

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートしていくこと。
2週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すべきである。2週単位で綴じるか、またはノート用紙を毎時挿入するかして管理すること。

授業計画

回数	内容
第1回	力は4つ！なぜ2つしか見えぬ？
第2回	機関車はなぜ重い？
第3回	作用力と反作用力はつり合わない！
第4回	吊橋の塔はなぜ高い？
第5回	時間をかけて受ける力で物は勢いを増す
第6回	いろいろな力と運動
第7回	力でされる仕事
第8回	発電の原理はモーターにあり！
第9回	目からウロコ、光の不可思議さ
第10回	エンジンと逆エンジン
第11回	ブレーキから生まれたIHクッキング
第12回	エネルギー保存の法則
第13回	変化球とカルマン渦は兄弟

回数	内容
第14回	なぜ台風は左回りか？
第15回	最終確認テストとまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（15週）

【フィードバック（2週で授業と一体）】

- ・ 1週目（4時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
- ・ 2週目（4時間）：（1週目後に）成果の応用へ思いを巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノート記入、また課題プリントに記入する。
- ・ 3週目以降は（次のテーマについて）1週目と同様の取り組みをする。

（以上、2週1セットの繰り返し中に、5回前後の課題レポート提出を含む）

教科書

物理2600年の歴史を変えた51のスケッチ

ドン・S・レモンズ 著

村山 斉 解説

倉田幸信 訳

プレジデント社

ISBN978-4-8334-2241-3

参考書

視聴覚教材に合わせたプリント、課題プリントを毎時間配布する。

備考

（なし）

現代の芸術 (99154)

後期

Contemporary Art

教養科目

年次	1年
対象	28～22 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	濱坂 渉

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本质を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

芸術の領域の中で、主として第二次世界大戦後(1945～)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」→氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観など→は、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといつてよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- 1.現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- 2.現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- 3.現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。

評価方法

中間レポート50%(到達目標1・2・3)、期末レポート50%(到達目標1・2・3)

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

第01回 はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり

第02回 イズムの時代-1:表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム(絶対主義)ロシア構成主義の要約

第03回 イズムの時代-2:デ・スタイル、パウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第04~08回 第二次世界大戦後の美術-1(1945頃~1960頃)

人間像の再発見と素材表現:具象と抽象のドグマ:人工材料、自然素材,アブストラクション=クレアシオン(抽象・創造)、アメリカン・シーン、日本の状況ほか

リアリズムの変容:アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル(実存的な抽象)ポップアートのオブジェと情景彫刻、ニューヴォーリアリズム、資本主義リアリズム

モダニズムの系譜:構成主義-その後:彫刻と絵画の狭間-プライマリー・ストラクチュア,絵画的抽象以後「カラー=フィールド・ペインティング」 「ハード・エッジ絵画」

絵画の仕組み:オブ・アート「シュポール/シュルファス(支持体/表面)」スーパー・リアリズム

第09~12回 第二次世界大戦後の美術-2(1960頃~1980頃)

形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品:ミニマリズム:反リユージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクサス」

自然環境に対する3つの態度:キネティックアート:アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰

メッセージの多元性とインスタレーション:アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義(ネオ・エクスプレッションニズム)

公共芸術と形式の再構築:パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・ブリティッシュ・スカulpture

第13~15回 アートワールドのグローバル化の時代(1980頃~21世紀)

芸術のサバイバル戦略:グラフィティ・アート、ネオ・ジコ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラルニズム(多文化主義)メディア・アート、物語性の追求と映像表現 日本と世界の現状と表現者の同時代性について 総復習、まとめ(期末レポート)

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

現代の芸術は一般教養の科目群であるが、講師自身が過去50年近く参加した作品展、世界中で見聞した現代美術の動向などを踏まえ、単に導入的な一般的な科目ではなく、体験に裏打ちされた専門的な美術論である。あえて一般教養に設定したのは、学部学科にとらわれず倉敷芸術科学大学の学生に広く、現実の芸術の現場で活動している作家の視点で論じたいと思ったからである。各項目は全てを論ぜず、その都度省略する場合もある。

現代の美術 (99155)

後期

Contemporary Art

教養科目

年次	1年
対象	21～18芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	濱坂 渉

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本质を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

芸術の領域の中で、主として第二次世界大戦後(1945～)から現代に至る美術の流れをたどる。現代における美術の変化ははなはだしく、これは近代によって始まる「見ること」の大きな変化と歩みを共にしている。私たちが日頃何気なく体験している日常生活の中の「見ること」→氾濫する映像、絶え間なく変動する社会環境、物理科学的な自然・世界観などは、ここ100年余りの近・現代の歴史的・社会的変化によって形作られてきたものであり、私たちの感覚は歴史によって規定されているといつてよい。そして美術は、こうした私たちの感覚の変化をはっきりと照らし出すものである。

【フィードバック】中間レポート、期末レポートで芸術の変化の動向と質的変容に覚醒すること。

到達目標

- 1.現代の美術について積極的に「見ること」を通じて鑑賞できる。
- 2.現代の美術の社会的背景や、歴史的に規定された感覚の変化を認識できる。
- 3.現代美術史の座標軸を表現と関連して理解できる。1.

評価方法

中間レポート50%(到達目標1・2・3)、期末レポート50%(到達目標1・2・3)

注意事項

授業中参照した資料は、可能な限り自習時間に調べておくこと。

授業計画

第01回 はじめに-モダニズム表現の確立と抽象のはじまり

第02回 イズムの時代-1:表現主義、キュビズム、オルフィスム、イタリア未来派、シュプレマティスム(絶対主義)ロシア構成主義の要約

第03回イズムの時代-2:デ・スタイル、バウハウス、ダダ、シュールレアリスム、新即物主義、形而上絵画、日本の状況要約

第04~08回 第二次世界大戦後の美術-1(1945頃~1960頃)

人間像の再発見と素材表現:具象と抽象のドグマ:人工材料、自然素材,アブストラクション=クレアシオン(抽象・創造)、アメリカン・シーン、日本の状況ほか

リアリズムの変容:アメリカ抽象表現主義、アンフォルメル(実存的な抽象)ポップアートのオブジェと情景彫刻、ニューヴォーリアリズム、資本主義リアリズム

モダニズムの系譜:構成主義-その後:彫刻と絵画の狭間-プライマリー・ストラクチュア,絵画的抽象以後「カラー=フィールド・ペインティング」
「ハード・エッジ絵画」

絵画の仕組み:オブ・アート「シュポール/シュルファス(支持体/表面)」スーパー・リアリズム

第09~12回 第二次世界大戦後の美術-2(1960頃~1980頃)

形式の拡散、あるいは芸術哲学としての作品:ミニマリズム:反リユージョンとプロセス、コンセプチャル・アート、パフォーマンス・アート、「フルクサス」

自然環境に対する3つの態度:キネティックアート:アースワーク、ランド・アートの功罪、環境と自然回帰

メッセージの多元性とインスタレーション:アルテポーベラ、インスタレーションの冒険、身体性、表現の多様化、新表現主義(ネオ・エクスプレッショニズム)

公共芸術と形式の再構築:パブリックアートとサイトスペシフィックワーク、ニュー・ブリティッシュ・スカulpture

第13~15回アートワールドのグローバル化の時代(1980頃~21世紀)

芸術のサバイバル戦略:グラフィティ・アート、ネオ・ジコ、シュミレーションニズム、マルチカルチュラルリズム(多文化主義)メディア・アート、物語性の追求と映像表現 日本と世界の現状と表現者の同時代性について 総復習、まとめ(期末レポート)

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

一週間に4時間以上の自主的学習を必要とする。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

現代の芸術は一般教養の科目群であるが、講師自身が過去50年近く参加した作品展、世界中で見聞した現代美術の動向などを踏まえ、単に導入的な一般的な科目ではなく、体験に裏打ちされた専門的な美術論である。あえて一般教養に設定したのは、学部学科にとらわれず倉敷芸術科学大学の学生に広く、現実の芸術の現場で活動している作家の視点で論じたいと思ったからである。各項目は全てを論ぜず、その都度省略する場合もある。

Linguistics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	水田直美

授業の概要

教養科目のうち、DP「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とし、人の使用する「言語」とコミュニケーションについての知識を身につける科目である。

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標1, 2, 3）、期末試験70%（到達目標1, 2, 3）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第1回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（1）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（1）語種
第9回	言語の接触と選択（2）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（1）定義・性質
第12回	コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（3）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。
-

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

無し

Psychology

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。

多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の提示と解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

定期試験を受験していない場合はE評価とする。

注意事項

心理学に関する調査・実験への参加者を募集する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン/ボトムアップ処理 課題レポート作成。
第4回	学習（1）条件づけのしくみ 予習：41-49ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（2）学習理論の展開 予習：50-57ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。

回数	内容
第6回	<p>記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。</p>
第7回	<p>記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知</p>
第8回	<p>発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用</p>
第9回	<p>発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。</p>
第10回	<p>動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現</p>
第11回	<p>動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。</p>
第12回	<p>パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性</p>
第13回	<p>パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス</p>
第14回	<p>対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション</p>
第15回	<p>集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的な手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。</p>

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回4時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

Wellness for Life

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	菅正樹 内藤佐和

授業の概要

「生活と科学」系列の教養科目である。

また教養科目のうち、「健康的な生活を営むことができる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

健康的な生活を送るためには、運動や食生活についての知識が不可欠である。

この授業では、健康と運動の関連性について、運動生理学分野の基礎的な知識をもとに、健康維持増進のための運動方法を学ぶ。

また、栄養学的にどのような食生活が理想的であるのかも学び、自身の生活習慣の問題点と改善方法について考察し、健康的な生活を営むことができる人材の育成を目的とする。

到達目標

- 1 健康を維持増進するための運動および食生活について理解し説明できる。
- 2 自身の運動習慣および食生活について改善点を考察し、実践できる。

評価方法

レポート50%（到達目標1、2を評価）および定期試験50%（到達目標1、2を評価）により総合的に評価する。

この授業では定期試験が必須条件であり、受験していない場合は評価の対象とならない。

注意事項

この科目は履修状況によっては履修者数の制限をすることがあります。

その場合、2年次生以上を優先することとなりますので留意してください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（菅）
第2回	健康とは（菅）
第3回	トレーニングの原則（菅）
第4回	スポーツと運動（菅）
第5回	スポーツと近代社会（菅）
第6回	食生活の変化と健康問題（内藤）
第7回	バランスのよい食事とは（内藤）
第8回	食生活習慣の調査（内藤）
第9回	食生活習慣の改善（内藤）
第10回	栄養素の種類と働き（内藤）
第11回	運動と栄養（内藤）
第12回	腸の健康と食生活（内藤）
第13回	生活習慣病と食生活（内藤）
第14回	食の安全と健康（内藤）
第15回	まとめ（内藤）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に関連する資料やテキストをよく読み、専門用語等が理解できるよう予習しておくこと。
復習として、課題レポートを5回出題する。

教科書

「栄養の基本がわかる図解事典」、成美堂出版、中村丁次監修、ISBN：978-4-415-32743-3

参考書

最新の参考文献等を適宜紹介する。

備考

(なし)

異文化理解 (99203)

前期

Cross-cultural understanding

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

異文化理解の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間と社会とのかかわりについての深い認識と論理的・批判的思考力をやしなひ、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、異文化理解にかんする重要概念を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、〈異文化の基礎的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。第6～9回で、個人ワーク・グループワークを通じて異文化トレーニングの実践例をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、〈異文化の体験的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。第11～14回で、カルチャーマップをはじめとする異文化理解の諸理論についてまなび、第15回の3/3まとめにおいて、〈異文化理解の理論的理解〉を主題とするレポートの作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出されたレポートの内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 異文化理解に必要な基礎的概念について、理解し説明できる。
- 異文化理解に必要な実践的トレーニングについて、体験にもとづき説明できる。
- 異文化理解に必要な諸理論について、理解し説明できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第05回の1/3まとめ時における作成レポート（30%）：到達目標1を評価

第10回の2/3まとめ時における作成レポート（35%）：到達目標2を評価

第15回の3/3まとめ時における作成レポート（35%）：到達目標3を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 異文化理解の内容と意義 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	異文化理解の重要概念① 文化的価値観・価値志向 予習：文化的価値観・価値志向について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	異文化理解の重要概念② ステレオタイプ・偏見・自文化中心主義 予習：ステレオタイプ・偏見・自文化中心主義について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	異文化理解の重要概念③ コンテキスト・異文化適応力 予習：コンテキスト・異文化適応力について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ / レポート作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の基礎的理解〉について整理する。
第6回	異文化トレーニング① 「やさしい日本語」 予習：「やさしい日本語」について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第7回	異文化トレーニング②「日本語を説明する」1.かなづかい 予習：日本語のかなづかいについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	異文化トレーニング③「日本語を説明する」2.尊敬語 予習：日本語の尊敬語について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	異文化トレーニング④「日本語を説明する」3.謙譲語 予習：日本語の謙譲語について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ / レポート作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の体験的理解〉について整理する。
第11回	異文化理解の理論① カルチャーマップ・コミュニケーション 予習：カルチャーマップのコミュニケーションについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	異文化理解の理論② 評価・説得 予習：カルチャーマップの評価・説得について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	異文化理解の理論③ リード・決断・信頼 予習：カルチャーマップのリード・決断・信頼について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	異文化理解の理論④ 見解の相違・スケジューリング 予習：カルチャーマップの見解の相違・スケジューリングについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ / レポート作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、レポート作成にそなえる。 復習：みずからの〈異文化の理論的理解〉について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Economics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	山中高光

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

この講義は現代社会の経済事情・経済問題に関心のある学生を対象に経済学の基礎を学ぶ。経済学の基本概念・基礎理論を学ぶことを通じて、経済学的な考え方・経済社会に対する洞察力、判断力を養う。

到達目標

1. 経済学の基礎知識と基本理論を理解する。
2. 現実の経済問題の把握と経済政策を考察し、社会生活の改善を提案できるようになる。

評価方法

課題：30%（到達目標1・2を評価）

期末テスト：70%（到達目標1・2を評価）

注意事項

授業中に無用な私語を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・経済学とは何か？－経済生活と経済学
第2回	経済の歴史（1）－市場経済の歩み
第3回	経済の歴史（2）－日本経済の歩み
第4回	ミクロ経済学：需要と供給
第5回	ミクロ経済学：家計の行動
第6回	ミクロ経済学：企業の行動
第7回	ミクロ経済学：市場の働き
第8回	ミクロ経済学：市場の限界と政府の役割
第9回	マクロ経済学：GDPとは
第10回	マクロ経済学：GDPの決定と乗数モデル
第11回	マクロ経済学：貨幣と金融
第12回	マクロ経済学：マクロ経済政策
第13回	マクロ経済学：貿易と為替レート
第14回	マクロ経済学：経済成長と経済発展
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

経済に関わるニュースや話題などをチェックし、授業で学んだ知識などを活用して、経済に対する理解を深め、経済問題について改善策などを考察する。

教科書

講義資料を配布する

参考書

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第3版）東洋経済新報社、2019年。ISBN 9784492315217

伊東元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

備考

Google Classroomを資料提示，課題の提出および解説などに活用する。

化学 (99205)

前期

Chemistry

教養科目

年次	1年
対象	28～20芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤恒夫

授業の概要

教養科目のうち、「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。日常の暮らしに必要とされる基礎的な一般化学事項の修得を目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能などを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験60%（到達目標1, 3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
- ・ 復習として、課題レポート（宿題）を5回出題する。
- ・ レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

Psychology

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。

多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。

【フィードバック】

- ・各回のシャトルカードで質問等に答えるとともに、重要な点については補足説明を行う。
- ・課題レポートについて、模範解答の提示と解説を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- (1) 心理学の各領域での主要トピックを理解する。
- (2) 自身の生活体験と、講義内容を関連づけることができる。
- (3) 自他への人間理解を深める。

評価方法

シャトルカード（到達目標2・3）、課題レポート（到達目標1・2）と定期試験（到達目標1）で評価を行う。評価は、シャトルカード10%、課題レポート20%、定期試験70%の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

定期試験を受験していない場合はE評価とする。

注意事項

心理学に関する調査・実験への参加者を募集する場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー素朴心理学と行動科学としての心理学の違い 予習：高校までに履修した内容で、心理学に関係すると思われるものを探す 復習キーワード：素朴心理学、イギリス経験主義哲学、構成主義心理学、機能主義心理学、ゲシュタルト心理学、行動主義心理学、操作主義
第2回	知覚ー心理的世界と物理的世界 予習：3-19ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：知覚的世界、物理的世界、感覚、知覚、図と地、群化の要因、錯覚、知覚的恒常性、注意
第3回	認知ー脳の機能、パターン認知 予習：21-33ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：大脳半球機能差、パターン認識、トップダウン/ボトムアップ処理 課題レポート作成。
第4回	学習（1）条件づけのしくみ 予習：41-49ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習、古典的条件づけ、道具的条件づけ、オペラント条件づけ、強化、消去、般化と分化、弁別、強化スケジュール
第5回	学習（2）学習理論の展開 予習：50-57ページ、Classroomに提示する配布資料を読む。 復習キーワード：社会的学習、行動療法、認知理論、連合理論 課題レポート作成。

回数	内容
第6回	<p>記憶・思考（１）－記憶のしくみ 予習：34-37、59-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：感覚貯蔵、短期記憶、長期記憶、リハーサル、エピソード記憶、意味記憶、スキーマ、チャンク、体制化、忘却 課題レポート作成。</p>
第7回	<p>記憶・思考（１）－問題解決 予習：74-77ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：問題解決、学習の構え、ヒューリスティック、アルゴリズム、メタ認知</p>
第8回	<p>発達（１）－発達観の変遷 予習：81-87ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：愛着、敏感期、マターナル・ディプリベーション、野性児、遺伝的要因、環境的要因、相互作用</p>
第9回	<p>発達（２）－さまざまな発達課題 予習：88-95ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：象徴遊び、自己中心性、前／具体的／形式的操作期、思春期、第二反抗期、自己像、自我同一性、モラトリアム、ライフ・サイクル、エディプス・コンプレックス 課題レポート作成。</p>
第10回	<p>動機づけ・情緒（１）－動機づけの種類 予習：97-103ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：動機、誘因、一時的／二次的動機、内発的／外発的動機、ホメオスタシス、社会的動機、葛藤、欲求不満、自己実現</p>
第11回	<p>動機づけ・情緒（２）－動機づけ水準の変動（原因帰属など） 予習：104-111ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：学習性無力感、原因帰属、自己効力感、ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、情動の認知説 課題レポート作成。</p>
第12回	<p>パーソナリティ（１）－こころの構造 予習：116-123ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：イド、自我、超自我、リビドー、意識、無意識、集団的無意識、アニマ／アニムス、性格類型、性格特性</p>
第13回	<p>パーソナリティ（２）－適応 予習：124-131ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 課題レポート作成。 復習キーワード：自我防衛機制、コンプレックス</p>
第14回	<p>対人行動－対人認知、人間関係の深化 予習：152-167ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：印象形成、認知的バランス理論、自己呈示、自己開示、説得、リアクタンス理論、ノンバーバル・コミュニケーション</p>
第15回	<p>集団と社会－集団の構造と機能 予習：169-185ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習キーワード：リーダーシップ、PM理論、集団思考、集団決定、社会的な手抜き、集団規範、集団凝集性、集団モラル 課題レポート作成。</p>

授業外学習

学習時間の目安：予習・復習をあわせて各回4時間

予習：教科書の該当ページを読み、概略をつかむ。キーワードについて調べておく。

復習：それぞれのキーワードを正しく説明することができるようにする。

各単元ごとに、指定したキーワードをもとに概念間の関連性とそれらの共通点・相違点を理解してまとめて、課題レポートを作成する。

教科書

心理学ナビゲータ Ver.2|神田義浩他|北大路書房|978-4-7628-2749-5

参考書

適宜案内する。

備考

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 時任英人

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日本を取り巻く国際政治についての情報は、近年益々氾濫している。それゆえ、この分野の理解を深めようとする、私たちをとりまく国際環境が複雑性を極め、しかも争点が目まぐるしく変化を見せるため、個々人が自分の考えを持ちにくいのが実情である。しかしながら、日本社会は、国際政治を理解することなくしては、今後の事情が見えづらくなっているため、これからの未来は、そのような複雑性について少しでも自らの視点から理解を持つことが重要となってくる。

したがって、本講義では、どのような地域で生活しようとも日本を取り巻く国際情勢についての理解を持ち、一人一人がそれぞれの見識を持ち、地域にとって必要とされる社会人の一つの条件を形成することを目的としている。

【アクティブラーニング】グループワーク、プレゼンテーションをとり入れる。

【フィードバック】レポート課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 国際政治現象の一つ一つがどのような意義を有するかを理解できる。
- 2 日々の政治現象を理解するうえでの政治的思考ができる。
- 3 日々の政治的事件を新聞やニュースで理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1、3を評価）、定期試験50%（到達目標1、2、3を評価）によって成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々の新聞を読むことは義務であり、定期的に新聞・ニュースの内容を整理して発表してもらうことにする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（国際政治とは何か？）
第2回	20世紀の戦争と冷戦
第3回	国際政治における権力と国益
第4回	日本の安全保障と同盟
第5回	日本の対外政策決定過程
第6回	核兵器と新しい戦争
第7回	人権と民主主義
第8回	グローバリゼーション
第9回	日本と国際連合
第10回	地球環境問題に対する日本の政策
第11回	ナショナリズムと日本の戦争
第12回	科学技術とエネルギー
第13回	「文明の衝突」の克服
第14回	プレゼンテーション
第15回	総まとめ(これからの日本と国際政治)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
- ・ 講義の最後には、理解した内容について、100字ほどのレポートを出題する。
- ・ 全体として4000字程度のレポートを出題するので、講義の全体的な流れを、復習しておくこと。

教科書

村田・君塚・石川他『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣）

参考書

ジョゼフ・ナイ『国際紛争 第10版』（有斐閣）他

備考

Linguistics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	水田直美

授業の概要

教養科目のうち、DP「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とし、人の使用する「言語」とコミュニケーションについての知識を身につける科目である。

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標1, 2, 3）、期末試験70%（到達目標1, 2, 3）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第1回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（1）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（1）語種
第9回	言語の接触と選択（2）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（1）定義・性質
第12回	コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（3）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。
-

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

無し

化学 (99255)

後期

Chemistry

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	佐藤恒夫

授業の概要

教養科目のうち、「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。日常生活に必要とされる基礎的な一般化学事項の修得を目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能などを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 一般化学の基本的な考え方を、化学反応式、物質量、酸と塩基、酸化還元などを用いて理解し説明できる。
- 2 一般化学に関する様々な問題を、適切な理論的枠組みを用いて論述することができる。
- 3 社会などにおける一般化学の意義や重要性を、幅広く多様な視点から理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験60%（到達目標1, 3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

関数電卓を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	科学における化学
第2回	原子
第3回	元素と周期表
第4回	原子と原子のつながり
第5回	モルと化学反応式
第6回	濃度の表しかた
第7回	酸化と還元
第8回	物質の性質と状態
第9回	気体の性質
第10回	化学反応と熱エネルギー
第11回	化学反応と化学平衡
第12回	水と溶液
第13回	透析と浸透圧
第14回	酸および塩基と pH
第15回	放射線と放射能

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業計画に示した教科書の範囲を事前に読み、概略をつかんでおくこと。
- ・ 復習として、課題レポート（宿題）を5回出題する。
- ・ レポートなどは初めに人に尋ねるのではなく、まず自分で解決する努力をすること。それでも解らないところがあれば授業担当者に尋ねる。
- ・ レポートなどの具体的な内容や方法は授業中に詳しく説明する。

教科書

はじめて学ぶ化学・化学同人・野島高彦・9784759814941

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

Linguistics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	水田直美

授業の概要

教養科目のうち、DP「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とし、人の使用する「言語」とコミュニケーションについての知識を身につける科目である。

我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、人間の本質を理解し尊重するためには、「ことば」について客観的に理解する必要がある。

本授業では、言語学の概要を理解した上で、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を社会的な側面から考察する。さらに、コミュニケーションの定義や特徴について理解し、適切に運用できるようになることを目的とする。

到達目標

- 1 言語学の基礎的な概要を理解し、説明できる。
- 2 社会と人と言語との関わりについて理解し、説明できる。
- 3 コミュニケーションの特徴や規則を理解し、適切なコミュニケーションができるようになる。

評価方法

課題レポート30%（到達目標1, 2, 3）、期末試験70%（到達目標1, 2, 3）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は語学ではない。留学生が履修する場合は、資料を読解し授業内容を理解する日本語能力が必要である。

授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出の扱いなどに関する留意点を授業第1回で示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：言語学とは
第2回	言語学概論（1）ソシュール以前とソシュールの言語学 レポートⅠ「ソシュールの言語学」
第3回	言語学概論（2）構造主義の言語学（ヨーロッパ）
第4回	言語学概論（3）構造主義の言語学（アメリカ） レポートⅡ「構造主義の言語学」
第5回	言語学概論（4）生成文法理論・その後の変遷
第6回	言語学概論（5）様々な応用言語学 レポートⅢ「生成文法理論・応用言語学」
第7回	社会と言語の関係
第8回	言語の接触と選択（1）語種
第9回	言語の接触と選択（2）ことばの選択
第10回	ことばの変化 レポートⅣ「社会と言語の関係」
第11回	コミュニケーション（1）定義・性質
第12回	コミュニケーション（2）言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
第13回	コミュニケーション（3）コンテキスト
第14回	コミュニケーション（4）会話の規則 レポートⅤ「コミュニケーション」
第15回	言語学とはなにかー総復習・まとめー

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 配付資料を読み、授業の予復習を行う。復習として課題レポートを5回出題する。
 - ・ 授業内容について配付資料を利用し、重要項目の定義・説明、例をまとめる。
 - ・ 授業内容を理解しまとめるために、必要に応じて授業で追加配布する参考資料や紹介する参考書、図書館の関係書籍を読み調べる。
-

教科書

資料を配布する。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

無し

コンピュータリテラシ (99301)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～28N
単位数	2.0単位
担当教員	織田樹紀

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

1. コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
2. コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
3. インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
4. 文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
5. 表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
6. プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
7. 学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウイルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
8. 画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきたければ、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウイルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について
8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
9. Excel(2)データベースの活用
10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点

12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-415-8

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。

社会と倫理 (99302)

前期

Social and Ethics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	唐川千秋 奥本寛 水田直美 加藤敬史 ブラダンスジツ 村山公保 丸田昌宏 水野恭志 川上幸之介 山崎功晴 泉礼司 岡田誠剛 徳田美智 武光浩史

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする導入科目の1つにあたる。

現代社会で生活していくなかで直面するであろう、さまざまな倫理的課題について、自分の生き方や価値観に照らし合わせながら、どのように解決していくのかを考えることで、社会の一員として必要な、確固とした倫理観・態度を形成することを目的とする。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

【研究倫理教育】

研究不正防止の観点から研究倫理（研究活動における不正行為（捏造、改ざん、盗用）、研究データの管理など）に関する内容を含む。

到達目標

- (1) 現代社会に存在するさまざまな倫理的な問題について多面的に考え、自分の言葉で表現することができる。
- (2) 根拠に基づいて、自分の意見を主張したり、他人の意見を評価・批判（critical thinking）したりすることができる。

評価方法

各回の小テストないしは小レポート（3点×15回＝45点）（到達目標1）、および最終レポート（55点）（到達目標2）で評価する。総合計60点以上を合格とする。

最終レポートが未提出の場合はE評価とする。

注意事項

履修登録者数が教室収容定員数を超える場合、水曜日1時限に2クラスを同時開講する。

授業計画

【Aクラス】メディア映像学科・デザイン芸術学科・生命医科学科・危機管理学科

1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）

2週目：芸術と倫理（1）放送倫理とCM倫理（メディア映像学科・丸田）

3週目：芸術と倫理（2）PC（ポリティカル・コレクティブネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）

4週目：芸術と倫理（3）現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）

5週目：企業と倫理（1）企業とコンプライアンス（危機管理学科・村山）

6週目：企業と倫理（2）情報化社会と倫理（危機管理学科・ブラダン）

7週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・徳田／外部講師）

8週目：科学技術と倫理（1）責任ある研究活動（生命科学科・奥本）

9週目：科学技術と倫理（2）技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）

10週目：科学技術と倫理（3）科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・加藤）

- 11週目：生命と倫理（1） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）
12週目：生命と倫理（2） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野／外部講師）
13週目：生命と倫理（3） ユニバーサルデザイン教育と特別支援教育（生命医科学科・泉）
14週目：自然環境と倫理（1） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）
15週目：自然環境と倫理（2） 動物の福祉（動物生命科学科・武光）

【Bクラス】生命科学科・健康科学科・動物生命科学科

- 1週目：オリエンテーション（動物生命科学科・唐川）
2週目：科学技術と倫理（1） 責任ある研究活動（生命科学科・奥本）
3週目：科学技術と倫理（2） 技術者倫理の原則としての倫理綱領とそこに含まれる価値（生命科学科・山崎）
4週目：科学技術と倫理（3） 科学技術の発展と環境破壊（健康科学科・加藤）
5週目：生命と倫理（1） ヘルシンキ宣言、インフォームド・コンセント（動物生命科学科・唐川）
6週目：生命と倫理（2） 人間の尊厳、尊厳死、脳死と臓器移植（健康科学科・水野／外部講師）
7週目：生命と倫理（3） ユニバーサルデザイン教育と特別支援教育（生命医科学科・泉）
8週目：自然環境と倫理（1） 再生医療・遺伝子診断・優生学の問題（生命医科学科・岡田）
9週目：自然環境と倫理（2） 動物の福祉（動物生命科学科・武光）2週目：芸術と倫理（1） 放送倫理とCM倫理（メディア映像学科・丸田）
10週目：犯罪被害者支援の現状と課題（危機管理学科・徳田／外部講師）
11週目：芸術と倫理（1） 放送倫理とCM倫理（メディア映像学科・丸田）
12週目：芸術と倫理（2） PC（ポリティカル・コレクトネス）と表現の変遷・自由（メディア映像学科・水田）
13週目：芸術と倫理（3） 現代アートと倫理（デザイン芸術学科・川上）
14週目：企業と倫理（1） 企業とコンプライアンス（危機管理学科・村山）
15週目：企業と倫理（2） 情報化社会と倫理（危機管理学科・ブラダン）

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間

各回のトピックについて、参考図書・資料をもとに省察的な思考や自己モニタリングを行い、「何が問題となっているのか」「自分は、どのような論拠に基づいてどのように考えるのか」を自分の言葉で表現できるようにする。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

Life and the Arts

教養科目

年次	1年
対象	28～22 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	田丸稔 磯谷晴弘 松岡智子 クリスウォルトン 井上昌崇 張慶南 柳田宏治 吉田磨希 森山知己 川上幸之介 後藤秀典

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

人々の暮らしや社会において芸術の果たす役割は大きく、様々な芸術活動が暮らしや社会に影響を与える場面が増えている。このような芸術の状況を概観し、その価値や可能性を理解することを目的とする。講義は、芸術の中でも特にデザイン、美術、工芸の領域を中心に、これら芸術諸分野の専門家によるオムニバス形式とし、それぞれの分野における暮らしと芸術の関係について歴史や今日の状況、未来への課題等を事例研究を交えて議論する。

到達目標

- 暮らしの中に存在する芸術について、歴史や今日の状況、未来への課題等について理解できるようになる。
- 人間の本質を理解し、人間性を尊重できる。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（20%）、講義中の小テスト（80%）を基準として総合的に評価する。（到達目標1・2を評価）

注意事項

特になし。

授業計画

- オリエンテーション：学科長（田丸）より
- 日本美術史について：松岡
- 西洋美術について：ゲストスピーカー
- 美術系1（絵画について）：ゲストスピーカー
- 美術系2（日本画について）：森山
- 美術系3（彫刻について）：田丸
- 美術系4（現代アートについて）：川上
- 工芸系1（ガラス工芸について）：磯谷
- 工芸系2（ガラス工芸について）：張
- 工芸系3（陶芸について）：井上
- デザイン系1（プロダクトデザインについて）：柳田
- デザイン系2（イラストレーションについて）：ウォルトン
- デザイン系3（イラストレーションについて）：吉田
- デザイン系4：ゲストスピーカー
- デザイン系5（ビジュアルデザインについて）：後藤

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

シラバスをチェックし、次の講義に備えて不明な点や質問事項を挙げる。受講後は、講義内容と身の回りの芸術作品について検討する。詳細は授業中に説明する。

教科書

教科書

使用しない。適宜プリントなどを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

(無し)

コンピュータリテラシ (99304)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22Y
単位数	2.0単位
担当教員	高木翔士

授業の概要

教養科目ディプロマポリシー『大学での学びの基礎となる資質能力を身に付ける』に基づき、パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得することを目的としている。

医療業界においても電子カルテの導入以来、PCの知識・技術は必須なものとなっている。実際の医療現場における情報システム、情報の秘匿・保護についても理解する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

定期試験は行わず、出題する課題(以下の3つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word : 文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel : 表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint : 自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)

60点以上で合格とする。

注意事項

- ・ 生命医科学科1年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。
- ・ 本講義は大学設備を使用し実施する都合上、2つのグループに分けて実施しているので自分が取得すべき授業番号をよく確認すること。

授業計画

- 1 情報科学概論①-情報の概念
- 2 情報科学概論②-収集と処理
- 3 電子計算機(パーソナルコンピュータ)の仕組み
- 4 Wordについて-文書の作成と体裁
- 5 Wordについて-図・表の作成
- 6 Excelについて-表・グラフの作成
- 7 Excelについて-表計算
- 8 PowerPointについて-基本操作
- 9 PowerPointについて-見やすいプレゼンテーション資料の作成
- 10 医療における情報システム: 病院
- 11 医療における情報システム: 臨床検査
- 12 コンピュータネットワーク-ネットワークの構成、通信プロトコール
- 13 ネットワークセキュリティ
- 14 医療情報倫理-個人情報
- 15 医療情報危機管理-情報の秘匿・暗号、情報の一次利用と二次利用

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

コンピュータリテラシ (99305)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22B
単位数	2.0単位
担当教員	織田樹紀

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

1. コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
2. コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
3. インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
4. 文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
5. 表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
6. プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
7. 学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウイルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
8. 画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきたければ、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウイルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について
8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
9. Excel(2)データベースの活用
10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点

12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-415-8

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。

Statistics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

1. 統計に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
2. 研究論文で必要とされる検定の考えを理解し応用できる。

評価方法

到達目標 I : 毎回の課題提出 (40%) , 定期試験 (20%)

到達目標 II : 定期試験 (40%)

注意事項

ルート (平方根) を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	母比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安 : 合計60時間

前回到学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

はじめての統計 1 5 講

著者 小寺 平治
発行所 講談社

参考書

適宜紹介する。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

倉敷と仕事（99307）

前期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1年
対象	28～21B,Y
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。第1・2回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第3～7回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第8回の間接まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第9～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。
【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち8回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷青年会議所、および倉敷市の児島支所・企画経営室・防災危機管理室、さらに株式会社マイナビ・株式会社はたらこらぼ・D-INTERNSHIP実行委員会事務局に所属しないし所属経験のある講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- 第01～07回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標1を評価
第08回の間接まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標2を評価
第09～14回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標3を評価
第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 地域連携・キャリア教育科目群について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	〈地域への視点〉と〈将来への視点〉（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演：倉敷に宿る大原精神（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第4回	倉敷の歴史と文化（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	地域講師講演：倉敷の地域づくりの現状と今後の展望（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第6回	地域講師講演：倉敷の安心・安全をめぐる地域課題（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演：地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第3～7回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演：地域貢献と産業の活性化（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	地域講師講演：学生生活と仕事選びを考える（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演：キャリア形成とインターンシップ（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演：生涯人生設計と就職に向けて（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ>就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第9～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

人生と仕事（99308）

前期

Life and Work

教養科目

年次	2年
対象	27～27 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	● 箕口けい子 ● 高木加奈絵

授業の概要

本授業は、教養科目ディプロマポリシーの「3 地域社会の構成員として活躍できる」に対応している。本授業では、自らの人生や仕事の在り方を考えるだけでなく、地域社会の構成員として活躍できる能力を育成する。

こうした目標を達成するためには、自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることだけでなく、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育む必要がある。

そこで、講義では経験談を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらおう。その際、講義を担当する企業人や業界経験者の人生や、地域社会とのかかわりについても、取り上げていく。

【アクティブラーニング】

一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】

学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・ 課題は Google Classroom を通じて提示し、提出する。
- ・ 都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示する。
- ・ 授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

1. 将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
2. 自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
3. 様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

キャリア年表の作成（授業開始時と終了時の2回）50%（到達目標1, 2, 3を評価）、毎回の授業への積極的な参加（講演者についての予習、授業時の質問など）50%（到達目標1, 2, 3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

1. 授業の出席票は特別な場合を除き、googleformを用いて行う。
2. 授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
3. 遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
4. 授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（箕口・高木）
第2回	経験に基づく人生設計（原浩之）
第3回	就職に向けて I ビジネスマナーについて（平田真由美）

回数	内容
第4回	就職に向けてⅡ 模擬面接・集団討論について（平田真由美）
第5回	就職に向けてⅢ 仕事入門講座（倉敷市企画経営室）
第6回	どういふ人生を選ぶ？～自立と依存～（管宏司）
第7回	大企業からベンチャー企業まで、起業家によるリアルなキャリア対談（特定非営利活動法人 鴻鵠塾・管宏司）
第8回	就職に向けてⅣ自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方(ハローワーク)
第9回	就職に向けてⅤ 暮らしの中の税(倉敷税務署)
第10回	業界研究Ⅰ 医療現場で働くこと（佐藤正和）
第11回	業界研究Ⅱ 情報・IT・企業系（村山公保）
第12回	業界研究Ⅲ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第13回	業界研究Ⅳ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第14回	業界研究Ⅴ 工芸系（張慶南）
第15回	総まとめ、レポート/アンケート（箕口・高木）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を十分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

岩上真珠, 大槻奈巳編「大学生のためのキャリアデザイン入門」東京：有斐閣, 2014.6

ISBN：9784641174009

備考

特になし

倉敷と仕事（99309）

前期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1年
対象	28～21 W,W,W,M
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。第1・2回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第3～7回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第8回の間接まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第9～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。
【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち8回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷青年会議所、および倉敷市の児島支所・企画経営室・防災危機管理室、さらに株式会社マイナビ・株式会社はたらこらぼ・D-INTERNSHIP実行委員会事務局に所属しないし所属経験のある講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- 第01～07回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標1を評価
第08回の間接まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標2を評価
第09～14回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標3を評価
第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 地域連携・キャリア教育科目群について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	〈地域への視点〉と〈将来への視点〉（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演：倉敷に宿る大原精神（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第4回	倉敷の歴史と文化（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	地域講師講演：倉敷の地域づくりの現状と今後の展望（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第6回	地域講師講演：倉敷の安心・安全をめぐる地域課題（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演：地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第3～7回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演：地域貢献と産業の活性化（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	地域講師講演：学生生活と仕事選びを考える（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演：キャリア形成とインターンシップ（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演：生涯人生設計と就職に向けて（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ>就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第9～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ (99311)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22Y
単位数	2.0単位
担当教員	高木翔士

授業の概要

教養科目ディプロマポリシー『大学での学びの基礎となる資質能力を身に付ける』に基づき、パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得することを目的としている。

医療業界においても電子カルテの導入以来、PCの知識・技術は必須なものとなっている。実際の医療現場における情報システム、情報の秘匿・保護についても理解する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

- 1) コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
- 2) パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
- 3) パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
- 4) プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
- 5) インターネット検索を利用できる。

評価方法

定期試験は行わず、出題する課題(以下の3つ)の達成度によって評価する。

- ・ Word : 文書作成(到達目標1, 2, 5)
- ・ Excel : 表計算とグラフ作成(到達目標1, 3)
- ・ PowerPoint : 自己紹介用スライド作成(到達目標1, 4, 5)

60点以上で合格とする。

注意事項

- ・ 生命医科学科1年次必修科目であり、臨床検査技師国家試験の一部に対応している。
- ・ 本講義は大学設備を使用し実施する都合上、2つのグループに分けて実施しているので自分が取得すべき授業番号をよく確認すること。

授業計画

- 1 情報科学概論①-情報の概念
- 2 情報科学概論②-収集と処理
- 3 電子計算機(パーソナルコンピュータ)の仕組み
- 4 Wordについて-文書の作成と体裁
- 5 Wordについて-図・表の作成
- 6 Excelについて-表・グラフの作成
- 7 Excelについて-表計算
- 8 PowerPointについて-基本操作
- 9 PowerPointについて-見やすいプレゼンテーション資料の作成
- 10 医療における情報システム: 病院
- 11 医療における情報システム: 臨床検査
- 12 コンピュータネットワーク-ネットワークの構成、通信プロトコール
- 13 ネットワークセキュリティ
- 14 医療情報倫理-個人情報
- 15 医療情報危機管理-情報の秘匿・暗号、情報の一次利用と二次利用

授業外学習

合計60時間を目安とする。

授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。

タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

Law

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	河野正英

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

刑事法と民法の内容および法目的が異なることを理解し、社会生活における法律の重要性や裁判所の役割などの幅広い知識を身につけることを目的とする。具体的な内容としては、刑事裁判の仕組み、裁判員制度の意義、刑事政策の目的など日常生活に密接に関係するものから、広く市民生活全般に関係するプライバシー権（個人情報）の尊重、基本的人権の思想、世界的に変遷しつつある家族関係の変化などを通じて現代社会の現状がどうなっているのかを知るようにする。自分独自の視点を持って問題の指摘と意見が言えることが大切なので、毎回、小プリントを配布して感想と質問を書いてもらう。次の授業でそれに対する意見を述べたり返答をすることによって授業へのフィードバックを明確にする。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

1. 刑事法と民法とが区別出来るようになる。
2. 裁判制度について理解する。
3. 基本的人権について理解する。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合20%（到達目標1~3を評価）

授業内容への積極的な参加（毎回の感想）：評価割合20%（到達目標1~3を評価）

確認チェック・テスト（3回を予定）：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

論述：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 法学の進め方について説明する。まず法学の基本原則を学び、その後に大枠のテーマとして4つの分野を学ぶ。各テーマ毎の特徴について説明するので、法学で何を学び、何を身につけるのかを理解する。毎回配布して回収する意見・質問用紙の使い方について説明するので、これを積極的に活用出来るようになる。

第2回 法学の基礎として裁判制度と法体系について学ぶ。法の一般原則や裁判制度について理解出来るようになる。意見・質問用紙への回答を行うので、授業内容の理解が深まることを確認出来る。

第3回 刑事法と民法の区別について学ぶ。民法の目的と内容および刑事法の目的と内容について理解出来るようになる。

第4回 刑事法（1）：刑事法について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては裁判員制度について学ぶので、民間人を登用する参審制と陪審制の違いを理解出来るようになる。

第5回 刑事法（2）：刑事法についての2回目。今回の小テーマとしては刑事手続きと刑罰の種類について学ぶので、刑罰を科す目的を理解出来るようになる。

第6回 刑事法（3）：刑事法についての3回目。今回の小テーマとしては非刑法定主義と犯罪報道について学ぶので、警察に逮捕されると未だ起訴されていないのに犯罪者扱いされる日本の報道の慣行について理解出来るようになる。

第7回 刑事法（4）：刑事法についての4回目。今回の小テーマとしては少年法について学ぶので、未成年者には原則として刑罰が科されないことを理解出来るようになる。

第8回 ネット社会とマスコミ報道（1）：ネット社会の特徴について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては高度情報化社会の特質と将来像について学ぶので、これからの社会にとっての「情報」の意味について理解出来るようになる。

第9回 ネット社会とマスコミ報道（2）：ネット社会の特徴についての2回目。今回の小テーマとしては報道の自由とプライバシー権について学ぶので、なぜ個人情報保護法が成立し、しかし、現実には個人情報はどう扱われようとしているのかについて理解出来るようになる。

第10回 ネット社会とマスコミ報道（3）：ネット社会の特徴についての3回目。今回の小テーマとしてはマスコミ報道がなぜ陳腐化したかについて学ぶので、ネット社会が情報独占を解き、個人でも自由に発信出来るようになったことによる長所と短所について理解・説明出来るようになる。

第11回 ネット社会とマスコミ報道（4）：ネット社会の特徴についての4回目。今回の小テーマとしてはビッグデータと個人情報について学ぶので、今

日の社会における「個人情報」が飛躍的に重要になった現実を理解出来るようになる。

第12回 家族制度の変化（1）：現実問題としての家族制度の変化について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計4回を予定しており、今回の小テーマとしては20世紀を通じて徐々に進展してきた伝統的な家族関係の崩壊と再編について学ぶので、今、家庭内で何が起きているのかを理解出来るようになる。

第13回 家族制度の変化（2）：家族制度の変化についての2回目。今回の小テーマとしては婚姻制度の歴史と現状について学ぶので、現代人の意識と法制度が矛盾を起していることを理解出来るようになる。

第14回 家族制度の変化（3）：家族制度の変化についての3回目。今回の小テーマとしては親子関係が法律上どう規定されているかについて学ぶので、法的な枠組みと現実の社会がどのように齟齬を起しているかを理解出来るようになる。

第15回 家族制度の変化（4）：家族制度の変化についての4回目。今回の小テーマとしては国際的な家族制度の変化について学ぶので、世界的な潮流としての家族関係の再編成が起きていることを理解出来るようになる。毎回提出してもらった意見・質問用紙への回答をまとめるので、授業内容の理解が深まる。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第1回 毎回プリントを配布して、論点となるテーマとそれに関連する時事問題を取り上げて学習する。普段聞くニュースと現実の社会が異なる場合も多々あるが、何が問題となっているのか疑問を持つことが大切である。「聞いて覚える」のではなく「考える」ことが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：裁判所の仕組みと裁判の方法について予め自分で調べることが大切である。復習：法の一般原則を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：民意法廷と刑事法廷の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：刑事法と民事法の区別が理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：裁判員制度の目的と仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：刑罰の種類と目的を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：刑事裁判について予め自分で調べることが大切である。復習：マスコミ報道が罪刑法定主義に反する場合も多いことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：少年法について予め自分で調べることが大切である。復習：少年事件と成年の事件とは扱いが大きく異なることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：近年のマスコミ報道について予め自分で調べることが大切である。復習：高度情報化社会の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：日本国憲法に規定される表現の自由について予め自分で調べることが大切である。復習：プライバシー権の意義を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：ネット社会の特徴について予め自分で調べることが大切である。復習：ネット社会の進展に比例してマスコミ報道が陳腐化するようになった経緯を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：ビッグデータとは何かについて予め自分で調べることが大切である。復習：個人情報の集まりであるビッグデータの重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：家族法の規定について予め自分で調べることが大切である。復習：伝統的な家族関係が今日では大きく変化しつつあることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：家族法（婚姻制度）について予め自分で調べることが大切である。復習：婚姻制度の変遷を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：家族法（親子関係）について予め自分で調べることが大切である。復習：親子関係の変化を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：世界的な家族関係の現況を理解し、プリントのテーマをおさらいする。（標準学習時間120分）

教科書

毎回、プリントを配布する。

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

Statistics

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。
数学的理論より統計学的考え方の直観的理解を重視し、特に記述統計学の基本概念について具体的な問題の解法例を参照しながら進める。

到達目標

- 1.統計に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
- 2.研究論文で必要とされる検定の考えを理解し応用できる。

評価方法

到達目標Ⅰ：毎回の課題提出（40%）、定期試験（20%）

到達目標Ⅱ：定期試験（40%）

注意事項

ルート（平方根）を計算出来る電卓を持参すること。

授業計画

回数	内容
第1回	度数分布
第2回	代表値
第3回	分散
第4回	相関係数
第5回	確率変数
第6回	正規分布
第7回	二項分布
第8回	母集団と標本
第9回	区間推定 1
第10回	区間推定 2
第11回	母平均の検定 1
第12回	母平均の検定 2
第13回	母分散の検定
第14回	母比率の検定
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

前回到学んだ内容を必ず復習してから授業に臨むこと。

毎回の課題を自分の力で、確実に実行すること。

教科書

はじめての統計15講

著者 小寺 平治

発行所 講談社

参考書

適宜紹介する。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

生物学 (99353)

後期

Biology

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	●内藤整 ●岡憲明 ●加計悟

授業の概要

自然との関りを認識し、論理的・批判的思考力を身につけることを目的として、現代生物学の基礎を学ぶとともに身近な生物現象の検証を行う。

【アクティブラーニング】（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14（内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29（岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47（岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63（岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78（岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198（岡） 課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92（加計）
第8回	動物の組織と器官（1）組織 教科書P93～99（加計）
第9回	動物の組織と器官（2）器官 教科書P99～107（加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計） 課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく!生物学」講談社、田村隆明(著) ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠(共編) ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

(なし)

倉敷と仕事（99355）

後期

Kurashiki and Work (Regional Contribution)

教養科目

年次	1年
対象	28～21 K,N,R
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也 菅正樹

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。みずからの大学生活と関連づけながら〈地域への視点〉と〈将来への視点〉をともに身につけ、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。第1・2回で、大学生活において〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につける重要性を確認する。第3～7回で、倉敷市の歴史・文化・特徴、まちづくりの理念・施策・取りくみ事例などを題材に、おもに〈地域への視点〉についてまなび、第8回の間接まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。第9～14回で、地域産業・社会人基礎力・インターンシップ・人生設計・キャリアデザインなどを題材に、おもに〈将来への視点〉についてまなび、第15回の期末まとめ時にレポート作成と提出をおこなう。

【フィードバック】各回の提出用紙の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。
【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち8回の授業において、公益財団法人有隣会・倉敷青年会議所、および倉敷市の児島支所・企画経営室・防災危機管理室、さらに株式会社マイナビ・株式会社はたらこらぼ・D-INTERNSHIP実行委員会事務局に所属しないし所属経験のある講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が〈地域への視点〉〈将来への視点〉を身につけるための講話やワークをおこなう。

到達目標

- 倉敷市を題材にした地域社会の課題と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈地域への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。
- キャリアデザインの重要性や方法と大学生活とのかかわりについて、理解し説明できる。
- みずからが身につけた〈将来への視点〉について、文章や口頭で明快に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- 第01～07回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標1を評価
第08回の間接まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標2を評価
第09～14回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標3を評価
第15回の期末まとめ時における作成レポートの状況・内容（20%）：到達目標4を評価

注意事項

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 地域連携・キャリア教育科目群について（橋元・菅） 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第2回	〈地域への視点〉と〈将来への視点〉（橋元・菅） 予習：大学入学前に経験した地域学習・地域活動について整理する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第3回	地域講師講演：倉敷に宿る大原精神（橋元・菅） 予習：公益財団法人有隣会について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第4回	倉敷の歴史と文化（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市の概要」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第5回	地域講師講演：倉敷の地域づくりの現状と今後の展望（橋元・菅） 予習：倉敷市HP「トップ>市政について」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。

回数	内容
第6回	地域講師講演：倉敷の安心・安全をめぐる地域課題（橋元・菅） 予習：防災情報ポータルサイト「倉敷防災ポータル」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第7回	地域講師講演：地方創生と倉敷市の取り組み、地域定住について（橋元・菅） 予習：倉敷市移住ポータルサイト「くらしきで暮らす」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第8回	〈地域への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第3～7回の内容を整理し、〈地域への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。
第9回	地域講師講演：地域貢献と産業の活性化（橋元・菅） 予習：青年会議所について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第10回	地域講師講演：学生生活と仕事選びを考える（橋元・菅） 予習：社会人基礎力について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第11回	地域講師講演：キャリア形成とインターンシップ（橋元・菅） 予習：「龍の仕事展」公式HPを調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第12回	地域講師講演：生涯人生設計と就職に向けて（橋元・菅） 予習：就職活動について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第13回	キャリアデザイン入門①（橋元・菅） 予習：大学HP「トップ>就職支援課」を調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第14回	キャリアデザイン入門②（橋元・菅） 予習：SPI・適性検査について調査し、質問を用意する。 復習：配布資料の内容を整理する。
第15回	〈将来への視点〉まとめ／レポート作成・提出（橋元・菅） 予習：第9～14回の内容を整理し、〈将来への視点〉レポート作成にそなえる。 復習：配布資料の内容を整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。 ※「授業計画」欄参照

復習：授業内容を配布資料などで整理する。 ※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

人生と仕事（99356）

後期

Life and Work

教養科目

年次	2年
対象	27～27 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	● 箕口けい子 ● 高木加奈絵

授業の概要

本授業は、教養科目ディプロマポリシーの「3 地域社会の構成員として活躍できる」に対応している。本授業では、自らの人生や仕事の在り方を考えるだけでなく、地域社会の構成員として活躍できる能力をも育成する。

こうした目標を達成するためには、自分を振り返り、自分の進むべき方向性を明確にするための情報を知ることだけではなく、地域社会の構成員として主体的に活動できる能力や姿勢を育む必要がある。

そこで、講義では経験談を通しての人生設計について、また就職活動を行う上で必要となる知識に関する分野（エントリーシートの書き方、プレゼンテーション力、ビジネスマナーなど）（「就職に向けて」）と就職先となる様々な職業・職種についての知識に関する分野（「業界研究」）について、人生の先輩、企業人及び業界経験者からリレー方式で講話してもらおう。その際、講義を担当する企業人や業界経験者の人生や、地域社会とのかかわりについても、取り上げていく。

【アクティブラーニング】

一部の授業ではグループワーク・グループディスカッションを取り入れている。

【実務経験のある教員による授業科目】

学生の就業力を高めるために、「仕事の意義や重要性」「ビジネスマナー」「模擬面接・集団討論」「プレゼンテーション力」「自己分析・企業分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」をテーマにして、学外から招聘した講師（実務家）による授業が計6回実施される。さらに業界研究として、「メディア・映像系」「化学・食品・薬品系」「健康・医療系」「マーケティング・販売系」「マスコミ・広告代理店系」「情報・IT系」の分野ごとに、実務家の講師による授業が計6回実施される。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・ 課題は Google Classroom を通じて提示し、提出する。
- ・ 都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示する。
- ・ 授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

1. 将来の仕事・職種を考えるための知識を学び、自己実現の方法をしっかりと考え・実践することができる。
2. 自己表現力、ビジネスマナー等を含めた「社会人基礎力」を身につけることの大切さを認識し、それに取り組むことができる。
3. 様々な業界・業種について理解し、就職へのヒントを得ることができる。

評価方法

キャリア年表の作成（授業開始時と終了時の2回）50%（到達目標1、2、3を評価）、毎回の授業への積極的な参加（講演者についての予習、授業時の質問など）50%（到達目標1、2、3を評価）の割合で総合的に評価する。

注意事項

1. 授業の出席票は特別な場合を除き、googleformを用いて行う。
2. 授業時に配布される資料等はファイルしておくこと。
3. 遅刻・私語・他者に迷惑を掛ける行為は厳禁とする。
4. 授業には主体的、積極的に参加すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（箕口・高木）
第2回	経験に基づく人生設計（原浩之）
第3回	就職に向けて I ビジネスマナーについて（平田真由美）

回数	内容
第4回	就職に向けてⅡ 模擬面接・集団討論について（平田真由美）
第5回	どういふ人生を選ぶ？～自立と依存～（管宏司）
第6回	大企業からベンチャー企業まで、起業家によるリアルなキャリア対談（特定非営利活動法人 鴻鵠塾・管宏司）
第7回	業界研究Ⅰ 化学・食品・薬品系（岡憲明）
第8回	業界研究Ⅱ 工芸系（張慶南）
第9回	業界研究Ⅲ 情報・IT・企業系（村山公保）
第10回	業界研究Ⅳ 健康づくり産業について（岸本光顕）
第11回	就職に向けてⅢ自己分析・履歴書・エントリーシートの書き方(ハローワーク)
第12回	就職に向けてⅣ 暮らしの中の税(倉敷税務署)
第13回	就職に向けてⅤ 仕事入門講座（倉敷市企画経営室）
第14回	業界研究Ⅴ 検査と健康（藤本一満）
第15回	総まとめ、レポート/アンケート（箕口・高木）

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・授業の前に『授業計画』に目を通し、受講後は、レジュメ等を見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。
- ・授業で学んだ内容を日常生活の中で、意識して実践する。
- ・絶えず新聞・テレビ等を通して、社会の動向を充分に把握しておく。

教科書

授業開始時にレジュメ・資料等を配布する。

参考書

岩上真珠, 大槻奈巳編「大学生のためのキャリアデザイン入門」東京：有斐閣, 2014.6
ISBN：9784641174009

備考

特になし

芸術と科学の協調 (99357)

後期

Collaboration between Arts and Science

教養科目

年次	1年
対象	28～17 芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	唐川千秋 クリスウォルトン 芦田雅子

授業の概要

芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を具体的に認識するために、研究成果の実例を挙げてオムニバス形式で概説する。歴史的にも芸術の変遷と科学の発展が互いに深い関係を有することを理解する。また、現在における芸術分野と科学分野の共同による研究動向に対する関心を高め、さらに将来に向けて芸術的なセンスや科学的な思考法を育成する。倉敷芸術科学大学での学びの基礎となる導入科目である。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「2-(1)大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」「4.芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性を持って活躍できる力量を身につける」に対応させて目標を設定している。

授業方法として、アクティブ・ラーニング（グループワーク）を取り入れている。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッション、グループ・ワーク

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。

- ・ 授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
- ・ 課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
- ・ 授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

- 1 芸術と科学の協調を目指した本学の設立理念を理解し説明できる。
- 2 芸術と科学の協調による研究や取組について理解し説明できる。
- 3 芸術的なセンスや科学的な思考法に基づいた豊かな創造性の基盤を身につける。
- 4 授業全体を通して、芸術と科学の協調の意義や重要性について理解し説明できる。

評価方法

毎回の授業で実施する小レポート等60%（到達目標1・2・3を評価）と総合レポート40%（到達目標4を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

総合レポートを未提出の場合はE評価とする。

注意事項

「芸術と科学の協調」に関しては、芸術科学会（<http://www.art-science.org/>）のWebページで諸事例が紹介されているので授業内容の理解に役立つ。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス <唐川千秋・クリス ウォルトン・芦田雅子>
第2回	マンガの文化と技術 <松田博義>
第3回	生物を描く <山野ひとみ>
第4回	複製技術時代の芸術ー日本における写真の誕生 <松岡智子>
第5回	ビジュアルコミュニケーションの表現 <クリス ウォルトン>
第6回	地域産業と観光：「倉敷生活デザイン展」を事例として <芦田雅子>
第7回	創造性の心理 <唐川千秋>
第8回	日本画の線における価値の見つけ方 <森山知己>
第9回	化石で見る生物の形の変遷 <加藤敬史>

回数	内容
第10回	デジタルテクノロジーとものづくり <大屋努>
第11回	ヒトの脳はどのようにして、美しいと感じるのか? <岡田誠剛>
第12回	スポーツ科学から考える身体の形態と機能 <枝松千尋>
第13回	焼き物の素材と成形、高温焼成による物質の変化 <井上昌崇>
第14回	テクノロジーがアートを加速する <中川浩一>
第15回	まとめ・総合レポート作成 <唐川千秋・クリス ウォルトン・芦田雅子>

授業外学習

- ・日頃からニュースや新聞等の視聴あるいはインターネットを通して、芸術と科学をめぐる情報を収集し、動向を把握するよう努めること。
 - ・各授業で小レポート、最終回に総合レポートを作成するので、レポート作成に必要な基本事項を確認し、文章表現力を高めるよう努めること。
- 以上の活動や準備を含めて、合計60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ (99401)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～28K
単位数	2.0単位
担当教員	村山公保

授業の概要

日常生活のあらゆる場面で遭遇するさまざまなコンピュータシステムの基本構成要素となっているパーソナルコンピュータ（略称パソコン）の仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroomのアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題はGoogle Classroomを通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ)に提出する。

到達目標

- タイピングを含めた情報機器の操作について自分自身でできることが増える。
- 大学生としての学びについて理解し、学びのために情報機器を利用できる。
- 文書作成ソフト・プレゼンテーションソフトの特徴を理解して、レポートや発表資料の作成に利用できる。
- セキュリティを理解し、気をつけることの大切さがわかる。

評価方法

- Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3、4を評価)。
- 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの課題への取り組みの総括、グループワークや発表会への取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- USBメモリを持参すること。USBメモリには学生番号・氏名を記入し、忘れたり、無くさないように注意すること。
- 他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- 記録に残すため、発表会等の授業風景を撮影することがある。(個人が特定されないように配慮するが、写りたくない人は事前に連絡をすること)

授業計画

回数	内容
第1回	授業の進め方、機材の使い方の説明、自己紹介文作成
第2回	自己紹介によるプレゼンテーションの練習、体験
第3回	大学生としての学びとテキスト入力
第4回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワーク
第5回	大学生としての学びとテキスト入力についてのグループワークの結果の発表
第6回	文書作成ソフトの基礎
第7回	文書作成ソフトを使ったグループワーク

回数	内容
第8回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表1
第9回	文書作成ソフトを使ったグループワークの結果の発表2
第10回	表計算ソフトの基礎
第11回	プレゼンテーションソフトの基礎とセキュリティと情報倫理・ネットマナー
第12回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワーク(セキュリティと情報倫理・ネットマナー)
第13回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション1
第14回	プレゼンテーションソフトを使ったグループワークの結果のプレゼンテーション2
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにする。

- ・ 事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・ 個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・ 授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・ 能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

なし

地球科学 (99402)

前期

Earth Science

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	妹尾護

授業の概要

教養科目のうち、「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

太陽の誕生から、その後の太陽系惑星の形成、そして地球誕生後約46億年の間に、海の誕生、生物の出現・進化、二酸化炭素の減少、酸素の増加、オゾン層の形成等、地球環境が自然システムの中でどのように変化してきたかを理解する。また、地球科学的事件（微惑星の地球への衝突、大規模火山噴火等）によって、多くの生物の絶滅や人間生活への悪影響がどのようにして起こったか、その原因やプロセスを理解する。

到達目標

- 現在の人間活動による急激な環境変化を再考する機会とするために、約46億年前の地球誕生から現在へと地球環境が自然のシステムの中でどのように変化してきたかを理解し説明できる。
- 地球科学的事件によって、生物や人間生活にどのような影響が及んだか、過去の大規模環境破壊の原因とそのプロセスについて理解し説明できる。

評価方法

ミニレポート20%（到達目標1を評価）、定期試験80%（到達目標1、2を評価）により成績評価を行う。

注意事項

この科目は履修状況によっては履修者数の制限をすることがあります。その場合、たとえば2年次生以上を優先するなどの処置をおこないますので留意してください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の概要、授業の目的、到達目標、授業の進め方、教科書・参考書、授業外学習、評価方法等の説明）
第2回	隕石の種類とその起源
第3回	星の一生（星の誕生から終末）、原始太陽の誕生
第4回	太陽系惑星の形成過程、月の成因
第5回	原始地球の成長、大気形成、海の誕生
第6回	生物の誕生、酸素発生、生物の進化
第7回	地球環境の変遷（二酸化炭素、酸素濃度の変化、地球の温暖化・寒冷化等）
第8回	K-Pg境界（約6600万年前）での生物種の絶滅①
第9回	K-Pg境界（約6600万年前）での生物種の絶滅②
第10回	K-Pg境界（約6600万年前）での生物種の絶滅③
第11回	P-T境界（約2億5000万年前）における生物種の絶滅①
第12回	P-T境界（約2億5000万年前）における生物種の絶滅②
第13回	火山の噴火形式、火砕流のタイプ
第14回	大規模噴火による気候への影響、ホットスポット火山の活動
第15回	授業の総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・前回の授業内容について復習するとともに、事前配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておく

こと。

教科書

配布プリントを使用する。(教科書は使用しない)

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

授業では、内容を理解しやすいようにスライドを多く用いる。

生物学 (99403)

前期

Biology

教養科目

年次	1年
対象	28～22芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	●内藤整 ●岡憲明 ●加計悟

授業の概要

自然との関りを認識し、論理的・批判的思考力を身につけることを目的として、現代生物学の基礎を学ぶとともに身近な生物現象の検証を行う。

【アクティブラーニング】（調査学習）：この授業では、バイオテクノロジーや生物学分野のノーベル賞など私たちの生活にかかわる先端の生物学研究について調べ、課題レポートしてまとめることを課している。

到達目標

- 1.生物の構造と機能について理解し説明できる。
- 2.バイオテクノロジーなどの生物技術と人間生活・社会との関わりを正しく理解し説明できる。

評価方法

・小テスト10%（到達目標1を評価）、課題レポート20%（到達目標2を評価）、定期試験70%（到達目標1を評価）により総合的に評価する。

注意事項

・基礎的な学習内容を含むので、低学年のうちに受講することが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	生物の特徴とその種類 教科書P2～14（内藤）
第2回	細胞の構造と機能 教科書P16～29（岡）
第3回	物質と代謝 教科書P30～47（岡）
第4回	遺伝とDNA 教科書P48～63（岡）
第5回	遺伝子の発現 教科書P64～78（岡）
第6回	バイオテクノロジー 教科書P186～198（岡） 課題レポート「あなたが期待するバイオテクノロジーについて」
第7回	生物の増殖と成長：生殖・発生・分化 教科書P80～92（加計）
第8回	動物の組織と器官（1）組織 教科書P93～99（加計）
第9回	動物の組織と器官（2）器官 教科書P99～107（加計）
第10回	神経とホルモン 教科書P108～120（加計）
第11回	病原体と生体防御 教科書P121～130（加計） 課題レポート「一番興味のある生命科学分野のノーベル賞について」
第12回	植物の生存戦略 教科書P131～135（内藤）
第13回	植物の光合成 教科書P135～137（内藤）
第14回	生物群集と生態系 教科書P157～171（内藤）
第15回	生物の進化 教科書P172～184（内藤）

授業外学習

- ・予習として、各回の教科書部分を読み、専門用語について理解しておく（15時間）。
- ・各回ごとに復習し、学習内容を理解、記憶すること（30時間）。
- ・課題レポートを2回出題する（具体的な内容や方法については、授業中に指示する）（15時間）。

教科書

「大学1年生のなっとく!生物学」講談社、田村隆明(著) ISBN978-4-06-153450-6

参考書

「理解しやすい生物学I・II」文英堂、水野丈夫・浅島誠(共編) ISBN978-4-578-24115-7、「ケイン 基礎生物学」東京化学同人、M.Cain他著 ISBN978-4-8079-0770-0

備考

(なし)

コンピュータリテラシ（A）（99404）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22M
単位数	2.0単位
担当教員	👤ブラダンスジツ

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習、プレゼンテーション

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

1. コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
2. パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
3. パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
4. プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
5. インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題（以下の3つ）の達成度（100%）によって評価する。

- Word：仮実験結果報告書作成（到達目標1、2、5）
- Excel：仮実験結果を表すデータ表とグラフ作成（到達目標1、3）
- PowerPoint：仮実験結果発表用資料作成（到達目標1、4、5）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
第2回	GoogleClassroom・Google Driveによるレポート作成・レポート保存について
第3回	GoogleClassroom・Google Driveによる課題・レポート提出について
第4回	グループワークのためグループ分け・テーマ決定
第5回	インターネットの活用、利用マナー・著作権などについて
第6回	Wordによる文章作成、書式設定、数式作成
第7回	Wordを用いたレポート作成
第8回	Excelの基本操作1（データ入力、修正、オートフィル、行・列の挿入と削除、簡単な数式の入力、罫線を引く、セルの書式設定）
第9回	Excelの基本操作2（フォント変更、文字色変更、セルの背景色変更、セルの結合（中央揃え）、行・列の非表示、再表示、ウィンドウ枠の固定、印刷する、データの読み込み）

回数 内容

-
- 第10回** Excelによるデータ処理の基礎（相対参照，絶対参照，複合参照，関数）
-
- 第11回** Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
-
- 第12回** Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
-
- 第13回** Power Pointを用いたスライドの作成：図，動画の挿入
-
- 第14回** ExcelとPower Pointとの連携（グラフ作成），ExcelとPower Pointの総合的な到達度チェック
-
- 第15回** Power Pointを用いたグループ口頭発表実施
-

授業外学習

合計60時間を目安とする。
授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。
タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

宗教学 (99405)

前期

Science of Religion

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

宗教学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をともないながら、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、宗教の要件・類型、および民族宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、世界宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、宗教学の立場から社会の諸問題をかんがえる視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受けつける。

到達目標

- 1.民族宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 2.世界宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 3.宗教学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.諸宗教・宗教学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第05回の1/3まとめ時に作成・提出する解説文（30%）：到達目標1・4を評価

第10回の2/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標2・4を評価

第15回の3/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標3・4を評価

注意事項

宗教・宗教学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 宗教の要件と類型 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	ゾロアスター教 / ヒンドゥー 予習：ゾロアスター教・ヒンドゥーの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	ユダヤ教 / 神道 予習：ユダヤ教・神道の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	儒教 / 道教 予習：儒教・道教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教の要件・類型、および民族宗教の諸相を整理する。

回数	内容
第6回	<p>仏教</p> <p>予習：仏教の歴史について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第7回	<p>キリスト教</p> <p>予習：キリスト教の歴史について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第8回	<p>イスラーム</p> <p>予習：イスラームの歴史について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第9回	<p>ニューエイジ・新宗教</p> <p>予習：ニューエイジ・新宗教の歴史について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第10回	<p>2/3まとめ（解説文作成・提出）</p> <p>予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。</p> <p>復習：世界宗教の諸相を整理する。</p>
第11回	<p>宗教と芸術・象徴</p> <p>予習：ダンテ『神曲』について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第12回	<p>宗教と消費文化・メディア</p> <p>予習：宗教的題材のマンガ・アニメ・ゲームについて調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第13回	<p>宗教と国家・差別</p> <p>予習：日本の仏教史・アメリカのキリスト教史について調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第14回	<p>宗教と暴力・科学</p> <p>予習：宗教と科学技術・医療とのかかわりについて調査し、質問を用意する。</p> <p>復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第15回	<p>3/3まとめ（解説文作成・提出）</p> <p>予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。</p> <p>復習：宗教学の視点・方法・論点について整理する。</p>

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（B）（99406）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22M
単位数	2.0単位
担当教員	👤ブラダンスジツ

授業の概要

パーソナルコンピュータの仕組み、動作原理、基本機能を学習するとともに、インターネットの利用、文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーションなど、これからの学生生活や社会生活に必須の応用ソフトの基本的な使い方を習得する。

具体的には、大学生としての学びについて理解した上で、学習・研究などの知的活動にコンピュータを活用するための理論と方法を学び、大学での学びの基礎となる資質能力を身につける。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワーク中心で学んでいく。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、問題解決学習、プレゼンテーション

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

下記を達成することによって、日常生活や学習業務にパソコンを活用できるようになる。

1. コンピュータの基本的な原理、構成、機能を理解し説明できる。
2. パソコンを用いて文書を入力し綺麗でわかりやすい文書を作成できる。
3. パソコンを用いて、表計算、グラフ作成ができる。
4. プレゼンテーションソフトを利用し、わかりやすいスライド作成や発表ができる。
5. インターネット検索を利用できる。

評価方法

試験は行わず、出題する課題（以下の3つ）の達成度（100%）によって評価する。

- Word：仮実験結果報告書作成（到達目標1、2、5）
- Excel：仮実験結果を表すデータ表とグラフ作成（到達目標1、3）
- PowerPoint：仮実験結果発表用資料作成（到達目標1、4、5）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	講義のガイダンス（講義目的、PC実習室の利用方法についてなど）
第2回	GoogleClassroom・Google Driveによるレポート作成・レポート保存について
第3回	GoogleClassroom・Google Driveによる課題・レポート提出について
第4回	グループワークのためグループ分け・テーマ決定
第5回	インターネットの活用、利用マナー・著作権などについて
第6回	Wordによる文章作成、書式設定、数式作成
第7回	Wordを用いたレポート作成
第8回	Excelの基本操作1（データ入力、修正、オートフィル、行・列の挿入と削除、簡単な数式の入力、罫線を引く、セルの書式設定）
第9回	Excelの基本操作2（フォント変更、文字色変更、セルの背景色変更、セルの結合（中央揃え）、行・列の非表示、再表示、ウィンドウ枠の固定、印刷する、データの読み込み）

回数 内容

-
- 第10回** Excelによるデータ処理の基礎（相対参照，絶対参照，複合参照，関数）
-
- 第11回** Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
-
- 第12回** Power Pointを用いた自由課題の発表スライド作成
-
- 第13回** Power Pointを用いたスライドの作成：図，動画の挿入
-
- 第14回** ExcelとPower Pointとの連携（グラフ作成），ExcelとPower Pointの総合的な到達度チェック
-
- 第15回** Power Pointを用いたグループ口頭発表実施
-

授業外学習

合計60時間を目安とする。
授業後、積極的にパソコンを利用し、原理を理解し、実際に活用できるようにする。
タイピング練習を積極的に実施する。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて資料を配布する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

倉敷まちづくり基礎論（99407）

前期

Foundation of Kurashiki Community Development

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

倉敷市をはじめとするさまざまな地域のまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる基礎的な意識・知識・能力を涵養することを目的とする。

第1・2回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、まちあるき報告の作成について確認する。第3～7回で倉敷市について、第10～13回で倉敷市以外について、それぞれのまちづくりの理念・施策・取りくみ事例などをまなぶ。第8・9・14・15回で、提出したまちあるき報告にもとづき、まちあるきの成果について選抜発表会をおこなう。

【アクティブラーニング】フィールドワーク、プレゼンテーションを取りいれている。

【フィードバック】各自の提出物・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】15回のうち8回以上の授業において、倉敷市歴史資料整備室・水島家守舎Nadia・ミズシマ盛りあげ隊・NPO法人倉敷町家トラスト・株式会社シャンテ（矢掛屋）・高松丸亀町商店街振興組合、および倉敷市中心部の各種事業所から講師をむかえ、それぞれの実務経験を活かして、学生が地域のまちづくりを身につけるための講話やワーク、フィールドワークの受け入れなどをおこなう。

到達目標

- 倉敷市におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。
- 倉敷市以外におけるまちづくりの取りくみ事例について、理解し説明できる。
- 美観地区などにおけるまちあるきについて、予備的フィールドワークとして計画的に実践できる。
- 実践したまちあるきの成果について、文章や口頭によって明快に効果的に表現できる。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第03～07回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標1を評価

第10～13回の提出物の状況・内容（30%）：到達目標2を評価

まちあるき報告の提出状況・内容（40%）：到達目標3・4を評価

注意事項

後期科目「倉敷まちづくり実践論」の受講予定者は、本科目を事前に履修しておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	科目概要ガイダンス / 地域連携・キャリア教育科目群について
第2回	倉敷のまちづくり概要 / まちあるき報告について
第3回	地域講師講演：倉敷の歴史と歴史資料整備室の活動（倉敷市総務局総務部総務課 歴史資料整備室 山本太郎 氏）
第4回	地域講師講演：臨鉄ガーデンのまちづくり社会実験（水島家守舎Nadia 土屋遼介 氏）
第5回	地域講師講演：まちづくりはまちで遊ぶことから始まる（ミズシマ盛りあげ隊 尾崎勝也 氏）
第6回	地域講師講演：倉敷の歴史的都市景観が目指す未来像（NPO法人倉敷町家トラスト 中村泰典 氏）
第7回	中間まとめ① 倉敷のまちづくり事例
第8回	まちあるき報告 選抜発表会①
第9回	まちあるき報告 選抜発表会②
第10回	地域講師講演：ゲストハウスによるまちづくり（ELEVEN VILLAGE 田川寿一 氏）
第11回	地域講師講演「宿場町を復活させる矢掛屋の取り組み」（株式会社シャンテ（矢掛屋） 安達精治 氏）

回数	内容
第12回	地域講師講演「高松丸亀町商店街の再開発」（高松丸亀町商店街振興組合 古川康造 氏）
第13回	中間まとめ② 倉敷以外のまちづくり事例
第14回	まちあるき報告 選抜発表会③
第15回	まちあるき報告 選抜発表会④ / 期末まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

第02回授業以降、美観地区などにおけるまちあるきを実践し、報告プレゼン資料を作成・提出する。

提出は第1次期限（5月末）、第2次期限（6月末）のいずれかまでに、指定する方法でおこなう。

作成中および提出後においても随時の指導を受けること。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Mathematics

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	洲脇史朗

授業の概要

「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」科目群にあたる。

我々は小学校以来、算数や数学を学んできたが、そこでは「数学をなぜ学ぶのか」については深く考えてこなかった。しかし、数学を学ぶ目的を知らずして、数学を学ぶのは本末転倒である。

この授業では、「数学を学ぶ目的」から考察し、その目的を達成するためにはどのようにすれば良いのか、どのような課題をすれば良いのかを発見していく。

到達目標

- 「数学を学ぶ目的」を他人に説明できる。
- 「数学を学ぶ目的」を達成するための方法を数多く発見できる。

評価方法

到達目標Ⅰ：定期試験（30％）

到達目標Ⅱ：毎回の課題提出（40％）、定期試験（30％）

注意事項

電卓、コンパス、定規を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	「学校の目的」
第2回	「学校の目的」を達成するために必要なこと。
第3回	「数学の目的」
第4回	「数学の目的」を達成するために必要なこと。
第5回	多くの答えがある、具体的課題Ⅰ
第6回	多くの答えがある、具体的課題Ⅱ
第7回	多くの答えがある、具体的課題Ⅲ
第8回	多くの答えがある、具体的課題Ⅳ
第9回	折り紙と数学Ⅰ
第10回	折り紙と数学Ⅱ
第11回	折り紙と数学Ⅲ
第12回	多くの答えがある、具体的課題Ⅴ
第13回	多くの答えがある、具体的課題Ⅵ
第14回	多くの答えがある、具体的課題Ⅶ
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

人に頼らず、必ず自分で考えること。

自分で考えたことを、他人に分かりやすく説明できること。

今後の発展につながること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特にない。

備考

連絡は教務を通して行うこと。

宗教学 (99451)

後期

Science of Religion

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本質を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
宗教学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間性の本質的な理解・尊重をともないながら、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。
第1～4回で、宗教の要件・類型、および民族宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、世界宗教の歴史・教義・聖典・教団・儀式などの諸相をまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、宗教学の立場から社会の諸問題をかんがえる視点・方法・論点をまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。
【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受け付ける。

到達目標

- 1.民族宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 2.世界宗教の諸相について、理解し説明できる。
- 3.宗教学の視点・方法・論点について、理解し説明できる。
- 4.諸宗教・宗教学の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- 第05回の1/3まとめ時に作成・提出する解説文（30%）：到達目標1・4を評価
第10回の2/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標2・4を評価
第15回の3/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標3・4を評価

注意事項

宗教・宗教学にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 宗教の要件と類型 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	ゾロアスター教 / ヒンドゥー 予習：ゾロアスター教・ヒンドゥーの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	ユダヤ教 / 神道 予習：ユダヤ教・神道の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	儒教 / 道教 予習：儒教・道教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ（解説文作成・提出） 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教の要件・類型、および民族宗教の諸相を整理する。

回数	内容
第6回	<p>仏教</p> <p>予習：仏教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第7回	<p>キリスト教</p> <p>予習：キリスト教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第8回	<p>イスラーム</p> <p>予習：イスラームの歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第9回	<p>ニューエイジ・新宗教</p> <p>予習：ニューエイジ・新宗教の歴史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第10回	<p>2/3まとめ（解説文作成・提出）</p> <p>予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：世界宗教の諸相を整理する。</p>
第11回	<p>宗教と芸術・象徴</p> <p>予習：ダンテ『神曲』について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第12回	<p>宗教と消費文化・メディア</p> <p>予習：宗教的題材のマンガ・アニメ・ゲームについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第13回	<p>宗教と国家・差別</p> <p>予習：日本の仏教史・アメリカのキリスト教史について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第14回	<p>宗教と暴力・科学</p> <p>予習：宗教と科学技術・医療とのかかわりについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。</p>
第15回	<p>3/3まとめ（解説文作成・提出）</p> <p>予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：宗教学の視点・方法・論点について整理する。</p>

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Earth Science

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	加藤敬史

授業の概要

教養科目のうち、「自然との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

地震はなぜ起こるのか、火山はなぜ限られた地域に集中して分布するのか。アフリカと南米に同じ生物の化石が発見されるのはなぜか、ヒマラヤ山頂に古生代の海の生物の化石が見つかるのはなぜか……。地球に対する我々の様々な疑問についてプレートテクトニクスという考え方は単純で明快な解答を導いている。この講義では1)地球内部の構造とプレートテクトニクス理論、2)プレート運動と生物の絶滅・進化の関わり、そして、3)日本列島の成因論について、プレート理論の成立の歴史をひもときつつ解説する。

到達目標

プレート運動によって引き起こされる地球の海陸分布の変化は、生命の進化や地球環境にも深く関わっている。この講義では、プレート理論の大枠と多くの要素が複雑に絡み合う地球システムを理解することを目標としている。

具体的には、

- 1) プレートとは何か、地球の構造とともに説明ができる(講義2-4)
- 2) プレート境界と大地形、地震・火山などの地質現象の関係を説明できる(講義6-9)
- 3) 日本列島の形成をプレート運動によって説明できる(講義10-11)
- 4) プレート運動と地球環境、生物の進化の関連について説明ができるようになり、これらの理解から地球システムの概略をイメージできる様になること(講義12-14)

を到達目標としている。

評価方法

課題(20%、到達目標1-4を評価)、講義への意欲的な取り組み(10%)定期試験(70%、到達目標1-4を評価)の割合で評価する。なお、講義への意欲的な取組については、e-mailでの質問や、講義中の発言など、授業に参加し、積極的に学ぶ態度とその内容を考慮して評価する。

注意事項

この講義に関連して、生命科学部の講義、基礎地学I、基礎地学II(いずれも前期開講)を受講するとより理解が深まる。これらの科目については他学科履修を積極的に受け入れている。また、地球科学の理解を深めるため校外実習を行う場合がある。実施時期については講義最初のオリエンテーションで紹介する。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	地球の姿
第3回	地球の内部構造1(地球内部を観察する手法、地震波の性質)
第4回	地球の内部構造2(地震波で観察する地球の構造)
第5回	地質構造の成因と大陸移動説
第6回	プレートテクトニクスと地質構造1(プレートとは何か)
第7回	プレートテクトニクスと地質構造2(プレート境界と大地形)
第8回	プレートテクトニクスと地質構造3(沈み込み帯の地質現象)
第9回	付加体地質学
第10回	プレート運動から理解する日本列島の地質1(日本列島の基盤岩類)
第11回	プレート運動から理解する日本列島の地質2(日本列島構造発達史)
第12回	地球史を理解する手法(相対年代・絶対年代・地質年代区分)

回数	内容
第13回	地球環境の変遷とプレート運動2（地球史と大陸の配置）
第14回	地球環境の変遷とプレート運動3（地球史と大陸の配置）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

Google Classroom上に、講義で使用するスライド、予習復習の項目などが掲載されている。各回の指示をよく読んで、予習、復習を行うこと。また、各講義に課題やQuickQuizを提示してあるので講義の進行に合わせて提出すること（各講義の予習復習および課題については2時間程度で完了できるものを用意している）。※パソコン、スマホなどでのアクセスが困難な学生は手書きのレポートも受け付ける。

教科書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

参考書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する。）

備考

特になし

History

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 時任英人

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

アメリカの政治・外交・社会・文化・歴史を理解する科目である。第2次大戦後の日本は、戦争相手国であるアメリカに敗北した後、そうしたアメリカの大きな影響下にあるのが現実である。ある意味では、世界で最もアメリカの影響を受けつつあると言える。

ところが、そうしたアメリカの価値観、アイデンティティ、そしてそれらを育んできたアメリカの歴史を理解しようとする風潮はあまりみられることがなく、単に政治経済と文化の形式だけを理解しようとする浅薄な理解の仕方が今日の主流である。そこで、本講義では、建国以来250年ほどしか過ぎないにも関わらず世界をリードしようとしているアメリカの歴史を全体的に理解しようとするのが目的である。

【アクティブラーニング】グループワーク、プレゼンテーションをとり入れる。

【フィードバック】レポート課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 政治的・経済的・文化的にもアメリカを理解し、討議できるようになる。
- 2 総合的視点からアメリカを知ることができ、日本との比較理解もできるようになる。

評価方法

授業時間中に米勝実施する小テスト20%（到達目標1を評価）レポート30%（到達目標2を評価）、定期試験50%（到達目標1、2を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々アメリカでの出来事に注意を払い、そのことについて理解しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（「歴史」とはなにか）
第2回	アメリカの歴史の特色I（地理的要因）
第3回	アメリカの歴史の特色II（アメリカの民主主義の意味）
第4回	アメリカの歴史の特色III（人種問題と多民族国家）
第5回	アメリカの歴史の特色IV（宗教）
第6回	アメリカの歴史の特色V（社会原理としての競争）
第7回	アメリカにおける保守と革新の意味
第8回	アメリカの政治社会における「暴力」意味
第9回	日本から見たアメリカ史の意義
第10回	アメリカナイゼーション
第11回	1960年代～80年代までのアメリカの文化の変質
第12回	1990年代以降のアメリカの文化の変質
第13回	リバタリアニズムの現代的意義
第14回	保守化するアメリカ（政治文化史的側面）
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 講義した中から、その日のテーマに関する意見を授業の最後に100字程度でまとめること。
- ・ 講義の中から関心あるテーマを選び、レポートととして課する。
- ・ 授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
- ・ 全体として4000字程度のレポートを出題するので、講義の全体的な流れを、復習しておくこと。

教科書

アメリカの歴史（テーマで読む多文化社会の夢と現実）（ISBN4-641-12162-1）

参考書

講義で適宜紹介する。

備考

History

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。歴史学の視点・方法・論点をまなぶことによって、人間と社会とのかかわりについての深い認識と論理的・批判的思考力をともないながら、現代社会・国際社会に対応・貢献するための幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

第1～4回で、中国史と日本とのかかわり、および中国古代史における重要概念を基礎としてまなび、第5回の1/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第6～9回で、戦国期・秦帝国期についてまなび、第10回の2/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。第11～14回で、前漢帝国期・王莽期についてまなび、第15回の3/3まとめにおいて、とりあげた事項の解説文の作成と提出をおこなう。

【フィードバック】第5・10回に提出された解説文の内容・叙述について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【ICTを活用した双方向型授業】Google Classroomを活用して双方向授業を展開する。毎回の授業後に講義プリントを提示し、内容に関する質問を受け付ける。

到達目標

- 1.中国古代史における重要概念について、理解し説明できる。
- 2.戦国期・秦帝国期について、理解し説明できる。
- 3.前漢帝国期・王莽期について、理解し説明できる。
- 4.中国古代史の基礎的な知識にもとづき、正確で明快な解説文が書ける。

評価方法

提出物の状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

- 第05回の1/3まとめ時に作成・提出する解説文（30%）：到達目標1・4を評価
第10回の2/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標2・4を評価
第15回の3/3まとめ時に作成・提出する解説文（35%）：到達目標3・4を評価

注意事項

中国古代史にかんする知識・理解とともに、文章作成による表現力・伝達力を身につける授業であることに留意して受講すること。

授業計画

回数	内容
第1回	講義概要ガイダンス / 中国史と日本 予習：シラバスを読んで授業の概要・目標などを理解し、質問を用意する。 復習：講義プリント№1の内容を整理し、例題を解きなおす。
第2回	中国古代史の重要概念① 天下・革命・災異 予習：天下・革命・災異について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№2の内容を整理し、例題を解きなおす。
第3回	中国古代史の重要概念② 礼法・公私 予習：礼法・公私について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№3の内容を整理し、例題を解きなおす。
第4回	中国古代史の重要概念③ 封建・郡県・君臣 予習：封建・郡県・君臣について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№4の内容を整理し、例題を解きなおす。
第5回	1/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№1～4の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：中国古代史の重要概念について整理する。
第6回	戦国期① 戦国時代の概観 予習：戦国七雄・変法運動・鉄製農具の普及について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№6の内容を整理し、例題を解きなおす。

回数	内容
第7回	戦国期② 前期から中期 予習：桂陵の戦い・馬陵の戦いについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№7の内容を整理し、例題を解きなおす。
第8回	戦国期③ 中期から後期 予習：商鞅・済水西の戦い・長平の戦いについて調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№8の内容を整理し、例題を解きなおす。
第9回	秦帝国 予習：始皇帝・秦末の争乱・楚漢戦争について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№9の内容を整理し、例題を解きなおす。
第10回	2/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№6～9の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：戦国期・秦帝国について整理する。
第11回	前漢帝国① 漢初の時代 予習：劉邦・呂后・呉楚七国の乱について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№11の内容を整理し、例題を解きなおす。
第12回	前漢帝国② 武帝の時代 予習：武帝・推恩の令・馬邑の役について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№12の内容を整理し、例題を解きなおす。
第13回	前漢帝国③ 武帝後の時代 予習：塩鉄論について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№13の内容を整理し、例題を解きなおす。
第14回	王莽期 予習：王莽について調査し、質問を用意する。 復習：講義プリント№14の内容を整理し、例題を解きなおす。
第15回	3/3まとめ / 解説文作成・提出 予習：講義プリント№11～14の内容を整理し、解説文作成にそなえる。 復習：前漢帝国・王莽期について整理する。

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。※「授業計画」欄参照

復習：配布した講義プリントの内容を整理し、例題を解きなおす。※「授業計画」欄参照

教科書

指定教科書なし。毎回、担当者が講義プリントをテキストとして配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

コンピュータリテラシ（A）（99501）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWebの活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点60%（到達目標1～4を評価）と授業中に指示する課題40%（到達目標2～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェクト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Webの活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Webの活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

Literature

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「人間の本质を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。

英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。

もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。

限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたいが、前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

毎回の授業での小レポート 30% (到達目標1・4)

中間テスト 30% (到達目標1～4)

定期テスト 40% (到達目標1～4)

小レポートや中間テスト（希望者は定期テスト）を採点・添削・解説することでフィードバックとしている

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。

情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいとわず取り組んでもらいたい。

遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。

1回目の授業を聞き逃すと概要がわからないまま小レポートを作成することになり不利になるので、履修を迷っている場合でも1回目は参加してから検討してほしい。

1回目も欠席した場合は欠席とカウントする。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・スティーブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ

回数	内容
第11回	アーウィン・ショー
第12回	バーナード・マラマッド
第13回	J. D. サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・ 毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・ より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・ 可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。Google Classroomでもプリントを公開しているので、欠席等やむを得ない場合は各自利用のこと。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

コンピュータリテラシ（B）（99503）

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	28～22 W,W,W
単位数	2.0単位
担当教員	渡谷真吾

授業の概要

文字入力、オフィスソフトの利用、メールやWebの活用といった情報機器の基本利用技術を広く学習する。

大学での学びの基礎となる資質能力を身につけることを目的とする授業科目。

到達目標

- 「筆記速度と同等程度以上の速度で文字入力ができるようになる。」
- 「エンドユーザとして不自由なく情報機器の操作ができるようになる。」
- 「レポートの作成等に必要な技能を身につける。」
- 「メールや Google Classroom を利用してレポート等の課題を提出できるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への取り組み状況などの平常点60%（到達目標1～4を評価）と授業中に指示する課題40%（到達目標2～4を評価）により評価する。

注意事項

授業を欠席する（した）場合は、どんな些細な理由であっても必ず欠席の届けを提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	情報機器の基本操作、メールと Google Classroom
第2回	キーボードとタイプの基礎
第3回	英字タイプ
第4回	ローマ字タイプ
第5回	日本語の入力
第6回	日本語ワードプロセッサ（1）ページレイアウトと入力
第7回	日本語ワードプロセッサ（2）書式の設定と印刷
第8回	日本語ワードプロセッサ（3）表と罫線、その他のオブジェクト
第9回	表計算（1）入力と集計
第10回	表計算（2）計算・関数の利用と書式設定
第11回	Webの活用（1）文書・画像とオフィスソフト・ツール
第12回	Webの活用（2）表と表計算・グラフ
第13回	日本語ワードプロセッサと表計算の連携
第14回	プレゼンテーションソフトの利用
第15回	レポートの完成とメールでの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

PCで作業をするときはタイプ練習をすること。

授業中に終わらなかった例題、授業時に指示した課題に取り組むこと。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

授業では大学ポータルと同じユーザー名・パスワードを利用するので、利用できるよう準備しておくこと。

授業で作成するファイルを保存するためのUSBメモリを準備しておくこと。

マスコミ論 (99504)

前期

Theory of the Mass Media

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	濱家輝雄

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

多メディアの時代において「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代比へ情報が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

1. 政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへの感度を高め説明できる。
2. マスコミ情報に対する判断力（メディアリテラシー）の基礎を身に付け説明できる。

評価方法

レポート課題等40%（主に到達目標1を評価）、定期試験60%（主に到達目標2を評価）の割合で評価する。

注意事項

この科目は、教室の収容定員を超えるとときに履修者数の制限をすることがあります。その場合、たとえば学年を条件とした制限などをおこないますので留意してください。

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画1 : マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画2 : 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画3 : 近代新聞の成立－明治初期
- 授業計画4 : 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画5 : 明治30年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画6 : 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画7 : 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画8 : 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画9 : 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画10 : 第2次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画11 : これからの新聞の使命と将来
- 授業計画12 : 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画13 : 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画14 : 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画15 : マスコミのあるべき姿と将来－総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。
- ・メディアからのニュースに関するレポート課題がある。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

備考

マスコミ論 (99506)

後期

Theory of the Mass Media

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	濱家輝雄

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

多メディアの時代において「マスコミ」の社会的責任は重大であり影響力も大きい。新聞・テレビ・雑誌・ラジオというメディアにインターネットも加わり、これまでの時代比へ情報量が氾濫し過密化している。正しい情報・必要な情報を選択する能力～メディアリテラシーを自分のものとするための方法論を考察しながら、夫々の「マスコミ」の現状分析・過去の歴史、そして将来のマスコミの有り方について講義を進め、マスメディアのコンプライアンスとは？言論・表現の自由とは？などマスメディアと向き合う基本的な能力の育成を目的としている。

到達目標

1. 政治・経済・文化・スポーツ・芸能・一般ニュースへの感度を高め説明できる。
2. マスコミ情報に対する判断力（メディアリテラシー）の基礎を身に付け説明できる。

評価方法

レポート課題等40%（主に到達目標1を評価）、定期試験60%（主に到達目標2を評価）の割合で評価する。

注意事項

必ず前期登録期間中に履修登録をしてください。後期での新規の登録追加はできません。

この科目は、教室の収容定員を超えると履修者数の制限をすることがあります。その場合、たとえば学年を条件とした制限などをおこないますので留意してください。

社会人基礎力であるコミュニケーション能力にも繋がるので、日々のニュースにアンテナを持ち、一般教養を高める意識を持って履修すること。

授業計画

- 授業計画1 : マスコミ学概論・多メディア多チャンネルの時代～情報の氾濫
- 授業計画2 : 新聞の誕生から近代新聞のはじまり
- 授業計画3 : 近代新聞の成立－明治初期
- 授業計画4 : 近代新聞・報道新聞へのあゆみ
- 授業計画5 : 明治30年代以後～商業新聞の成立
- 授業計画6 : 大正期の新聞～言論・報道機関の確立
- 授業計画7 : 大正デモクラシーと新聞
- 授業計画8 : 昭和初期からのマスコミの時代最盛期
- 授業計画9 : 言論統制への道～軍部の台頭と終焉
- 授業計画10 : 第2次大戦後の新聞～民主化と新聞復興
- 授業計画11 : これからの新聞の使命と将来
- 授業計画12 : 新聞と放送のジャーナリズム
- 授業計画13 : 放送局の役割りとコンプライアンス（法令遵守）
- 授業計画14 : 日本の放送ネットワークとローカル局（番組と広告）
- 授業計画15 : マスコミのあるべき姿と将来－総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・日常的にマスコミが発信する情報を新聞やテレビのニュースなどでチェックし、時事用語などの意味を調べて理解しておくこと。
- ・メディアからのニュースに関するレポート課題がある。

教科書

使用しない。

参考書

講義中に適宜資料を配布する。

備考

Literature

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	江原雅江

授業の概要

教養科目のうち「人間の本质を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

読書離れの進む日本人をはじめとした学生に、文学の楽しみや効用を理解させる実践的な内容とする。

英米の小説を中心に、作家の概要や背景を紹介し、実際に翻訳で作品に触れることにより、その魅力を見出してもらいたい。

もともとは英語で書かれた作品であるので、日本語のみならず、原文にも触れる予定である。

限りがある時間の中でできるだけ多くの作品に触れてもらいたいが、前半は英国関連の小説、後半は米国でもほとんどがユダヤ系の作家による短編小説を扱うこととなる。

到達目標

- 1 生年順で紹介される英米作家のおいたちなどを知り、歴史や時代風潮を意識する。
- 2 他の言語で描かれた世界観に親しみ、異なった文化や宗教・思想を理解する。
- 3 英米の小説家や小説に触れ、教養として今後の学生・社会生活に活かせるようになる。
- 4 自分の分析や主張をデータ・根拠を取り入れながら論理的に記述できるようになる。

評価方法

毎回の授業での小レポート 30% (到達目標1・4)

中間テスト 30% (到達目標1～4)

定期テスト 40% (到達目標1～4)

小レポートや中間テスト（希望者は定期テスト）を採点・添削・解説することでフィードバックとしている

注意事項

積極的に文章を読み、書くことが問われる授業である。

情報化社会の中で、手軽に知ること慣れている中で、「考えること」をいとわず取り組んでもらいたい。

遅刻は本人のみならず、他の学生の迷惑になるので、小レポートの用紙を始業チャイムと同時に配布している。減点対象とならぬよう、時間を守って参加すること。

1回目の授業を聞き逃すと概要がわからないまま小レポートを作成することになり不利になるので、履修を迷っている場合でも1回目は参加してから検討してほしい。

1回目も欠席した場合は欠席とカウントする。

授業計画

回数	内容
第1回	授業概要・自己紹介
第2回	メアリー・シェリー
第3回	チャールズ・ディケンズ
第4回	ヘンリー・ジェイムズ
第5回	ロバート・スティーブンソン
第6回	オスカー・ワイルド
第7回	キャサリン・マンスフィールド
第8回	中間まとめ
第9回	アンジア・イージアスカ
第10回	ヘミングウェイ

回数	内容
第11回	アーウィン・ショー
第12回	バーナード・マラマッド
第13回	J. D. サリンジャー
第14回	ポール・オースター
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 毎回次回に扱う作家の翻訳プリントを配布するので、3色ペンを用いながら自分なりに解釈しておく。
- ・ 毎回の授業に扱う用語を復習し、文章化して説明できるようにしておく。
- ・ より興味をもてる作家の中から早い時期に1冊を選び読み進めておく。
- ・ 可能ならば翻訳だけでなく、原作（英語多読用リトールドでも可）にも取り組んでみる。

教科書

毎回プリントを配布する。Google Classroomでもプリントを公開しているので、欠席等やむを得ない場合は各自利用のこと。

参考書

関連の翻訳書（定期テストで1冊は読むことを課している）、原書、本学図書館の多読用英語e-bookなど

備考

まちづくりインターンシップ（99601）

前期

Internship of Community Development

教養科目

年次	2年
対象	27～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群の1つにあたる。

まちづくりや地域振興に関わる団体・NPO法人等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、高梁川流域の企業等を紹介する「龍の仕事展」を受け入れ先とするD-INTERNSHIPに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験をとおして、地域における課題に直面し、活性化の方策を探り、その成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。

「龍の仕事展」は倉敷アイビースクエア（倉敷市本町7-2）、前後の研修は吉備国際大学岡山キャンパス（岡山市北区奥田西町5-5）において実施予定である。

本科目は、「くらしき若衆」の認定（27生以前対象）に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

【実務経験のある教員による授業科目】地元のものづくり企業約30社が参加する「龍の仕事展」におけるインターンシップをおこなうとともに、事前研修・企業研修・中間研修・直前研修・成果発表といった一連のD-INTERNSHIPプログラムにおいて、地元企業の代表取締役（人事・研修部署経験）、ビジネスマナー研修講師等の実務家（講師）により、実践的な指導をおこなう。

到達目標

- 1.インターンシップの意義について理解し、主体的に活動計画を立案できる。
- 2.インターンシップの活動を通じて、課題発見力・課題解決力を身につける。
- 3.インターンシップの活動を通じて、自己啓発力・自己教育力を身につける。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

第01・02回の提出物の状況・内容（10%）：到達目標1を評価

第03～14回の研修の取りくみ状況・内容（30%）：到達目標2・3を評価

第15～29回の活動の取りくみ状況・内容（40%）：到達目標2・3を評価

第30回の発表準備の状況・内容（20%）：到達目標2・3・4を評価

注意事項

科目「倉敷と仕事（1年必修）」のほか、「倉敷まちづくり基礎論（1年選択）」「倉敷まちづくり実践論（1年選択）」を履修していることが望ましい。

単位修得は、D-INTERNSHIPへの参加が前提となっているので、下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。

4/25日（履修確認期間終了日）までのあいだに、科目担当者から履修登録者に対し、D-INTERNSHIP参加にかんする意思と可能性を確認するメールを複数回送信する。

「龍の仕事展」および前後の研修の各会場（上記）への交通費は自己負担である。

授業計画

01.科目概要ガイダンス【4/18月～4/25月・オンライン】

※期間中、Google classroomに提示された課題に取りくむ。

02.D-INTERNSHIP申し込み【5/6金～6/13月・D-INTERNSHIPのHP】

※申し込みフォーマット記入に必要な自己省察をおこなったうえで、期間内にHP上でみずから申し込む。

03～05.事前研修【6/19日・6/26日・7/3日・吉備国際大学岡山キャンパス】

※地域貢献のあり方を学び、D-INTERNSHIPへの参加意義を確認したうえで、企業研修をするために必要なマナーやコミュニケーションの基礎を身につける。

06～08.企業研修【7/1金～9/2金の期間内・担当企業】

※期間中、3回以上の企業訪問などによって「龍の仕事展」での課題と達成目標の共有、企業への提案をおこなう。

09～11.中間研修【7/31日または8/7日・吉備国際大学岡山キャンパス】

※企業研修の進捗状況の報告・連絡・相談をおこない、企業と共有した課題とみずからの提案、達成目標を確認しあい、企業研修のブラッシュアップをはかる。

12～14.直前研修【8/28日・吉備国際大学岡山キャンパス】

※相互の活動内容を理解して、会場全体の一体感をだすために連携をはかる。

15～29.PDCA実践【9/3土～9/11日・倉敷アイビースクエア】

※「龍の仕事展」開催中、7日以上会場で活動し、朝夕のミーティングをとおして、目標・対策・反省・改善案等を発表するなどPDCAサイクルを回し、目標達成をめざす。

30.成果発表準備【9/12月～・オンライン】

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

第01・02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第03～14回の各研修の前後、解決が必要な課題に取りくむ。

第30回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

地域貢献実践(芸術) (99602)

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3年
対象	26～21芸
単位数	1.0単位
担当教員	大屋努

授業の概要

教養科目のうち、DP「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とし、地域の課題解決に向けて主体的に学ぶ態度や姿勢を育成する科目である。地域の資源と課題を発見・分析・検討し、主体的に解決策を立案・実践し、地域ニーズに対する自律的な問題解決能力の獲得を目標とする。本科目は「くらしき若衆」の認定（27生以前対象）に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】

問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】

プレゼンテーションに対し講評やレビューなどを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 地域の抱える課題を発見・分析することができる。
- 2 地域課題の解決策を立案・実践することができる。
- 3 課題解決に向けた成果を評価する能力を身に付ける。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の「3. 地域社会の構成員として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応して、まちづくりリーダーの育成を目標に設定している。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢（70%）、活動の成果（30%）に基づいて総合的に評価する。

到達目標1と2は授業に取り組む態度・姿勢から、到達目標3は活動の成果により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・達成度を多面的に評価するルーブリック（達成水準を明確化した評価資料）の提出を求める。
- ・地域行事の都合等により日程や内容を変更することがある。

授業計画

01 [4月14日(木) 6時限] 22-4230

- ・ガイダンス（※履修者は必ず出席すること）

02 [4月28日(木) 6時限] 22-4230

- ・調査

03 [5月12日(木) 6時限] 22-4230

- ・企画

04 [5月26日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

05 [6月9日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

06 [6月23日(木) 6時限] 22-4230

- ・制作

07 [7月7日(木) 6時限] 22-4230

・制作

08 [7月21日(木) 6時限] 22-4230

・制作

09～10 [8月9日(火) 3～4時限] 22-4230

・準備

11～14 [9月2日(金) 1～4時限] 学外実習(真備)

・地域での実践活動

15 [9月13日(火) 3時限] 22-4230

・実践活動のレビュー、提案等

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

・授業時間外に実践活動や準備を行う。

教科書

教科書を使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

特になし

地域貢献実践（生命）（99604）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3年
対象	26～21生
単位数	1.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

まちづくりや地域振興に関わる団体等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、倉敷市役所を受け入れ先とするインターンシップに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、まず地域課題を発見・理解・分析し、つぎに解決策を他者と協働して立案・実践し、さらに成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。なお、その他の受け入れ先におけるインターンシップに参加することもできる。

本科目は、「くらしき若衆」の認定（27生以前対象）に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

1. 地域課題を発見・理解・分析できる。
2. 地域課題の解決策を立案できる。
3. 地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
4. 明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

インターンシップ活動記録の状況・内容（40%）：到達目標1・2・3を評価

中間報告①の状況・内容（15%）：到達目標1・4を評価

中間報告②の状況・内容（15%）：到達目標2・4を評価

成果発表の状況・内容（30%）：到達目標3・4を評価

注意事項

必修科目「倉敷と仕事」のほか、選択科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

授業計画

01. 科目概要ガイダンス【5/9月～・オンライン】
※期間中、Google classroomに提示された課題に取りくむ。
02. インターンシップの基礎【5/16月～・オンライン】
※インターンシップ申し込み・マッチング（例：倉敷市役所 5月下旬～6月中旬）
03. 事前指導【6/13月～・オンライン】
- 04・05. インターンシップ実践①（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
06. 中間報告①【6月中旬～】
- 07・08. インターンシップ実践②（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 6時間以上）
09. 中間報告②【7月上旬～】
- 10～12. インターンシップ実践③（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
13. 成果発表資料作成【7/18月～】
14. 成果発表【7/25月～】
15. 成果の共有・フィードバック・総括【8/1月～】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

第02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

地域貢献実践（危機）（99606）

前期

Practical Course for Regional Contribution

教養科目

年次	3年
対象	26～23危
単位数	1.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

まちづくりや地域振興に関わる団体等におけるインターンシップ活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。

おもに、倉敷市役所を受け入れ先とするインターンシップに参加し、まちづくりや地域振興に関連した職務体験を通して、まず地域課題を発見・理解・分析し、つぎに解決策を他者と協働して立案・実践し、さらに成果をまとめて報告するという一連の学修に取りくむ。なお、その他の受け入れ先におけるインターンシップに参加することもできる。

本科目は、「くらしき若衆」の認定（27生以前対象）に必要な選択科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

1. 地域課題を発見・理解・分析できる。
2. 地域課題の解決策を立案できる。
3. 地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
4. 明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。

インターンシップ活動記録の状況・内容（40%）：到達目標1・2・3を評価

中間報告①の状況・内容（15%）：到達目標1・4を評価

中間報告②の状況・内容（15%）：到達目標2・4を評価

成果発表の状況・内容（30%）：到達目標3・4を評価

注意事項

科目「倉敷と仕事（1年必修）」のほか、「倉敷まちづくり基礎論（1年選択）」「倉敷まちづくり実践論（1年選択）」を履修していることが望ましい。

授業計画

01. 科目概要ガイダンス【5/9月～・オンライン】
※期間中、Google classroomに提示された課題に取りくむ。
02. インターンシップの基礎【5/16月～・オンライン】
※インターンシップ申し込み・マッチング（例：倉敷市役所 5月下旬～6月中旬）
03. 事前指導【6/13月～・オンライン】
- 04・05. インターンシップ実践①（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
06. 中間報告①【6月中旬～】
- 07・08. インターンシップ実践②（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 6時間以上）
09. 中間報告②【7月上旬～】
- 10～12. インターンシップ実践③（例：倉敷市役所 6月中旬～7月上旬 / 4時間以上）
13. 成果発表資料作成【7/18月～】
14. 成果発表【7/25月～】
15. 成果の共有・フィードバック・総括【8/1月～】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

第02回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。

第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

倉敷まちづくり実践論（99651）

後期

Practice of Kurashiki Community Development

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。倉敷市などのまちづくりを題材としながら、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。第1～3回で、本科目の地域連携科目としての位置づけや、倉敷のまちづくりについて確認したうえで、地域フィールドワークの方法をまなび、その計画を作成する。第4～6回で、みずからの計画に沿って、倉敷市内の地域・施設・行事などを対象として地域フィールドワークを実践する。第7～9回で、実践した地域フィールドワークの成果について、報告・共有をおこなう。第10～12回で、地域フィールドワークを再度実践し、まちづくり提言を作成する。第13～15回で、作成したまちづくり提言の発表をおこなう。

【アクティブラーニング】PBL、フィールドワーク、プレゼンテーションを取りいれている。
【フィードバック】各自の提出物・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域フィールドワークについて適切に理解し、主体的に計画できる。
- 2.計画に沿った地域フィールドワークを積極的に実践できる。
- 3.地域フィールドワークの成果をふまえ、独自のまちづくり提言を作成できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。
地域フィールドワーク計画の状況・内容（30%）：到達目標1・4を評価
地域フィールドワーク報告の状況・内容（30%）：到達目標2・4を評価
まちづくり提言の状況・内容（40%）：到達目標3・4を評価

注意事項

前期科目「倉敷まちづくり基礎論」を履修していることが望ましい。
10/8土・12/3土・1/7土にすべて参加し、その間におこなうフィールドワークについて説明をうけることが、単位修得の前提となるので、下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。（例：10/8土に参加できないと、第01～03回にくわえて第04～06回も不参加となる。下記授業計画参照）

授業計画

- 01.科目概要ガイダンス【10/8土・3限目】
- 02.倉敷のまちづくりについて【10/8土・4限目】
- 03.地域フィールドワーク計画の作成・提出【10/8土・5限目】
- 04～06.地域フィールドワークの実践①【期間：10/9日～12/2金】
- 07.地域フィールドワークについて【12/3土・3限目】
- 08.地域フィールドワーク報告・前半【12/3土・4限目】
- 09.地域フィールドワーク報告・後半【12/3土・5限目】
- 10～12.地域フィールドワークの実践②【期間：12/4日～1/6金】
- 13.まちづくり提言について【1/7土・3限目】
- 14.まちづくり提言発表・前半【1/7土・4限目】
- 15.まちづくり提言発表・後半【1/7土・5限目】

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
地域フィールドワークの計画・報告、およびまちづくり提言について、内容・発表資料の見直しを随時おこない、必要に応じて担当教員に相談し指導を受けること。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

若衆実践演習（99652）

前期

Development of Regional Leader

教養科目

年次	3年
対象	26～21芸,生,危
単位数	1.0単位
担当教員	橋元純也

授業の概要

教養科目のうち、「地域社会の構成員として活躍できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。まちづくりや地域振興にかかわる主体的活動を通じて、地域社会の自立した構成員として、まちづくりや文化活動等の分野で率先して活躍・貢献するために必要となる実践的な意識・知識・能力を育成することを目的とする。ほかの教養科目「地域連携・キャリア教育科目」をはじめとするこれまでの地域学修の内容をふまえ、地域課題を発見・理解・分析し、解決策を他者と協働して立案・実践し、成果をまとめて報告するという一連の活動に取りくむ。D-INTERNSHIP「成果発表」「事後研修」「最終成果発表」への参加経験をふまえた活動もふくむ。本科目は、「くらしき若衆（中老・宿老）」の認定（27生以前対象）に必要な科目である。

【アクティブ・ラーニング】PBL、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】各自の報告・プレゼンテーションの内容について、その優れた点や改善を要する点などを全員で共有する機会をもうける。

到達目標

- 1.地域課題を発見・理解・分析できる。
- 2.地域課題の解決策を立案できる。
- 3.地域課題の解決策を他者と協働して実践できる。
- 4.明快なプレゼンテーション資料を作成し、効果的に発表できる。

評価方法

提出物や取りくみの状況・内容（100%）を以下のように評価し、総合計60点以上を合格とする。
実践活動記録の状況・内容（40%）：到達目標1・2・3を評価
※D-INTERNSHIP「成果発表」「事後研修」「最終成果発表」の活動歴も評価する。
中間報告①の状況・内容（15%）：到達目標1・4を評価
中間報告②の状況・内容（15%）：到達目標2・4を評価
成果発表の状況・内容（30%）：到達目標3・4を評価

注意事項

必修科目「倉敷と仕事」のほか、選択科目「倉敷まちづくり基礎論」「倉敷まちづくり実践論」を履修していることが望ましい。

授業計画

- 01.科目概要ガイダンス【8/10水・3限目】
- 02.実践活動の概要【8/10水・4限目】
- 03.実践活動の事前指導【8/10水・5限目】
- 04・05.実践活動①（8月中旬～9月上旬／4時間以上）
- 06.中間報告①【9月上旬】
- 07・08.実践活動②（9月上旬～9月中旬／4時間以上）
- 09.中間報告②【9月中旬】
- 10～12.実践活動③（9月中旬～9月上旬／6時間以上）
- 13.成果発表資料作成【9/20火・3限目】
- 14.成果発表【9/20火・4限目】
- 15.成果の共有・フィードバック・総括【9/20火・5限目】

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

- 第03回の授業後、必要な準備・手続きについて整理・調査する。
第06回の授業前、中間報告①について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。
第09回の授業前、中間報告②について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。
第14回の授業前、成果発表について、内容・発表資料の見直しを随時おこなって準備する。

教科書

指定教科書なし。毎回、資料を配布する。

参考書

授業中に必要に応じて示す。

備考

Career Learning

教養科目

年次	2年
対象	27～21芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	芦田雅子 渡谷真吾

授業の概要

専門的知識や教養を備え、豊かな創造性を養い、地域社会の構成員として活躍できる能力を身につける科目である。

特に、地域や民間企業が抱える課題を解決し、実社会で個々の能力を活かすための体験を通じて学習する実践体験型科目である。

授業においては以下のステップで学ぶ。

- ① キャリアと働き方についての理解（座学）
- ② 企業や団体が抱える課題の理解（座学、見学を含む）
- ③ グループワーク（課題解決に向けたチームワーク）
- ④ プレゼンテーション（ディベートと振り返り）
- ⑤ 最終発表

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。(PBL、課題解決型授業)

【フィードバック】キャリア理論に基づくワークシートやレポートなどの提出を義務付け、それらに対してフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

本学「ディプロマ・ポリシー」の「地域社会の構成員として、専門性を活かした職業人として、まちづくりや文化活動の分野で率先して活躍できる力量を有していること」に対応した目標を設定している。

- 1.ディプロマ・ポリシーを理解し、社会で活躍できる知識やスキルの習得する。
- 2.感性豊かな表現力・創造的思考力を身につける。
- 3.他者との協調・協働ができる。
- 4.プレゼンテーションについて学び、自己を表現できる。

評価方法

- ① 提出物 60%（到達目標1・2・3・4を評価）
- ② プレゼンテーション 20%（到達目標1・2・3・4を評価）
- ③ 授業への取り組み 20%（到達目標1・2・3・4を評価）

注意事項

- ・グループワークにおいては、他者との協調・協働作業を円滑に進めるために努力すること。
- ・各自の専門性を活かした成果物に期待する。
- ・留学生は日本でキャリア形成を希望することを前提とし、日本語でプレゼンテーションが可能な学生を対象とする。（N1程度）
- ・外部関係者と接するときに基本的なマナーを励行すること。
- ・パソコンを使用することを想定して、教室変更に注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 ガイダンス（社会人基礎力について）外部講師1名を招聘
第2回	第2回 企業とのマッチング（ヒアリング）外部講師3名を招聘
第3回	第3回 課題の把握（グループワーク）
第4回	第4回 PBLの知識について（座学）外部講師1名を招聘
第5回	第5回 解決策の検討（グループワーク）
第6回	第6回 解決策の検討（中間報告一回目）外部講師2名を招聘（企業を含）
第7回	第7回 現地調査（不可能な場合はオンライン等で実施する）
第8回	第8回 解決策の検討（グループワーク）
第9回	第9回 解決策の検討（中間報告二回目）

回数	内容
第10回	第10回 プレゼンテーション理論と演習（座学）外部講師1名を招聘
第11回	第11回 提案内容のまとめ（グループワーク）
第12回	第12回 プレゼンテーション資料作成（グループワーク）
第13回	第13回 模擬プレゼンテーション（発表練習）
第14回	第14回 プレゼンテーション（最終発表、講評）外部講師3名を招聘
第15回	第15回 総括

授業外学習

学習時間の目安：各回4時間、合計60時間

予習：とりあげる重要事項について事前調査し、質問を用意する。

復習：配布資料等の内容を整理する。プレゼンテーション準備のための協働作業をする。

教科書

教科書は使用しない。その都度資料やプリントを配布する。

参考書

参考書は使用しないが、図書館などでキャリア系の本を読んで勉強することが望ましい。

備考

特記なし。

日本の伝統芸能（99654）

前期

Japanese Traditional Performing Arts

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	吾妻寛穂

授業の概要

教養科目のうち、「人間の本质を理解し、人間性を尊重できる」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。
日本の伝統芸能の日本舞踊と篠笛をとりあげ、成り立ちと歴史、隣接領域（歌舞伎・能・狂言等）との関連性、基本的技法と表現、舞踊音楽および作品に関しての内容を理解させるとともに、実技指導を通して日本舞踊にみられる日本人の礼儀と作法を学ばせる。

【実務経験のある教員による授業科目】全日程にわたり日本舞踊吾妻流師範による実技指導をおこなう。

到達目標

- 授業で取り上げる日本の舞踊について基本的なことを理解し説明できる。
- 日本の舞踊を通して礼儀作法を身につけ実践できる。

評価方法

授業における実践および実技試験80%（到達目標2を評価）、レポート20%（到達目標1-2を評価）の割合で評価する。60点以上を合格とする。

注意事項

- この科目は、履修者数の制限をすることがあります。その場合、たとえば学年を条件とした制限などをおこないますので留意してください。
- 授業前レポートと授業終レポートの提出および4日間すべての授業参加が、単位認定の前提となります。下記日程をよく確認したうえで履修登録すること。
 - 篠笛は販売します。（約1,800円）
 - 足袋は毎回必ず持参すること。
 - 浴衣を準備するのが望ましい。
 - 舞扇は貸出します。
- ※以下の項目に変更がある場合連絡します
- 集中講義日程（4日間）は、6月4日（土）、6月5日（日）、6月11日（土）、6月12日（日）の予定です。
 - ヘルスパイア倉敷で行う予定。（現地集合・現地解散）

授業計画

回数	内容
第1回	授業内容の説明、日本舞踊の成り立ちと歴史
第2回	隣接領域（歌舞伎・能・狂言・文楽等）との関連性およびその紹介
第3回	日本舞踊の基本的技法（1）
第4回	日本舞踊の基本的技法（2）
第5回	浴衣の着付けと礼儀作法
第6回	日本舞踊の表現（1）
第7回	日本舞踊の表現（2）
第8回	日本舞踊の鑑賞（ビデオ使用）
第9回	日本舞踊と音楽
第10回	日本舞踊の創作
第11回	篠笛の基本操作（1）運指表と楽譜
第12回	篠笛の基本操作（2）指使い
第13回	篠笛の基本操作（3）演奏（1）

回数	内容
第14回	篠笛の基本操作（4）演奏（2）
第15回	まとめ、実技試験

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・授業前レポート

日本舞踊と篠笛について調べた内容を1200字程度のレポートにまとめて提出する。（提出期限5月末）

・授業期間中

舞扇の扱い方、篠笛の基本操作、浴衣の着付けの仕方をよく復習しておくこと。

・授業後レポート

内容は授業中に指示する。

教科書

授業内容に応じて、資料を配付する。

参考書

参考文献については、適宜紹介する。

備考

（なし）

Japanese Political System

教養科目

年次	1年
対象	28～17芸,生,危
単位数	2.0単位
担当教員	👤 時任英人

授業の概要

教養科目のうち、「社会との関わりを認識し、論理的・批判的思考力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

政治学が直面する諸問題の解決に向けて主体的態度や姿勢を学ぶ科目である。それゆえ本講義では、政治的思考を異にする多くの人達の思想と行動について理解を深め日本と世界が直面する日々の諸問題に関する自らの思考を創出し、自律的に社会で自ら考えて行動できる視点を身につけるのが重要である。

これからどんな地域で生活しようとも自分を取り巻く情勢についての理解を持ち、その地域が直面する諸問題について周りの人たちに説明できその解決法を政治的に創出し、地域にとって必要とされる社会人の育成を目的としている。

【アクティブラーニング】グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。

【フィードバック】レポートに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 政治的現象の一つ一つがどのような意義を有するかを理解できる。
- 2 日々の政治現象を理解するうえでの政治的思考ができる。
- 3 日々の政治的事件を新聞やニュースで理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1を評価）、レポート30%（到達目標1、3を評価）、定期試験50%（到達目標1、2、3を評価）によって成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

日々の新聞を読むことは義務であり、定期的に新聞・ニュースの内容を整理して発表してもらうことにする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（政治とは何か？）
第2回	政治の諸相とモデル
第3回	自由民主主義体制と非自由民主主義体制
第4回	政治と福祉
第5回	国民代表と利益代表の政治過程
第6回	政策過程
第7回	政党政治と政党制
第8回	近年の政党制の変化
第9回	政治文化とイデオロギー
第10回	主権国家と地方自治
第11回	国際政治の歴史－近代から21世紀の紛争へ－
第12回	核兵器の登場と現状
第13回	グローバリゼーションと日本の「失われた20年」
第14回	プレゼンテーション
第15回	総まとめ(反実仮想の勧め)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 授業内容を復習し、次回の講義の内容について関連する専門用語を調べて理解しておくこと。
 - ・ 講義の最後には、理解した内容について、100字ほどのレポートを出題する。
 - ・ 全体として4000字程度のレポートを出題するので、講義の全体的な流れを、復習しておくこと。
-

教科書

加茂 利男, 大西 仁他『現代政治学 第4版』(有斐閣)

参考書

講義で適宜紹介する。

備考

コンピュータリテラシ (99656)

前期

Computer Literacy

教養科目

年次	1年
対象	27～22K
単位数	2.0単位
担当教員	👤 ブラダンスジツト

授業の概要

教養科目のうち、「大学での学びの基礎となる資質能力を身につける」ことを目的とする科目群のひとつにあたる。

日常で利用しているコンピュータ・ネットワークに関する知識・操作を学び、今後の学習・研究において役立てることを目標とする。文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を体系的に学ぶ。収集した情報を取捨選択した後、必要に応じて加工する情報活用する方法を習得し、短時間で効率的に資料作成ができるようになる。

【アクティブラーニング】

授業の後半では、レポートの問題点と改善点、プレゼンテーション資料の問題点・改善点の3つの課題についてグループ内で意見をまとめて表する演習を行います。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、GoogleClassroomを活用して、課題をGoogleClassroomを通して提示し、提出してもらいます。

到達目標

1. コンピュータを操作して、データ入力などを速やかに完了する
2. コンピュータの性能把握と環境について調査し、利用したいソフトウェアの準備・導入ができる。また、簡単なトラブルであれば、自己診断して対処する、システム管理者に説明できる。
3. インターネットを利用する際に未然にトラブルを防ぐ利用方法を身に付け学習・研究において必要な情報収集能力・取捨選択の能力を身につける。
4. 文書作成ソフトの操作を身に付け、レポート作成・研究活動において自らの考えや成果について電子媒体を用いて効果的に連携・発信できるようになる。
5. 表計算ソフトの操作について理解・習得することで今後の学習・研究に必要なデータの分析、他人にわかりやすいデータの提示・表現ができるようになる。
6. プレゼンテーションソフトの操作方法を通して、スライド作成技術を身に付ける。プレゼンテーションにおいて効果的な技術を理解し使えるようになる。
7. 学内でコンピュータを利用するにあたって、基本的なセキュリティ対策を理解し、コンピューターウイルスに感染した場合の基本的な対処方法や利用にあたり気を付けることなどを理解している。
8. 画像・動画などのコンテンツを作成・利用する際に気をつけるべき知的財産権と保護について説明できるようになる。

評価方法

期末定期試験は実施しない。

授業外学習として指示する実習・課題レポートの提出状況：50%(到達目標1,4,5,6)

授業時間中に実施する小テスト：25%(到達目標2,7,8)

グループワーク・プレゼンテーションの実施状況：25%(到達目標3,6,8)

注意事項

特になし。

手元にデータを保存しておきたければ、USBメモリ(容量は数GB程度あればよい)を持参

授業計画

1. コンピュータの構造と基本操作、GoogleClassRoomの使い方(1)
2. インターネット概論とタイピング、GoogleClassRoomの使い方(2)
3. インターネットの活用 インターネットの基本知識と利用マナー
4. セキュリティと情報倫理、サイバー犯罪、コンピューターウイルスとセキュリティ
5. Word(1)文書入力
6. Word(2)表現力を向上させよう
7. Word(3)長文の編集と校閲機能、レポートの問題点と改善点について
8. Excel(1)データ入力とワークシート編集
9. Excel(2)データベースの活用
10. Excel(3)関数の使い方と表示形式、条件付き書式
11. Excel(4)ピボットテーブル、表とグラフの問題点・改善点

12. PowerPoint(1)基本操作とプレゼンテーションの基礎知識
 13. PowerPoint(2) スライドの作成
 14. PowerPoint(3)スライドのテンプレート作成と高度な機能
 15. グループワーク結果のプレゼンテーション
-

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業前に指定テキストの操作方法、Webにある動画を確認しておく

こちらより指示した実習課題に取り組む。指示した課題については、講義の後半で提出方法を指示するので必ず提出すること

個人課題・グループ課題を出題するので必ず取り組み終わらせること

タイピングに不慣れな学生は、タイピング練習に（少なくとも10分～15分程度）に取り組むこと

教科書

情報リテラシー Windows 10・Office 2019対応

FOM出版 ISBNコード: 978-4-86510-415-8

参考書

授業中に随時紹介します

備考

実際に操作しないと身に付きませんので、本授業時間以外でも操作・活用しましょう。